

## 第4期三田市教育振興基本計画検討委員会(第1回)会議録(案)

日 時	令和7年12月19日(金) 午前9時30分から午前11時30分まで
開 催 場 所	三田市役所南分館6階601会議室
出 席 委 員	吉水委員長、仲矢副委員長、 大西委員、尾上委員、下中委員、齊藤委員、谷口委員、川原委員、藤井委員、 小山委員、山口委員、久後委員
欠 席 委 員	—
事務局出席者	加嶋教育長、山本学校教育部長、井上学校教育部次長、 久保学校教育部次長、上島子ども・未来部次長、榎本市民生活部次長、 井上教育総務課長、上野学校再編課長、西浦学校教育課長、 藤田地域クラブ推進課長、吉田教育支援課主幹、出藏教育研修所長、 宮城学校給食課長、藤田子ども育成課長、神影幼児教育振興課長、 齊藤教育総務課副課長、上仲教育総務課事務職員
傍 聴 人	—

## 《次 第》

## 1.開 会

## 2.教育長あいさつ

## 3.委員紹介

## 4.事務局職員紹介

## 5.委員長及び副委員長の選任

## 6.正副委員長あいさつ

## 7.諮 問

## 8.意見交換(フリートーク)

「これからの三田の教育に関して大切に思うこと」

## 9.議 事

(1)計画の基本的事項 資料1

(2)教育を取り巻く国や県の動向 資料2

(3)三田市の現状 資料3・資料4

(4)アンケート結果 資料5

## 10.次回予定

第2回 令和8年3月3日(火)10:00~開催予定

## 11.閉 会

※ご確認用のため、発言者の名前を記載しています。

HP 公開時、発言者は委員長、副委員長、委員の表記となります。

1. 開会あいさつ	
事務局(司会)	<p>ただいまから「第1回三田市教育振興基本計画検討委員会」を開会させていただきます。委員の皆様におかれましては、お忙しい中、お越しいただきありがとうございます。本日の司会を担当させていただきます三田市教育委員会 学校教育部次長の井上です。当会議の委員長が決定するまでの間、よろしくお願い致します。</p> <p>初めに、会議の公開についてご説明します。当委員会は、三田市情報公開条例の規定に基づいて公開させていただきます。また、傍聴につきましては、「附属機関等の会議の傍聴要綱」に基づき可能となっております。現在はお見えになっていませんが、この後いらっしゃればご入室いただくこととなります。</p> <p>本日の会議資料の確認をさせていただきます。次第、委員名簿、そして資料1～5、別冊として国・県それぞれの教育振興基本計画、令和7年度三田の教育(指導の重点)、令和7年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書(令和6年度事務対象)、事前配布済資料として「第3期さんだっ子がやき教育プラン(三田市教育振興基本計画)」の冊子がございます。当日資料として、「会議附属資料」一式。「諮問書の写し」、「委嘱状」、「座席表」を机上に置いております。ご確認お願いいたします。不足等がございますか。</p>
2. 教育長あいさつ	
事務局(司会)	それでは、開会にあたりまして、加嶋教育長よりごあいさつ申し上げます。
教育長	<p>ただいま紹介に預かりました、三田市教育長の加嶋と申します。私は今年の3月に教育長に就任させていただき、現在で9か月になります。教育振興基本計画の策定にあたり、委員の皆さまからご意見をいただきたいということでお集まりいただきました。事務局からご説明、お願いをさせていただいたところ、皆さま快諾いただき、12月の暮れというお忙しい時期ですが、お集まりいただいたこと心より感謝申し上げます。</p> <p>冒頭のご挨拶ということで、三田市の現状や概略をご紹介します。三田市は1958年(昭和33年)に市制施行され、もうすぐ70年を迎えます。面積は約210km<sup>2</sup>で東西に19.3km、南北に17.8km となっており、北には丹波篠山、南には神戸、東には宝塚や猪名川、西には加東や三木という、いわゆる兵庫五国のうち、丹波・播磨・摂津の三国の接合点がこの三田です。東西南北どちらに行くにも便利で、大事なポイントだと感じています。人口については現在10万6千人をきっており、10万5千人台を推移している状況です。ご持参いただいた「三田の教育」という緑の冊子をご覧くださいと、三田市の現状を記載しています。本教育委員会は学校教育部を所管しており、公立の小学校、中学校、特別支援</p>

学校が全部で29校あります。また、三田市立の認定こども園、幼稚園を合わせますと全部で34校園となります。園児・児童・生徒数は約8,800名、教職員は約730名となっています。人口推移につきましては、全国的に人口減となっている中で、三田市も子どもの数は減少しています。なお、冊子の43ページには各学校の敷地面積や運動場などがあり、右の44ページが人口の変化となっています。子どもの数は、最も多い平成10年度をピークに減少傾向になっています。しかしながら、三田市には恵まれた環境があると感じています。1つ目は、34校園以外に、私立の幼稚園・保育園・認定こども園、私立の中学、高等学校、県立高校・特別支援学校、そして大学、短大など多岐にわたった教育機関が三田市にあるということです。また、兵庫県立人と自然の博物館や有馬富士自然学習センター、三田市野外活動センターなどの社会教育施設もあり、教育機関との連携が近い距離でできます。2つ目は、三田は自然に恵まれており、北部の学校では地元の方の協力を得ながら、子どもたちが農地に出て三田米やウド、豆などの三田ならではの農産物を栽培する自然体験ができます。それから、3つ目は、先ほど申したようにこの教育委員会は小中学校が所管ですが、例えば幼稚園であれば市長部局である「子ども・未来部」があり、「こうみん未来塾」事業も「子ども・未来部」で担当しています。川本幸民というのは三田市で日本初のビールの醸造をされた方として有名ですが、その名前にちなんだ「こうみん未来塾」という事業は、高等学校や社会教育施設、NPOなどとの連携など、市長部局が主となり地域との連携をすすめています。美術展や絵のコンクールなどもいろいろとございますので、地域の様々な団体の力を借りて、子どもたちのニーズにあった様々な体験ができるということが、三田市の特色だと自負しています。

教育振興基本計画につきましては、教育基本法の17条2項に基づいて策定するものです。第1期を平成24年、そして第2期を平成29年、現行の第3期を令和4年に策定しており、今期が第4期となります。現在の第3期計画は、令和8年までの5か年を実施期間ということで、現在も教育施策を進めています。その間、少子化あるいは人口減少が進み、グローバル化、地球規模での課題が山積しています。そして、私たちを取り巻く環境も変化しています。最近では熊の目撃情報や、熱中症など、私たちを取り巻く様々な環境が変化するとともに、あわせて少子化が課題となっています。学校の規模についても、いわゆる小規模校が増えています。あわせて、いじめへの対応や不登校対策、部活動における地域展開など、新たな学校運営の節目に差し掛かっていると認識しています。市の財政も厳しい状況ですが、何とか未来に活躍する子どもたちを育成したいという想いで、今回の第4期教育振興基本計画の策定に向けて取り組んでまいりたいと考えています。

この計画策定にあたって、私の方から3つのお願いがございます。1つ目は、これから三田市の現状をご説明いたしますが、三田市ならではの振興計画、三

	<p>田市だからできる、あるいは三田市ならできるのではないかと、といった計画の内容をご検討いただきたいと思います。2つ目は、実効性のあるもの。来年検討をして、令和9年度からのスタートになるかと思いますが、実効性のあるものを検討いただきたいと思います。3つ目は分かりやすさです。今回、冊子の方もできる限り市民の方にご覧いただいて、三田市の教育がこうだ、ということをお示ししたいと思っています。この3点をポイントとして、皆さまにはぜひお願いしたいと思っています。皆さまのお力をお借りし、三田の教育がより魅力的になりますように、お力添えいただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<h3>3. 委員紹介</h3>	
事務局(司会)	<p>それでは、当検討委員会にご参加をいただきます委員の皆さまをご紹介しますと思います。本来であれば各委員に自己紹介をしていただければよいのですが、後ほど、フリートークの時間も設けておりますので、事務局のほうからご紹介させていただきます。また、このご紹介を持ちまして、「委員委嘱」に代えさせていただきます。なお、委嘱状につきましては、あらかじめ席に置かせていただいておりますので、ご確認の程お願いします。それでは、次第裏面の委員名簿をご覧ください。当該委員会は学識者・社会教育関係者・市民の方々という幅広い分野の方々で組織されております。</p> <p>(委員の紹介)</p>
<h3>4. 事務局職員紹介</h3>	
事務局(司会)	<p>事務局につきましては、教育長、学校教育部、市民生活部及び子ども・未来部の関係職員、また計画策定を支援いただいている株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所のご担当者様が出席しております。</p> <p>会議の成立のご報告です。本会議につきましては、「三田市教育振興基本計画検討委員会規則第3条第2項」の規定により、過半数の出席で成立となります。本日は皆様ご出席をいただいておりますので、会議が成立していることを、ここでご報告いたします。</p>
<h3>5. 委員長及び副委員長の選任</h3>	
事務局(司会)	<p>それでは、委員長・副委員長の選出に移らせていただきます。三田市教育振興基本計画検討委員会規則第2条第2項の規定によりまして、「委員長及び副委員長は委員の互選によって定める」となっておりますが、いかがでしょうか。差支えなければ、事務局の方から提案させていただいてもよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>

	<p>委員長として吉水委員に、また副委員長に仲矢委員をご提案いたします。賛成いただけます方は、拍手をお願いいたします。</p> <p>(一同、拍手)</p> <p>それでは、吉水委員長、仲矢副委員長は、席の移動をお願いします。</p>
6. 正副委員長あいさつ	
事務局(司会)	ここで、委員長よりごあいさつをお願いします。
委員長	<p>私は今年4月より関西学院大学の教育学部に勤務していますが、元々は兵庫教育大学に20年ほど勤めていまして、もう20年ほど兵庫県の教育に関わらせていただいています。三田市とのご縁はそこまであったわけでもないのですが、今回委員にということでご指名いただきまして、ありがとうございます。</p> <p>学識経験者という枠組みになっていて、教育学の研究をしているのですが、地域の教育というものに関することはローカルな知識が重要だと思っています。そういった声を反映できるような形で会議を進められればと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
副委員長	<p>私は、大阪教育大学に勤務しています。今回、副委員長に任命いただき光栄です。教育長からお話があったように、三田市のこの数年の教育基本を考える上で、三田市ならではの、地元に通じているということ、また目まぐるしく環境が変わっていく中で、想定するのは難しいかもしれませんが、実効性のあるものを提案していくということ、そして私たち自身が十分に理解をして、学校の先生方や子どもたち、市民の皆さんに分かりやすいと納得いただけるものが大事かと思っています。皆さまのご協力のもと、実現できればと思っています。よろしくお願いいたします。</p>
7. 諮問	
事務局(司会)	<p>諮問に移らせていただきます。教育委員会より、検討委員会へ諮問をさせていただきます。諮問内容につきましては、机上に諮問書の写しを置かせていただいておりますので、ご確認いただきたいと思います。</p> <p>(諮問書の手交)</p>
事務局(司会)	委員の皆さま方よろしくお願いいたします。それでは、以降の進行は委員長にお任せしますので、準備ができ次第よろしくお願いいたします。

委員長	<p>三田市教育委員会より、計画策定に関する調査審議の諮問をいただきました。限られた委員会の中ということですが、委員の皆さんのご意見や、事務局の提案も十分議論しながら、未来ある三田市の教育ビジョンを示していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
8. 意見交換(フリートーク)～これからの三田の教育に関して大切に思うこと～	
委員長	<p>「意見交換(フリートーク)」に移ります。本日が、委員会の第1回目ということで、意見交換に入る前に、本計画策定の趣旨や位置づけ、また当会議の役割を事務局より説明をお願いいたします。</p> <p>(事務局による説明)</p>
委員長	<p>意見交換(フリートーク)に移りたいと思います。各委員の皆さまの今後の三田の教育に対する思いや関心事を共有し、以降の検討委員会の議論へとつなげていきたいと思います。ここからは、フリートークということで、各委員がこれからの三田の教育に関して「大切に思うこと」などを自由にご発言いただきたいと思います。自己紹介も含めて、皆さま1人ずつご発言いただきたく思います。先ほども申しましたように、三田のことを良く分かっていないので、こちらから質問をさせていただくこともあるかもしれませんが、よろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>私は、神戸学院大学人文学部に勤めています。明石市と淡路市で小学校の教員を18年ほど勤めた後に、大学教員として9年間京都のノートルダム女子大学に勤めており、現在は神戸学院大学に変わって2年目になります。その間、兵庫教育大学大学院で学んでおり、その際に委員長から直接指導をいただいたわけではないのですが、論文の副査をしていただいたというご縁もあり、心強く思っています。</p> <p>三田市とのご縁は、大学教員になって現在で11年ほどになるのですが、当初から三田市の小中学校の校内研究等のお手伝いへ呼んでいただく機会がありました。元々の研究仲間である教員が三田におり、そのご縁でさまざまな学校の校長先生や教員と関わりを持たせていただいて、お呼びいただいている状況です。例えば、上野台中学校や藍中学校、ゆりのき台中学校などにも行かせていただきました。今年は狭間小学校に年間3回ほど呼んでいただいていて、狭間中学校区の中高一貫教育の研修会にもお呼びいただいて、三田市の小中学校の先生方ともご縁をたくさんいただいています。その印象として、今回の計画に関連するところでは、三田市の先生方は、小学校・中学校に関わらず子どもたちにどう力をつけるか、どう子どもたちと共によりよい授業を作り上げていくかということに関して熱心に取り組む方が多いと思います。中学校は教科の専門性がありますので、校内で一緒に研究するという事は難しいのですが、私が関わら</p>

	<p>せていただいた学校ではその壁を乗り越えて、先生同士が子どもたちと向き合 って「美術の授業のときはこうだよ」「社会の授業のときはこうだよ」と、子ども たち 1 人 1 人を見ながら議論をされていて、素晴らしいなと思いました。最近 は、年齢層の問題でベテランと若手の間を繋ぐ人材、年齢層の先生が少ないの ですが、三田市も私が見ている限りでは、特に小学校を中心にそのような傾向は 感じます。三田の良いものをどう若い人たちに引き継いでいくか、また若い先生 が持っている力をどう育て、伸ばしていく環境をつくるかというところが、三田 の教育の発展や子どもたちの成長には欠かすことができないのだろうなと感じ ています。私としては、この件について今回の計画に反映できればと考えていま す。</p>
<p>委員長</p>	<p>ぜひ委員の皆さまから、お聞きになられたいことがありましたら、ご質問くださ い。私のゼミ生も何人が三田市で教員をしているのですが、熱心な教員だと思 います。</p>
<p>委員</p>	<p>私は三田で生まれて55年、このまま三田市民であり続けると思いますが、市 内で子どもも3人育てており、ここにおられる先生方は私の子どもの顔も分かる と思ひ、いろいろとご迷惑をおかけして頭が上がりません。長女は兵庫教育大 学に行きましたので、現在は三田市外で小学校の先生をしています。私がここ にお呼びいただいたのは、幼稚園と中学校でPTA会長をしましたので、その経 験からお話させていただいたためだと思っています。私はどちらのPTA会長も楽し ませていただきました。</p> <p>会長をしていて感じたことは、今の保護者は両極端で、全く関わらないとい う方と、当たったら楽しめる方がいらっやして、本当に両極端になっていると思 います。その楽しめない方に、いかに子育てを楽しんでいただけるかを色々と提案 できればと思いますので、よろしくお願いします。</p>
<p>委員長</p>	<p>PTAはなくなっているところなどもある中で、三田市は盛んにやっています ね。</p>
<p>委員</p>	<p>私は、ボランティアコーディネーターをしています。PTAについては、三田市 内でも形をなくしているところもあり、新しい形を模索しています。昨日、私の小 学校でも会議をしていたところ、やはりPTAを抜きたいという話が出てきました。 私は 12 年ほど前にPTAの代表をしていたのですが、その時すでにその問題は 大きくなっていたので、いつその話題が出てもいいように準備をしていたので すが、実際に話題となり驚きながら聞いていました。</p>
<p>委員</p>	<p>コロナでその動きが加速したと思います。学校行事の見直しが起こった際に、</p>

<p>委員長</p>	<p>子ども目線ではなく大人目線で、大変だから色々なことをやめてしまおうという小中学校が多かったです。</p> <p>保護者の方がどのように学校に関わっていくのかということは大きな課題ですし、私も 20 年ほど前にPTA会長をしていましたが、一生懸命に関わろうと思っても、仕事の都合や社会の様子も変わってしまいます。そのような中で、皆さんがうまく学校に関われるようになるためのご提案もいただけたと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>小学1年生と6年生の2人の子どもの母です。出産するまでは理学療法士として、いわゆるリハビリの先生として病院に勤務していました。出産後はそちらを辞め、HSCアドバイザーをしています。HSCは発達障害とも違うのですが、5人に1人はいると言われていて人一倍敏感な子を知ってもらうための講演会活動などを行っています。保護者の方や、三田市内の小学校や幼稚園の先生方の研修などにも数回ですが呼んでいただいています。</p> <p>私の関心事としては、三田市の先生方には本当にお世話になっていますが、いつ寝ているのか、絶対にお仕事を持って帰っているのだろうということが、私にも子どもを通して伝わるくらいの仕事量だと思います。こういった先生方がオーバーワークになって休職しなければならなくなるのがよくあるということを目の当たりにし、そこを例えば保護者や行政の方で支えられればという理想を持って、応募させていただきました。また、不登校のことも、不登校の子どもをどうケアしていくのかというのは、ここ数年、三田市でもとても考えてくださっているのは伝わるのですが、それでも増え続けている不登校の人数を何とかストップできないかと考えています。そのため、この場で自分の意見を出し、教育のプロの意見をお聞きできると嬉しく思っています。私は教育のプロではありませんが、少しでも三田市の子どもたちの力になればと思っています。よろしくお願いします。</p>
<p>委員長</p>	<p>先ほどお話したように、教育学を研究しているような学識経験者の方々とは当然持っている知識が違って、多様な知識を組み合わせることで今まで見えてこなかったことや良くなかったことが徐々に縮小していくようなイメージになれば良いかと感じています。</p> <p>先生方の働き方改革ですね。人手不足の業界も多いので、学校に限った話ではないのかもしれませんが。私も大学教員時代の前は中学校の教員だったのですが、一律に時間を減らせば良いかというところではなく、先生方にはやりたい仕事もあるように感じています。やりたい仕事ができるような形で、オーバーワークにならないようにというのが理想だと思うのですが、そのような良い方法がないかと思っています。不登校の問題なども同じです。先ほど教育長からも「実</p>

委員	<p>効性があるもの」ということでもありましたので、思っていることを発言していただきながら、できそうなこと難しそうなことを皆さんで考えられればと思います。</p> <p>私は、中学校で校長を務めています。私は平成2年から三田市にお世話になっています。校長としては今の中学校で3年目を迎えており、その前は別の中学校で2年間校長をしていました。三田市ですとお世話になっていますが、三田市全体としては、教育環境は良いと感じています。私は三田市が地元ではありませんが、設備や環境が素晴らしいと思います。しかし、一人一人を見たときに、不登校や学力などは改善点や課題があると思っています。</p> <p>また中学校の部活動に関して、ここ数年の大きな変化は地域展開だと思います。来年度の8月からほとんどの部活動がなくなり、地域展開することになりますが、過渡期のため生徒も保護者も混乱しており、できる限り丁寧に説明していく必要があると感じています。この部活動の地域展開については、運動部だけではなく一部の文化部も同様です。放課後の時間が空くということになると、文化系の活動においては、今までの文化部のような活動だけではなく、三田市の特色としてこうみん未来塾などがあるので、そのような三田市ならではのものを考えても良いのかと思います。例えば、学習クラブ、寺子屋クラブのようなものがあっても良いのかと思います。しかし、先ほどの教職員の働き方改革の観点からも、こういった取組に教職員が関わりすぎると、何のための地域展開かとなってしまったため、そのような部分では地域ボランティアや行政とも連携しながら、三田市ならではの取組ができればと思っています。</p>
委員長	<p>部活動の地域展開のその後をどうするか、という問題ですね。そこに三田らしさを出せるのではないかというお話でしたが、その通りだと思いました。学力テストの結果なども資料で拝見していますが、全国、兵庫県、三田市と全体で見た場合と、個々に見た場合に関して、特に先生方は個々の方が気になっているのだと思います。その辺りのデータの使い方や、データに基づいた対応の仕方なども、三田市の特色をより一層出せるのではないかと思います。</p>
委員	<p>軟式野球を小学生に教えているのですが、保護者の方から「今どうなっているの？」と聞かれても、答えづらい展開にしかありません。もう少しわかりやすく保護者に説明できる方法はないかと思いつつ色々なことを考えていますが、中学校で軟式野球をやってくれている人に対して、伝えたいことがあってもチラシにはなかなか書けません。それをどのように説明するのかと思いつつ見えています。計画に載せることは難しいと思うので、先ほどの文化部の話も合わせて、教育方針にどう展開していくのかを考えてみたいと思います。</p>
委員長	<p>来年の夏から地域展開するにあたって、どのように、どこまで現段階で関わっ</p>

	<p>ていけばよいのか、どのように関わると打ち出して良いのかということがあまり分かっていないということですか？</p>
<p>委員</p>	<p>表現の仕方が難しいのですが、今まで先生方が行っていたことを地域にすべて展開するのか。例えば、進路の問題が出てきます。野球でも、高校の先生が見学される時などに、地域の人に対応できるのかというと、地域の方はそこまで責任を持ってないという話も出るので、その辺りは先生方も参加できるのか、どのように絡められるかが今後の課題だと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>どのように責任を分担できるのかということですね。既に教育委員会事務局でも検討を進めているかと思いますが、それが上手く伝わっていないというようなお話でしょうか？</p>
<p>委員</p>	<p>私は子どもが大きくなったのですが、子ども食堂の子どもたちなどでは、部活動がなくなることを知らない子どももおり、家庭内での情報格差が起きていることを直近で経験しました。地域の方々が、部活動がなくなることを説明し、保護者から説明を受けておらずびっくりすることもありました。実際に、子どもがいらっしゃる委員はどのように思われますか？</p>
<p>委員</p>	<p>学校から地域クラブに移行しますというお手紙は何度もいただいています。また、デジタルでの案内も学校から配信されており、それも同じ内容ではなく、毎回新しい情報が更新されています。私個人の話になりますが、新しい環境に慣れるのに時間がかかるタイプの子ですので、体験ができると知ると、中学生になる前にさせるようにしています。他の子はどうか分かりませんが、私は学校からの配信などはよくいただいていると思います。しかしながら、息子に話を聞くと部活動の話はほとんどなく、中学校のことで話題になるといえば、私立高校に進むのか地域の公立の学校にするのかという話がメインのようで、部活動の話題はほとんど出ないと言っていました。</p>
<p>委員長</p>	<p>教育委員会からは何度も連絡が来ていると思います。度々連絡はされていますが、先生と地域の責任の分担や高校からのお誘いなど、地域の方がどこまで関わるのかといった細かいことは心配事として挙がっているのではないかと思います。そういったこともこれからクリアになっていくと思いますが、地域の方としては今後引き受けていくことになりますので、情報はできる限り早めに必要となるかと思います。その辺りも検討できればと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>私は小学校で校長を務めています。本校は小規模校で、全校生が60人、1学年が10名程度の学校です。小規模校には良さがたくさんあります。しかし、</p>

<p>委員長</p>	<p>三田市全体として、学校規模の適正化が大きなポイントと考えています。小規模校の課題としては、多様性のある学びが難しいということがあります。小規模校の校長同士で話をしている中で、子どもたちの自主性や社会性を伸ばしていくことが難しいという話をしたことがありました。私たちの中学校区では、不登校の子どもも増えています。固定した関係性の中で、適応力や自主性を伸ばしていくということが大きな課題になっています。そうした課題を背景に、現在、三田市の方で再編統合についても検討いただいているものと考えています。</p> <p>もちろん課題解決のため、学校現場でも様々な取組をしています。例えば、学校を超えて一緒に授業をしていくことや、小学校でも教科担任制や学年の担任制を進めるなど考えられます。不登校対策については、サポートルームや子どものサポーターなど、さまざまな手段を講じながら取り組んでいます。現場としても小規模化をはじめとした学校課題に幅広く取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>また、中教審でも論点整理が示されていますが、「人生の舵取りをする力」「好きを育み、得意を伸ばす」という方向性が出ています。子どもたちが夢に向かって頑張れる状況を作っていくということは、現場としても大切にしていきたいと思っています。本校でもプログラミングやICTを活用した情報活用能力を育成していく授業づくりを目指して取り組んでいます。小さな学校ですので、中学校に行くとき多くの友だちの中でうまくやってけるのだろうかというような不安をいただく子どもも多いのですが、「自分はプログラミングができる」「タイピングは負けない」など、学校によって特色があると思いますが、子どもたちの自信を育む、好きや得意を伸ばしていくような取組を、それぞれの学校で展開できるような、それを応援していただけるような計画になればと考えています。また、先ほどの教員の働き方改革の話です。教職員向けアンケートでも働き方改革に対する関心が高い訳ですが、教職員だけではなく、地域の方々、保護者の方々も同じように関心をお持ちいただいていることを嬉しく思っています。先日も学校運営協議会で地域の方とお話をする中で、先生方が働きやすい環境をつくるために地域としても協力したいというご意見が多くあり、心強く思っていました。こうした機運は、教育委員会も保護者の皆さんに教職員の働き方改革が教育の質の向上に繋がることを紹介いただいていることも関係していると考えており、ありがたく思っています。次期計画の中でも、そのような方向性を示していただくとともに、学校としてもさらなる改善に取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>私が3月まで勤めていた兵庫教育大学では、小規模校などに特化した授業がなかったのですが、やはり課題だろうということで、そういった授業を教職の授業として作り、対応しようとなっています。またコミュニティ・スクールについてですが、三田市はどの程度の割合でコミュニティ・スクールになっているのでしょうか？</p>
------------	---

事務局	<p>三田市では全校でコミュニティ・スクールとなっています。</p>
委員長	<p>多様性については、兵庫教育大学では1学年160人ほどの学生数だったのに対し、私学に勤め多くの学生を見ていると、やはりダイバーシティの度合いが違うなど実感しています。「これまで話には聞いていたのだけれど」というような教育課題が目の前に広がっているというイメージになります。一方で、小規模校ならではの良さもありますので、地域に応じた形で学校を運営できることが良いかと思っています。</p>
委員	<p>私は、特別支援学校で校長を務めています。特別支援学校は11年前に設立された三田市で唯一の特別支援学校で、市内の公立校の中では一番新しい学校です。特別支援学校ができた経緯として、三田市には共に学ぶ、共生の理念があり、障がいの有無に関わらず共に学ぶことを大切にしていこうということで進んできました。そのため、特別支援学校を作らず、特別支援学級のセンター校方式という運営体制を取っていました。障害のある子どもたちが地域の学校の特別支援学級で学ぶことが一般的ですが、重度と言われる子どもたちはセンター校に三田市内から校区外通学をし、特別支援教育を受けていました。医療的なケアが必要な子どもも通うため、看護師の配置もしていただきました。また、知的障害の子どもや自閉症の子どもも通っていました。そのような形で、同世代の子どもたちが日々同じ場で学び、交流及び共同学習を大切にしていこうということでやってきましたが、特別支援学校が開校する数年前頃から、センター校に通う子どもの増加と、重度化ということがありました。そのため、子どもたちの安全を確保した受け入れ態勢が限界となり、11年前に特別支援学校が開校しました。</p> <p>特別支援学校は、肢体不自由の子どもたちの特別支援学校となっております。三田市には県立上野ヶ原特別支援学校がありますので、知的障害の子どもたち、重度と言われる子どもたちはそちらで学ぶことで、役割を分けながら本校が開校しました。本校は小学部と中学部・高等部がそれぞれ別の場所にあります。特別支援学校と言いましても1つの校舎にすべてがあるわけではなく、小学部は小学校の校舎内にあります。また中学部と高等部につきましては、中学校の校舎内にあり、三田市は併設型と言われる特別支援学校を作りました。そのねらいは、先ほども申しあげた「共に学ぶ」ということです。同じ場で同じ世代の子どもたちが共に学べる環境を大切にするために、そのような運営となりました。私は現在、この特別支援学校の校長を務めて4年目になります。校長をする前も同じ特別支援学校で教諭として子どもたちの教育に関わっていましたが、特別支援学校の子どもたちが小学校の子どもたちと交流及び共同学習を何気ない日常の中でできているという、インクルーシブ教育システムとしては素晴ら</p>

	<p>しい仕組みになっていると思います。言葉では言い表しにくいのですが、互いに日々触れ合い、理解し合っており、そこに教職員がさらに関係や理解を深めるように狙いをもって教育を施していくことの積み重ねができるところは、本当に良いシステムだと思っています。</p> <p>第4期教育振興基本計画では、やはり「共に学ぶ」という視点を大事にし、これまで三田市が積み上げてきたものを、さらに深めていくことを大切にしたいと思います。キーワードとしては多様性、公平性、そして包摂性の3つの視点が大切かと思っています。多様性、公平性という観点では、色んな特性のある子どもたちがいるのが当たり前で、その中で子どもたちの特性や障がいの程度に合わせて合理的な配慮を行うことで、子どもたちが共に学べる環境を整えていくということです。また、包摂性という観点では、色んな子どもたちと共に学ぶ、排除しないということです。共に学ぶ環境を作っていくということが、特に現在、求められているのではないかと思います。</p>
委員長	<p>DE&amp;I(※)というのは学校教育ではもちろん、一般企業も進んでおり、DE&amp;Iの研修などは企業で行われているものがかなり進んでいるイメージです。そのようなことも参照しながら、共に学ぶということを進められればと思います。</p> <p>(※)Diversity(多様性)、Equity(公平/公正性)、Inclusion(包括)の3つを合わせた言葉。多様な背景や特性を持つ個人が平等に尊重され、参加できる環境のこと。</p>
委員	<p>私は、認定こども園の園長です。幼稚園に勤務をして30年以上経ちますが、公立幼稚園を取り巻く環境は大きく変わっています。特に園児数の激減や保護者のニーズの多様化といったところが大きな変化です。三田市でも、再編計画に基づいて幼稚園の再編統合が進んでいます。みつば幼稚園は、昨年度の4月に広野、本庄、藍幼稚園の3つの幼稚園を再編統合し、認定こども園としてさまざまな保育サービスを充実させ、朝7時から夜7時まで保育を行う園として運営しています。施設の仕組みや形は変わったとしても、園で子どもが無我夢中で遊び、その中で友だちとの関わり方を学んだり、子ども自身で考え、「これってこういうことか」と気づいたりするなど、直接的な経験を通して学んでいくのが幼児教育だと思います。幼児の学びや成長を点数化、数値化することは難しいのですが、子どもが心を動かして「やってみよう」や「もっとこうしたい」と物事に取り組んでいる姿を通して子どもの心や体の成長を見取ることができます。遊びを通して人との関わり方を学んだり、子ども自身で何かに気づいたり主体的に動く力など生きる力の基礎を大切に育んでいきたいと思っています。</p> <p>私は再編統合したこども園に勤めています。やはり集団の中で子どもが育つことは大事だと感じています。少人数は少人数の中で、先生方も工夫されてい</p>

	<p>るわけですが、どうしても活動が制限されてしまうこともあります。たくさんの友だちからの刺激によって子どもの興味や関心が広がり育ちにつながるということは大切だと感じています。三田市には私立の施設もありますし、幼稚園、認定こども園、保育所という施設間での違いもあると思うのですが、どこの施設でも質の高い教育や保育を提供できるよう横の連携を大切にしていかなければいけないと思っています。また、幼児期の教育から小学校への円滑な接続も重要です。小学校に行ってゼロからのスタートではなく、幼稚園で学んできたことが土台となって、小学校の教育に繋がっていくというところで、架け橋カリキュラムによる縦の連携を深めていくことが、今後の課題になるかと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>子どもたちには幼児教育、そして初等教育でも特に低学年などでは体験を十分にさせることは大事だと強く思っています。「経験と知識創造」(寺西和子1992)という論文があるのですが、今のお話はまさに通ずるものがあると思います。三田市ではこれまでもされていますが、横の連携だけでなく、縦の連携も大事だと思います。そういった特色が出るような形が作れば良いのかと思いました。</p>
<p>委員</p>	<p>私は生まれてから三田市内で、三田の教育を受けて育ち、今は三田市内で看護師として働いています。思い出として、小学校や中学校で学んできたことが楽しかった思い出があります。普段、教育に関わることも少なく、子どももいないのですが、一市民として市内の教育に関わることができればと思っています。私は市内でも田舎の方に住んでおり、少人数で教育を受けてきた方かと思っています。その中で、比較的少人数だからこそ、主体的に取り組めた部分も多かったと思います。今の子どもたちも、私の母校の小学校などはとても少なくなっていると思いますが、他の学年や地域と関わる機会は多かったと思います。その地域との繋がりも今思えばとても良かったと思うので、地域との繋がりは大切にしていきたいです。</p> <p>教育に関して思うことは、子どもたちが主体的に成長できるように支援することが大事だと思うと同時に、先生方の労働環境も改善していく必要があるかと思うので、課題は多くあるかと思いますが、未来ある三田になればと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>看護師が患者とどのように関わるかというのは、様々なレベルがあります。学校や幼稚園の先生方が子どもとどう関わるかというときに、看護師の教育というものが学校教育に共通して活かせることがあるのではないかと考えています。看護師教育の本を読んだこともあり、看護師の視点からの発言を期待しています。</p>
<p>委員</p>	<p>私は、教育委員会の評価委員として三田市からお声掛けいただいたことをき</p>

っかけに、本委員会にも参加させていただいています。私に一番求められていることは、学校支援ボランティアについてかと思えます。私は現在、三田市の狭間中学校区の中にある小学校でボランティアコーディネーターをしています。児童数は500から550人の小学校に対して、授業支援では年間延べ500から600人のボランティアを依頼いただいています。三田市には学校支援ボランティアという登録制度がありますので、そこに登録している方＝ボランティア保険に入っている方です。三田市にも名簿登録されており、事故などで賠償が発生した場合は、市の予算での保険で対応していただける仕組みです。通常はボランティアをするとすると1人500円のボランティア保険がかかるのですが、三田市ではこれをすべて市費で負担しています。そのため、小学校の先生から手助けしてほしいとの依頼を受けて、名簿登録されている方に学校に来ていただくということをしています。今の小学校でPTA会長をした後に、実際にボランティアを入れようとした際に、ただ来るだけだと危ないと言われました。ボランティアがせっかく先生方のお手伝いをしたい、子どもたちの安全安心を守りたいと言っているにも関わらず、ボランティア自身がトラブルに巻き込まれてしまい、全国各地でボランティアが訴訟を受けるということが20年ほど前に起こりましたので、必ずボランティア保険に入ってください、ボランティア自身の安全も確保をした上で学校に関わっていただきたいと考えています。ただ、携わっていただく中では先生とのトラブルや子どもたちとの関わり方が分からないということもありますので、担当する小学校では春になると1年生の保護者や新しく仕事や環境が変わった方が登録をして、その方々に1年生の給食の準備として30分だけお手伝いに来てくださいというスモールステップから始めると、1年生の保護者などは特にたくさんお手伝いに来てくださいます。学校側をお願いをしているのは、お父さんやお母さんが手伝いに来たとは絶対に言わないでくださいということです。地域の方がお手伝いに来ていると伝えていただきます。実際に、お父さんやお母さんではない地域の方もたくさんいます。数十年前であればお父さん、お母さんが当たり前でしたが、今では卒業生の保護者や卒業生、高校生、大学生が単身で参加しています。大学と連携ということもありますが、担当する小学校の場合は地域で育った子どもたちがボランティアコーディネーターや学校に問い合わせをし、ボランティア登録をしてくださいます。

これを通じてボランティアを育てていくのですが、その中には看護師などさまざまなバックボーンがある方がいるのですが、特に特徴的な部分としては、音楽会に向けて楽器練習の支援が入っているのですが、趣味で楽器をしている方や吹奏楽部に入っていた、音楽サークルに入っていた、声楽をやっているプロの方もボランティアで来てくれて、子どもたちの楽器や演奏の支援に入ります。本来は先生が1クラス30人くらいに一斉指導をしながら楽器の練習をするのですが、先生がクラスの半分である15人の合唱を指導している間、残りの15人が個別に楽器の練習をし、ボランティアに指導をしていただけます。1人でも2人で

も多く来てくれると、大人の目がある中で分からなかったら助けてもらえるという経験を積むことができます。子どもから大人に「自分はこういうことが分からない、できない」ということを尋ねたり、一緒に考えたりすることができます。そうすると、先生が見えないところで頑張っている子どもたちの様子を、ボランティアが先生にフィードバックします。それによって、「実はこの子が、このように困っていました。」「楽譜を変更しましょう」など、コーディネーターにボランティアの意見が集約され、先生と打ち合わせをすることが可能となります。音楽会当日についても、地域運営委員会にボランティアが入っていますが、音楽会自体もボランティアが全面に入ります。子どもたちの出番の際には楽器の配置を変える必要がありますが、事前の打ち合わせで図面もできているため、ボランティアによって配置することができます。先生たちは配置が完成したところに子どもたちと入場をして、子どもたちは緊張感を感じながら演奏します。また楽器を音楽室から体育館に運ぶのも、体育館から音楽室に戻すのも、5、6年生が行いますが、これにもボランティアが10人くらいお越しいただけます。これに来てくださる方は楽器が壊れてほしくないため、必死に楽器を守りながら運んでくださいます。自分たちのできること、やりたいことをできるという登録制度を取っているため、地域の学校と一緒に子どもたちの安心と安全を守っていこうということで、動いている状況が20年ほど続いています。それは自分が関わっている学校ではできませんが、例えば規模の大きい学校であったり、地域の考え方であったり、関わり方は各々の学校で異なります。私はニュータウンの方ですので、外から入ってきた方がほとんどという状況で何かを立ち上げることは比較的簡単にできます。それを継続することが難しいですが、模索して取り組んでいる状況です。恐らく、そこが私に一番求められていることで、先生と協力をして子どもたちを育てていくことは、先生方の働き方改革にも、ボランティアと一緒に支えていくことで繋がっていきます。先生たちもそれを分かっている、一緒に相談してくれているという関係がありますので、今後も続けていきたいと思っています。

私は三田市出身ではなく福島県の育ちで、福島大学で幼児教育について学びました。その後会社員をした後にご縁があり、重度重複障害の学校に勤めましたが、特別支援教育については全く専門性がありませんでした。そのため、宮城教育大学で特別支援教育や聴覚障害児教育について学びました。その後、筑波大学大学院で聴覚障害の子どもの発育や育った後どうなるのか、手話をどの程度授業に織り込めば子どもたちの理解度が上がるのかという研究をしていました。手元の資料の10ページに私の夫の写りが載ってまして、これだけ手話の研究をしてきた私ですが、夫は全盲です。視覚障害者で盲導犬を使っており、三田市内の小中学校で盲導犬の啓発を行っています。三田育ちの夫は大学生のとき事故で全盲になりました。子どもは三田の中学校に通っていたのですが、下の子が在籍中に、別室ができ上がったときに別室で育ちました。上の子は大学で教育学を学んでいます。三田市に来てからは中学校の特別支援学級

<p>委員長</p>	<p>で指導員をしていました。西日本の大学に行っていないため、学識委員の先生方の論文は改めて読ませていただきたいと思います。</p> <p>地域の方が関わってくださらないため、教育課程が十分うまくできていないところが実際には多くあります。中教審でもそのようなことが話題となっており、ボランティアの方の関わりは本当に重要だと思っています。ぜひ多角的なご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>私は、ひょうご子どもと家庭福祉財団の代表理事をしています。三田ではかるがも園という障害のある子どもたちの幼稚園の運営と、卒園児を中心とした発達支援センターの運営をさせていただいています。そのため、いつも先生方にはお世話になっています。子どもたちの保育には直接は関わっていませんが、みんな私のことを友だちと思っていつも遊びに来てくれます。元々は神戸YMCAという団体で、専門学校や英語教育、ホテルマナーの教育、子どもたちのキャンプ場の運営を仕事としてきました。最後の10年くらいはその団体で組織全体の経営をしながら、現場を離れたくないので、授業を10時間ほど持っていました。YMCAの特色としては、大学生のボランティアが500人ほど神戸YMCAだけでおり、その卒業生の40%ほどが幼稚園から大学までの教員になりますので、その方々とのネットワークが今でも続いていることが私の人生の喜びです。子どものキャンプの仕事は私が学生ボランティアのときから、YMCAの75年前からあるキャンプ場でさせていただいて、100人ほどの子どもたちと40日間、夏休み中ずっといましたが、体験的に子どもは子どもの中で育っていたのだということを見させていただきました。現在の職場では、言語聴覚士やリハビリスタッフ、保育士らが60人ほど正職員でいるのですが、彼らがする個別療育だけではなく、集団の中で友だちができ、友だちに声をかけることで言葉が出るようになった、また二語連結といって2つの単語を連続して繋いで使えるようになったのも友だちができたことがきっかけという子もおり、たくさん子どもたちができる限り一緒になれるような教育環境が必要だと思っています。</p> <p>30年ほど前に三田でYMCAを立ち上げる担当として神戸YMCAから送られてきて、1年間は地元の長田から通っていましたが、震災の3か月前から三田に住んでいました。すぐにまた人事異動で神戸に戻されたのですが、三田に住み続けています。今も毎日神戸に通っていますが、三田の良さは自然の良さ、川遊びが平気のできる川があるのは神戸近郊でここだけだと思いますし、海がないことは残念ですが、この広いエリアで子どもたちがのびのびと遊ぶことができれば良いと思います。一方で、子どもたち同士の関わりがしづらいのも、この市の広さと人口の問題かと思っています。こども食堂にしても子どもだけで通っていける範囲は狭いです。神戸でもユースプラザというものをYMCAで2つ運営していましたが、神戸は公共交通機関が行き届いていますので、簡単に行くこと</p>

	<p>ができます。その中で、やはり持ちにくいのが「多様性」だと思います。よくリーダーたちに言うのですが、different という「違い」と、mistake という「間違い」では、日本語では「ま」がつくつかつかないかですが、根本的には違うという言葉になります。日本人がどうしても違っていたら間違っていると思いがちなところは、多様性のなさからだと思います。色んな違いのある人たちが、たくさんのインクルーシブ教育の中で共存していくことができれば、子どもたちはその中でたくさんのことを学ぶのかと思います。今は少子化の真ただ中ですが、ぜひそういうことをシステムとして実現していきたいと思います。私自身が三田市で直面しているのが、女性の就業率の高さです 90%の女性が三田市で就業されていて、そのうち半分がフルタイムという調査結果を拝見しました。かるがも園でも 20 数年続いてきた保護者会が昨年からなくなりました。そういった現実を見る中で、やはり働くことが大切ですので、その状態に対して我々がどのように自分たちの在り方を変えていけるかということが、1 つのチャレンジだと思っています。</p>
委員長	<p>私も日本キャンプ協会のキャンプディレクターの一員ということもあり、キャンプをやっていらっしゃった方は特に信頼しています。</p>
副委員長	<p>先日論文を読んでいて、北海道の富良野の小学校では昆虫採集をしたことがある子どもたちが 50 年前にはほとんど 100%だったのに対し、10 年ごとに 10%ずつ下がって今や 20~30%まで下がってしまっているとのことです。それで、私の周りの学生にもプラモデルなど作ったことがあるか聞いてみると、ほとんど全員ないとのことでした。私が子どもの頃はラジオの工作があって「プログラミングをしてみよう」というものがあり、自分でゲームのようなものを作ったりしていましたが、意外と最近の子どもはコンピューターなどの情報機器は使う反面、「自分でプログラミングをしてみよう」「ラジオを作ってみよう」ということが減っていることが危機的な状況だと感じています。スキーをしたことがある子ども「なんでスキーをしたことがあるの？」と聞くと、「おじいちゃんが連れて行ってくれたから」と言います。他の子たちは免許もない、スノーボードもやっていないと、こういった経験の少ない子どもたちは誰が作っているのかという、その子たちの責任ではなく、自分たちのこととして考えた方が良いでしょうと思います。私は近所の池で学校に行く前に魚釣りをして、水槽を隠して、学校から帰ってまた釣りをするということをしていました。北海道の旭川や富良野のようなところは「熊が出るから行くな」みたいなこともある状況で、かえって自然が遠いという状況ではあると思います。友だちと一緒に空き地で遊ぶ、その延長線上に雑木林があるということがアドバンテージですし、そういった地域がないわけではないのですが、「この虫は何だろう」ということを思ったときにすぐに聞くことができる環境があるということは稀有で、いかに私たちがその経験格差を解消していくのか、それを行うには手伝う大人の数が必要だと思います。それ自体が先ほどお</p>

<p>委員長</p>	<p>話にあったようなお父さん、お母さんのどちらも仕事をすると考えるとなかなか難しく、学校の先生も忙しい。ではこういったことを質問したいといったときに相談できる相手がおらず、どう解決すれば良いのでしょうか。</p> <p>私自身としてはもう1つ、使えるものは使っていく。例えば人工知能を使って、汎用の人工知能を子どもたちに丸投げするのではなく、三田モデルのサポートシステムを作ります。そういったAIエージェントのようなものを考えていき、さらに三田市で作られたものだということを子どもたちが自覚することで、自分も将来作ってみたいと思えるような流れを作れば、結果的に学校も変わり、仕事が生まれていくと思います。なぜかという、私が今ベトナムの小学校の教育育成の会でお手伝いさせてもらっていると、大きな経験ギャップがあります。一方で、私たちが子どもの頃のような経験の豊かさが、先ほどの移動の問題では、実はベトナムは、ライドシェアが発展しており、子どもも大人もお年寄りも好きなきときにスマホ 1 つで好きなのところに行けます。現金を持たせると危ないですが、スマホ決済になっていることでそのような問題もありません。そういう意味では、日本の教育改革を考える際に、日本国内の状況と、日本以外の近隣諸国でどのように解決しているのかということも必要です。日本の教育を伝えると小学校で理科実験をしていることや、図画工作をしていることを話すと驚かれます。「子どもたちに電動ノコギリで何かをさせることに親は反対しないですか?」「『そんなことよりもっと勉強させてほしい』と言われないですか?」と聞かれることがあります。なぜ反対しないかと考えると、私たち自身がそういうことをして楽しかった、ワクワクした経験があるから、みんなが共有できているということを伝えると、「日本はやはり厚みがあるね」と言ってくれることが多いです。守るべきことというのは私たち自身、当たり前になり過ぎて気づかないこともあるかもしれません。それをもう一度共有し、かつバージョンアップすることで、少しずつ未来が切り開けるのではないかと考えています。三田市はそういった意味で、本当にチャンスが多いと思っています。</p> <p>ありがとうございます。今後の方向性を含めてお話いただいたかと思います。</p>
<p>9. 議事</p>	
<p>委員長</p>	<p>それでは、「議事」に移ります。議事に入ります前に、この検討委員会で議事録を作成することになると思いますが、その発言者の氏名等の表記について確認しておくことが必要のようです。第3期計画の議論の際には「委員長、副委員長、委員」と、肩書のみ表記でしたが、発言者の氏名まで表記するのか、3期計画と同じように肩書表記のみでいくのか。皆さんにご確認した上で、議事を進めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。特に異論がなければ、発言者まで特定する必要はないかと思っておりますので、前回同様の肩書のみ表記する議事録記載の方法で、事務局にお願いしたいと思っておりますがいかがでしょう</p>

	<p>か。</p> <p>(異論なし)</p>
委員長	<p>それでは、次第に従いまして、議事に移りたいと思います。まず、(1)「計画の基本的事項」についてご説明いただきます。事務局お願いします。</p>
事務局	<p>(資料1～5について説明)</p> <p>(1)計画の基本的事項 資料1</p> <p>(2)教育を取り巻く国や県の動向 資料2</p> <p>(3)三田市の現状 資料3・資料4</p> <p>(4)アンケート結果 資料5</p>
委員長	<p>資料1から5まで、次第では(4)まであわせて説明いただきました。何かご質問はございますでしょうか？アンケートの結果などは興味深いものも出ており、さらに集計を進めていただくと、見えてくるものがあるのではないかと思います。本日はそれぞれのお立場からフリートークでお話いただき、色んなことが分かって、今後も楽しい会になるのではないかと感じています。ベースには当然、子どもたちの学力や冒頭にありました中教審の議論を踏まえた子どもたちの人生の舵取りをする力についてということかと思えます。これをどう三田市独自の形で、しかも実効性のある形にし、皆さんに伝えられるかということを目指していきたいと思えます。</p> <p>また多様な意見が出た中で、学校の中での連携や地域の連携など、さまざまなところの連携が大切になるというご意見をたくさんいただきました。またDE&amp;Iや多様性についても、人口が減少する中でより一層重要になるのではないかと意見がありました。特に幼児教育において、体験をどう経験に昇華させるのかという話もありました。こういったことをうまく解決しなければいけない一方で、教職員の働き方改革の話もあり、そういったことにも目を配りながら、副委員長からはテクノロジーを活用することで解決していくことが可能ではないかという話もありました。それを三田独自のモデルとして提案できれば、最も良いのだろうと思っています。</p> <p>本日の予定は以上ですが、委員のみなさまには長時間にわたり、ご審議いただき、ありがとうございました。</p> <p>事務局、特に何かございませつか。特にないようですので、本日の審議はこれもちまして、終了いたします。ありがとうございました。それでは、これ以降の進行につきましては、事務局にお返しします。</p>

10. 次回予定	
事務局(司会)	委員長、ありがとうございました。委員の皆さまも長時間にわたり、ありがとうございました。次第の「次回予定」でございますが、令和8年3月3日(火)の 10:00 からということで調整いただき、この場所をお願いできればと考えております。詳細につきましては、後日、文書送付させていただきます。
11. 閉会	
事務局(司会)	最後に閉会にあたり、山本学校教育部長から一言、ごあいさつさせていただきます。
山本部長	<p>学校教育部長の山本です。本日は長時間ありがとうございました。どうしても堅苦しくなってしまう検討委員会の最初に、アイスブレイクができればという事務局の想いを委員長にもお伝えしながら、フリートークから始めていただいた次第です。第1回目の会議からさまざまなご意見をいただき、共有できたのかと思っています。今後も答申いただくまで何度か足を運んでいただくこととなりますが、どうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。</p> <p>(閉会)</p>

第4期三田市教育振興基本計画策定にかかる  
アンケート調査  
結果報告書

令和8年2月  
三田市

# 目 次

I アンケート調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査概要.....	1
3 回収状況.....	1
4 報告書の見方.....	1
II 市民アンケート調査結果.....	2
1 回答者の基本属性.....	2
2 児童生徒の教育や学習に関する取組について.....	4
3 家庭・地域で児童生徒を育てていくことについて.....	17
III 教職員アンケート調査結果.....	23
1 回答者の基本属性.....	23
2 教職員の職場環境について.....	25
3 教育や学習に関する取組について.....	29
4 ICT教育について.....	37
IV 小中学生アンケート調査結果.....	39
V 自由意見まとめ.....	56
VI 調査結果の概要.....	60
1 子どもの教育や学習に関する取組.....	60
2 学びの環境づくり・学校づくりについて.....	60
3 まち（地域）全体での子どもの学びと成長の支援について.....	61
4 子どもたちの思いについて（小学5年生・中学2年生調査）.....	61
VII 参考資料.....	63
1 市民アンケート調査票.....	63
2 教職員アンケート調査票.....	67
3 小中学生アンケート調査票.....	71

# I アンケート調査の概要

## 1 調査の目的

本調査は、三田市の教育の振興に関して基本的な事項を定める「第4期三田市教育振興基本計画（計画期間：令和9年度～令和13年度の5年間）」を策定するにあたり、市民・教職員及び小中学生の教育に関する考えなどを把握するため、アンケート調査を実施するものです。

## 2 調査概要

項目	調査
調査対象者	・市内在住の18歳以上の方3,000名（うち児童生徒保護者2,000名） ・市立幼稚園・認定こども園、小学校、中学校、特別支援学校の教職員768名 ・市内小中学校の小学5年生児童、中学2年生生徒1,999名
調査期間	令和7年10月13日（月）～10月31日（金）
調査方法	・市民：郵送配布、郵送回収による郵送調査法及びWebによる回答 ・教職員：各学校を通じてweb回答の直接案内 ・児童生徒：各学校を通じてweb回答の直接案内

## 3 回収状況

項目	配布数	回収数	回収率
市民アンケート調査	3,000	1,417	47.2%
教職員アンケート調査	768	694	90.4%
児童生徒アンケート調査	1,999	1,727	86.4%

## 4 報告書の見方

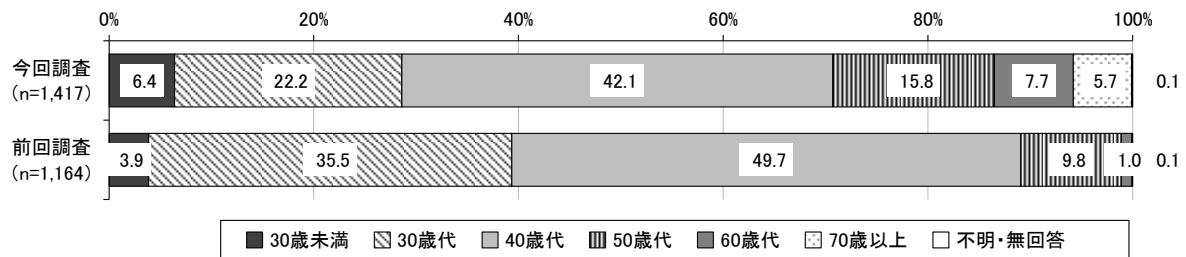
- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- ◇「前回調査」とは、第3期三田市教育振興基本の策定にあたり令和2年に実施したアンケート調査のことを指します。必要に応じて前回調査との比較を行っています。

## II 市民アンケート調査結果

### 1 回答者の基本属性

問1 あなたの年齢を次の中から1つお選びください。(令和7年10月1日現在)

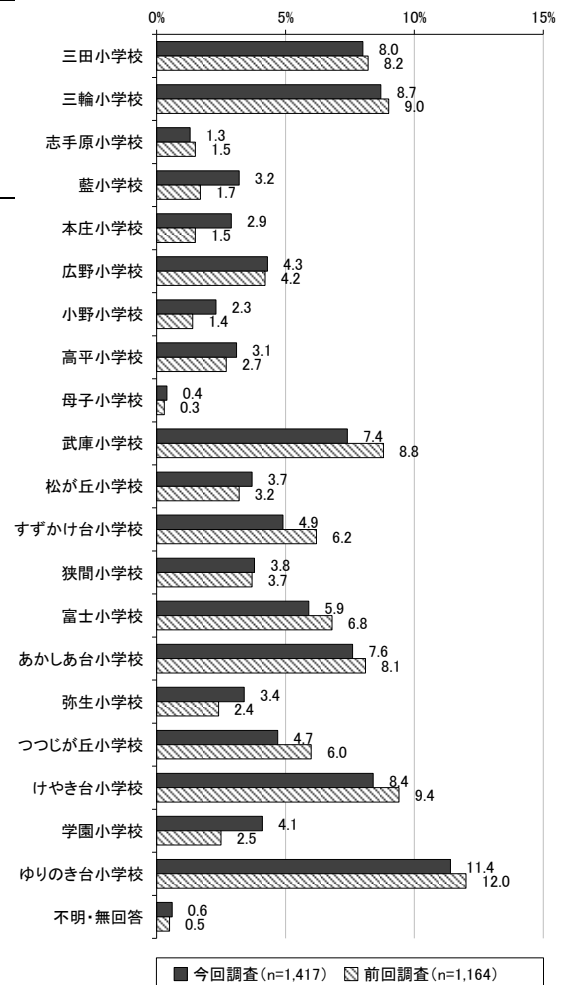
回答いただいた方の年齢は40歳代が42.1%と最も多く、次いで30歳代が22.2%であり、児童生徒の保護者のみを対象とした前回調査時と比較し、30歳未満及び50歳以上の回答が増加している。



※前回調査の「60歳代」は「60歳以上」

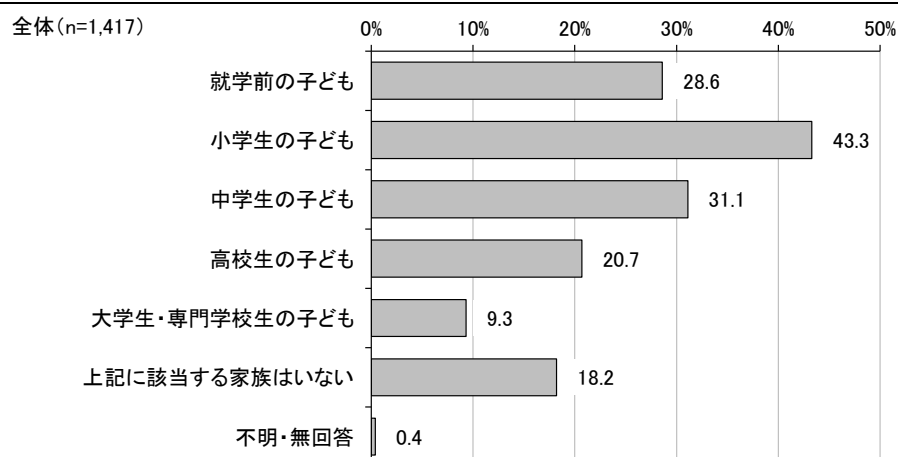
問2 お住まいの小学校区はどちらですか。(あてはまるもの1つ)

回答いただいた方のお住まいの小学校区の割合は、前回調査時と大きな変化はなく、「ゆりのき台小学校区」が最も多く11.4%、次いで「三輪小学校区」が8.7%となっている。



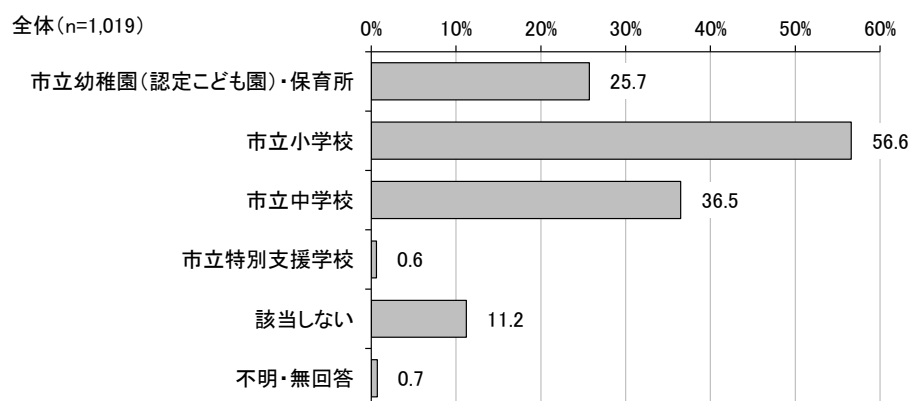
問3 あなたには、次の方がご家族におられますか。（あてはまるものすべて）

回答いただいた方のご家族は「小学生の子ども」が43.3%と最も多く、次いで「中学生の子ども」が31.1%となっている。



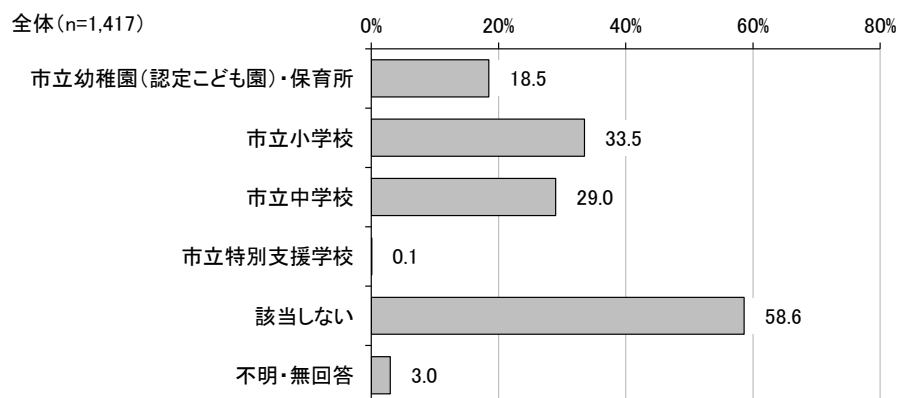
問3-1 あなたのご家族に以下の三田市立の学校等に在籍している方はおられますか。（あてはまるものすべて）

回答者ご家族の学校等への在籍状況として、「市立小学校」が56.6%と最も多く、次いで「市立中学校」が36.5%となっている。



問4 あなたは以下の三田市立の学校等を卒業されましたか。（あてはまるものすべて）

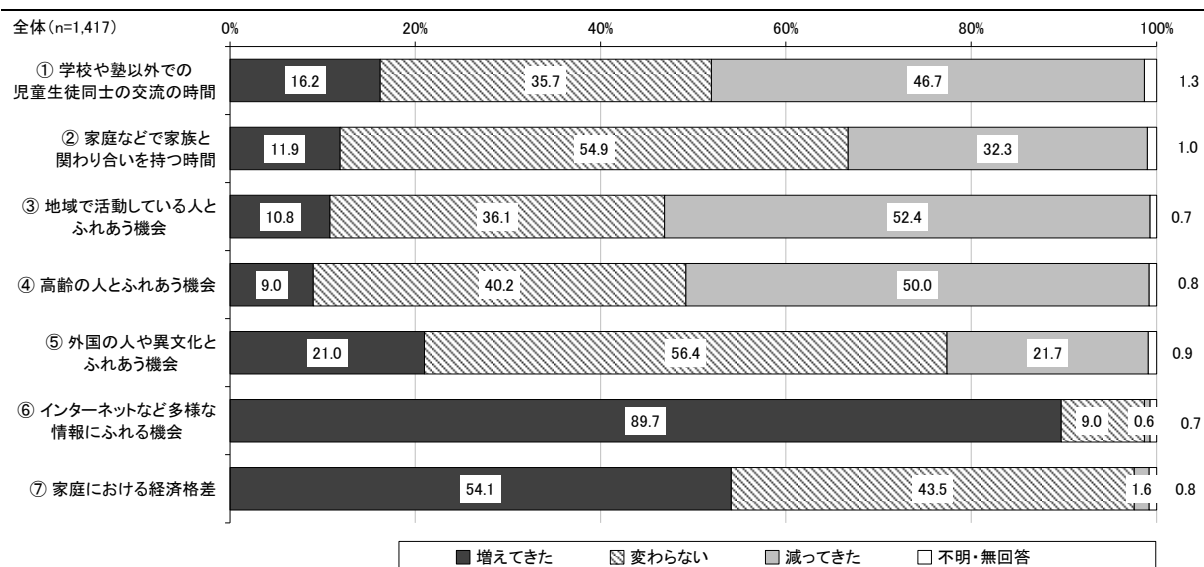
回答者の半数以上となる58.6%が三田市立の学校等を卒業しておらず、次いで「市立小学校」を卒業した回答者が33.5%となっている。



## 2 児童生徒の教育や学習に関する取組について

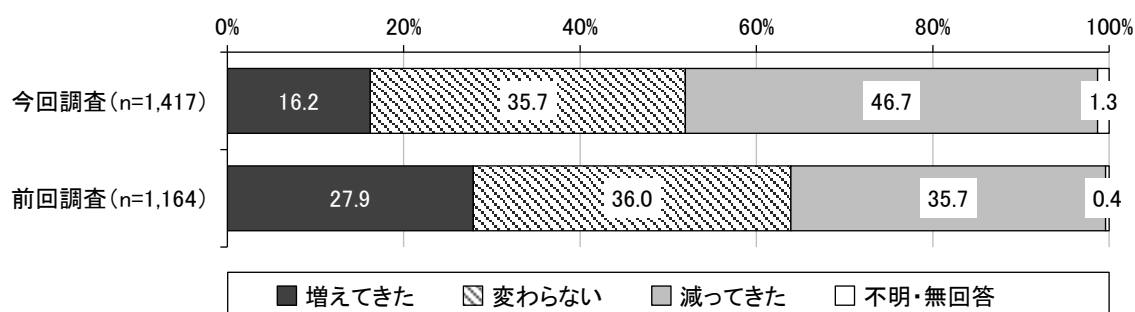
問5 児童生徒を取り巻く環境は、この数年、どのように変化してきたと思いますか。  
 (①～⑦ごとにあてはまるもの1つ)

「①児童生徒同士の交流の時間」「③地域で活動している人とふれあう機会」など人とのふれあいや交流の時間が「減ってきた」と感じている回答者の割合が、「増えてきた」と感じている回答者の割合よりも多くなっている。一方、「⑥インターネットなどの多様な情報にふれる機会」「⑦家庭における経済格差」が「増えてきた」と感じる回答者の割合が高くなっている。



問5 ①学校や塾以外での児童生徒同士の交流の時間 (あてはまるもの1つ)  
 【前回比較】

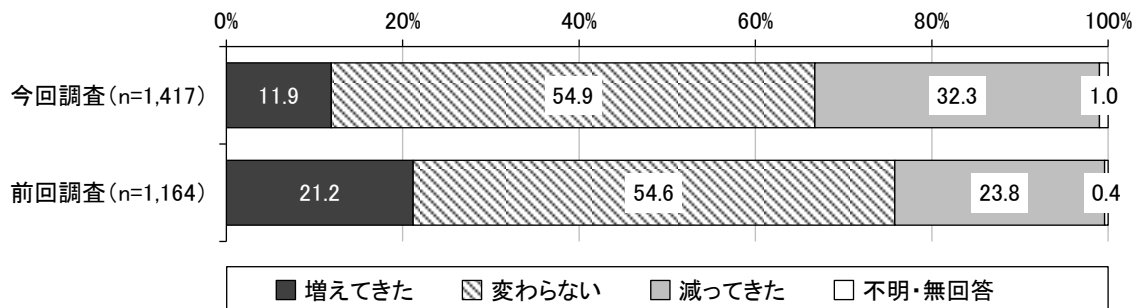
前回調査時と比較すると、学校や塾以外での児童生徒同士の交流の時間が「増えてきた」と感じている回答者が減っており、一方で「減ってきた」と感じている回答者が増えている。



問5 ②家庭などで家族と関わり合いを持つ時間（あてはまるもの1つ）

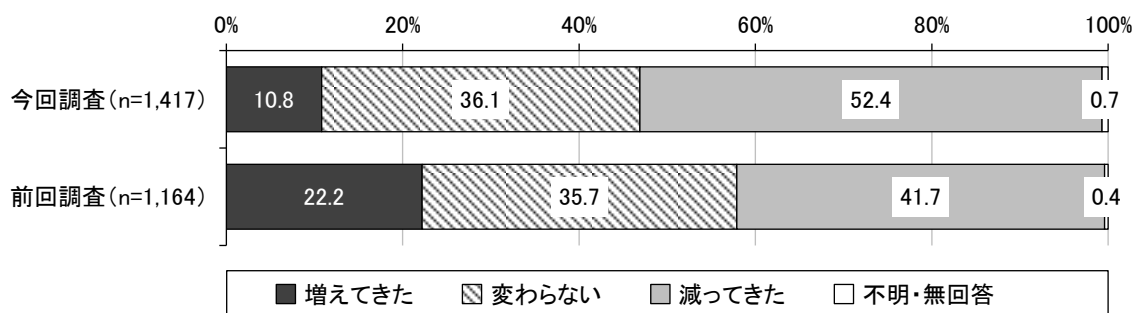
【前回比較】

前回調査時と比較すると、家族と関わり合いを持つ時間が「増えてきた」と感じている回答者が減少し、「減ってきた」と感じている回答者が増加している。



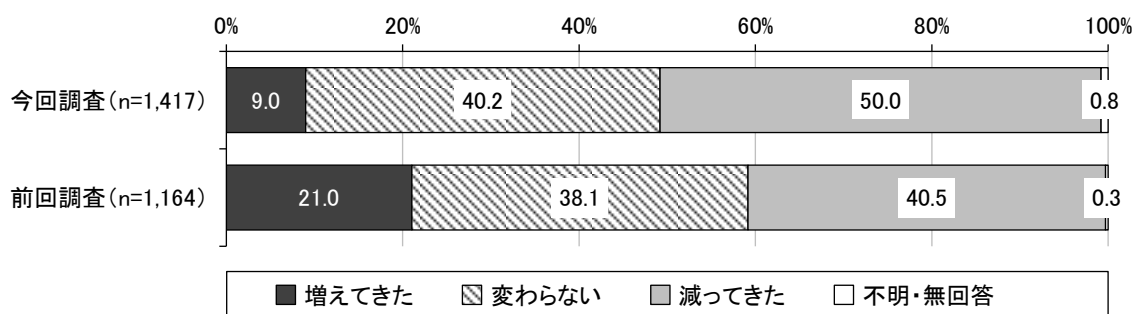
問5 ③地域で活動している人とふれあう機会（あてはまるもの1つ）【前回比較】

前回調査時と比較すると、地域で活動している人とふれあう機会が「増えてきた」と感じている回答者が減少し、「減ってきた」と感じている回答者が増加している。



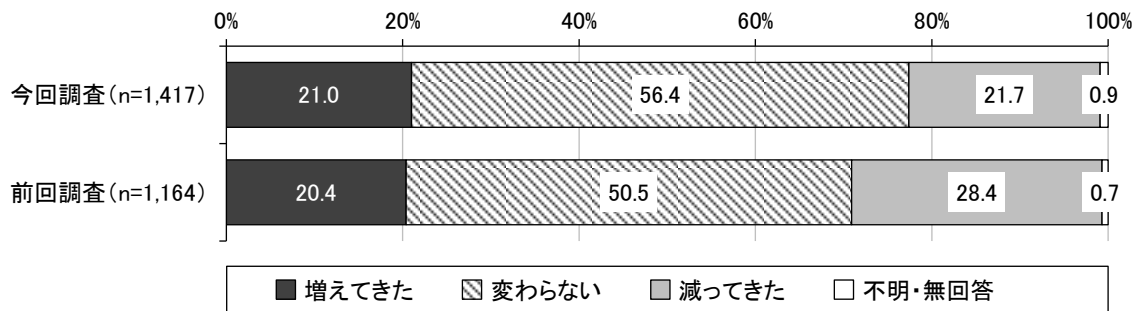
問5 ④高齢の人とふれあう機会（あてはまるもの1つ）【前回比較】

前回調査時と比較すると、高齢の人とふれあう機会が「増えてきた」と感じている回答者が減少し、「減ってきた」と感じている回答者が増加している。



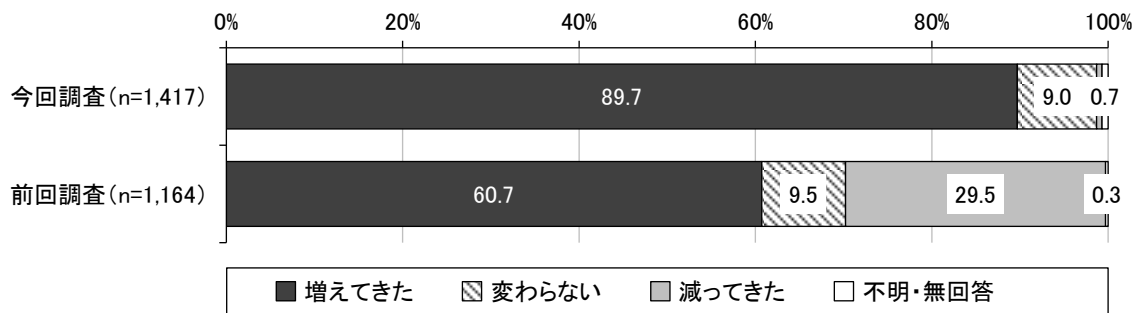
問5 ⑤外国の人や異文化とふれあう機会（あてはまるもの1つ）【前回比較】

前回調査時と比較すると、外国の人や異文化とふれあう機会が「減ってきた」と感じている回答者が減少している。



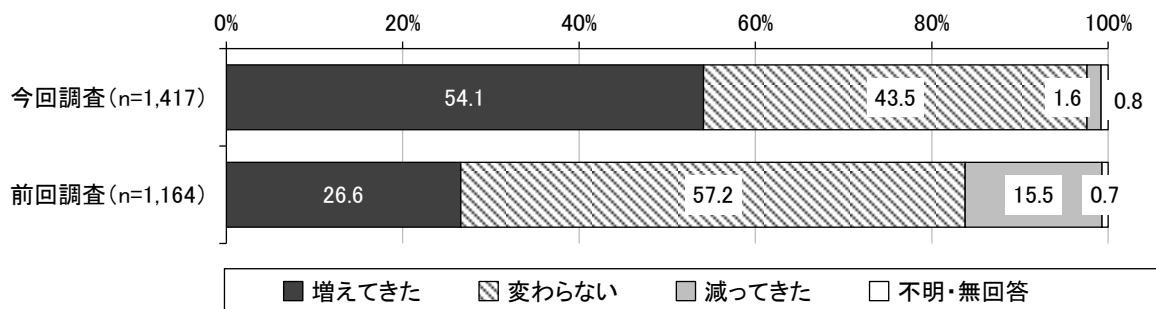
問5 ⑥インターネットなど多様な情報にふれる機会（あてはまるもの1つ）【前回比較】

前回調査時と比較すると、インターネットなど多様な情報にふれる機会が「増えてきた」と感じている回答者が増加している。



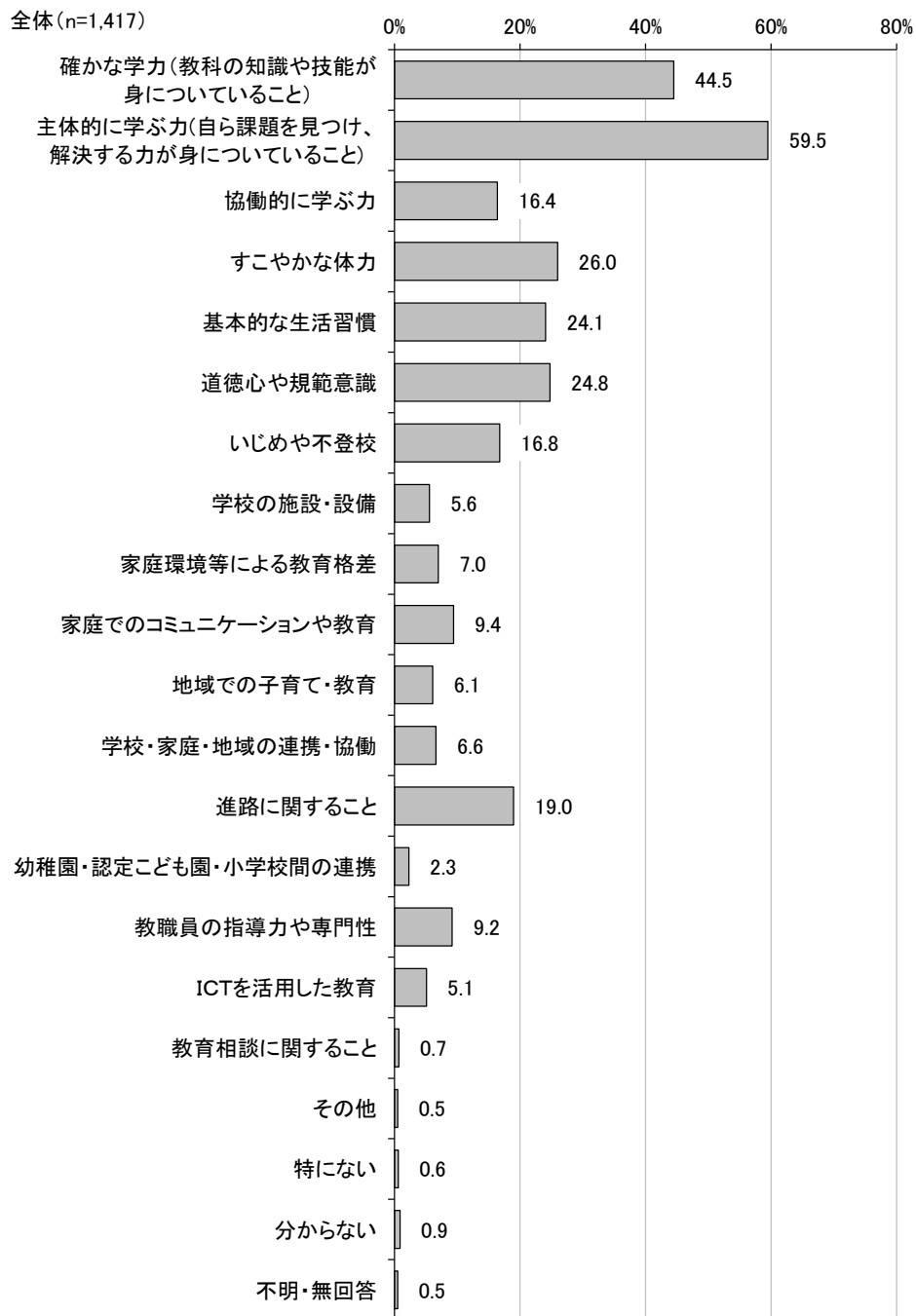
問5 ⑦家庭における経済格差（あてはまるもの1つ）【前回比較】

前回調査時と比較すると、家庭における経済格差が「増えてきた」と感じている回答者が増加し、「変わらない」「減ってきた」と感じている回答者が減少している。



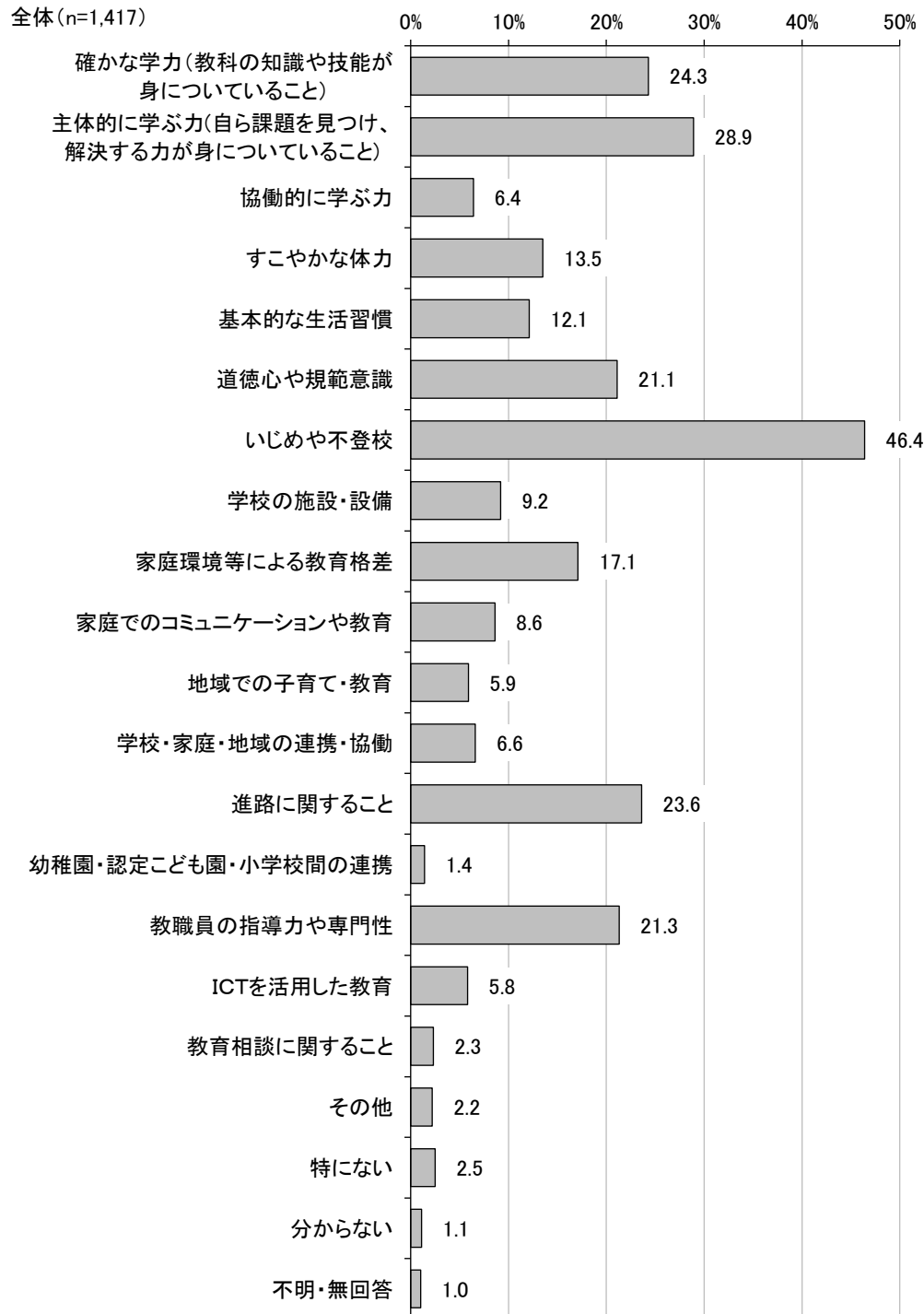
問6-1 あなたは、児童生徒の力や教育全般について、関心があることを選んでください。（あてはまるもの3つまで）

児童生徒の力や教育全般について関心のあることでは、「主体的に学ぶ力」が59.5%と最も多く、次いで「確かな学力」が44.5%と多くなっている。



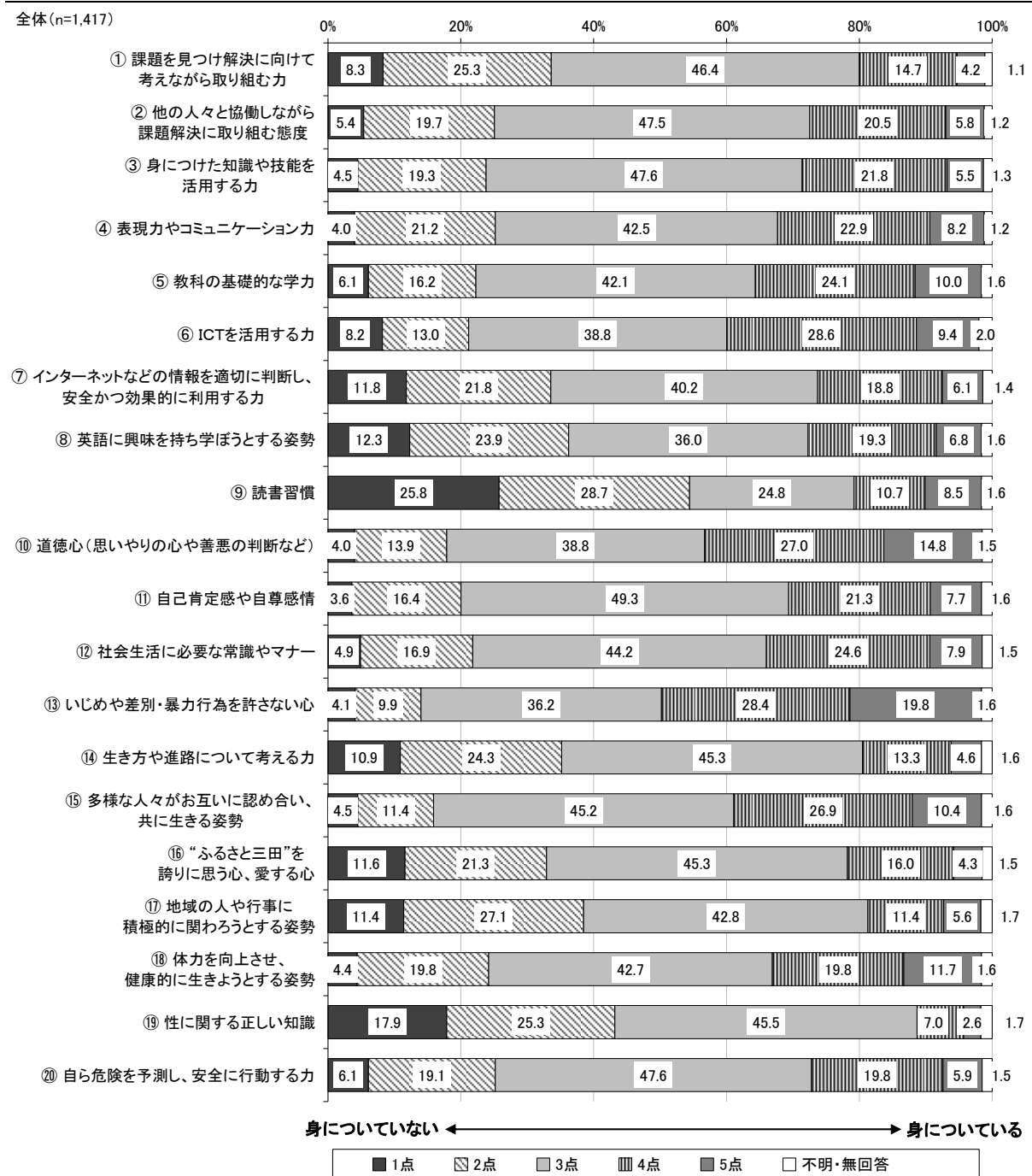
問6-2 あなたは、児童生徒の力や教育全般について、不安に感じていることを選んでください。（あてはまるもの3つまで）

「いじめや不登校」に関する不安が、次点の「主体的に学ぶ力」と比較して17.5ポイント多い。また「確かな学力」「進路に関すること」「教職員の指導力や専門性」など学力や学ぶ力、進路、教職員の資質に関することが不安として多い。



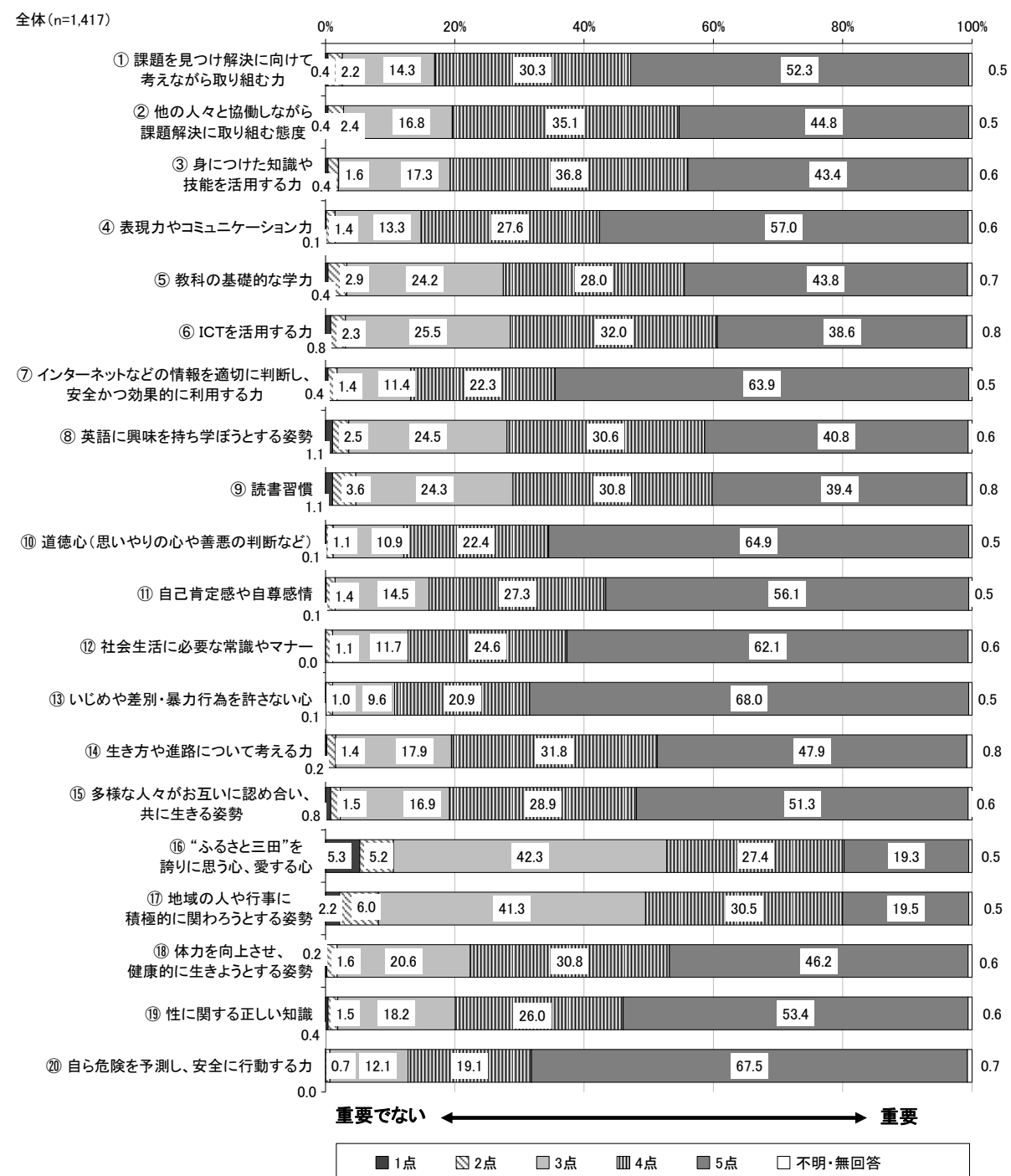
問7-1 教育を通じて、児童生徒には「現在」①～⑳の能力や態度が身についていると思いますか。（身につけている」を5点、「身につけていない」を1点として①～⑳ごとにあてはまるもの1つ）

児童生徒の「身につけている」能力や態度として、「⑬いじめや差別・暴力行為を許さない心」が最も多く、次いで「⑩道徳心」が多くなっている。一方で、「⑨読書習慣」が「身につけていない」と感じている回答者が最も多く、次いで「⑲性に関する正しい知識」が多くなっている。



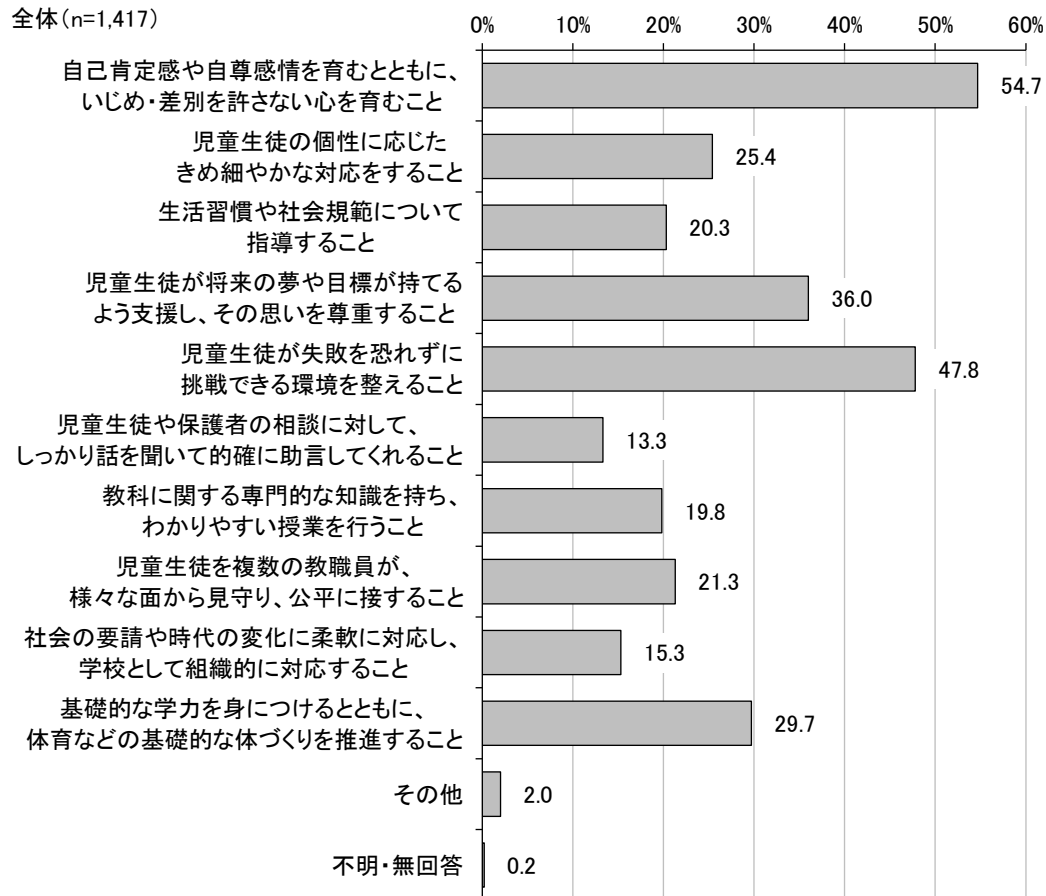
問7-2 「今後の重要度」について、あなたの考えに最も近いものを、それぞれ1つずつ選んでください。（「重要」を5点、「重要でない」を1点として①～⑳ごとにあてはまるもの1つ）

「今後の重要度」が高い項目について、「⑬いじめや差別・暴力行為を許さない心」が最も多く、次いで「⑳自ら危険を予測し、安全に行動する力」が多くなっている。一方で、「⑯“ふるさと三田”を誇りに思う心、愛する心」が重要でないと感じている回答者が最も多くなっている。



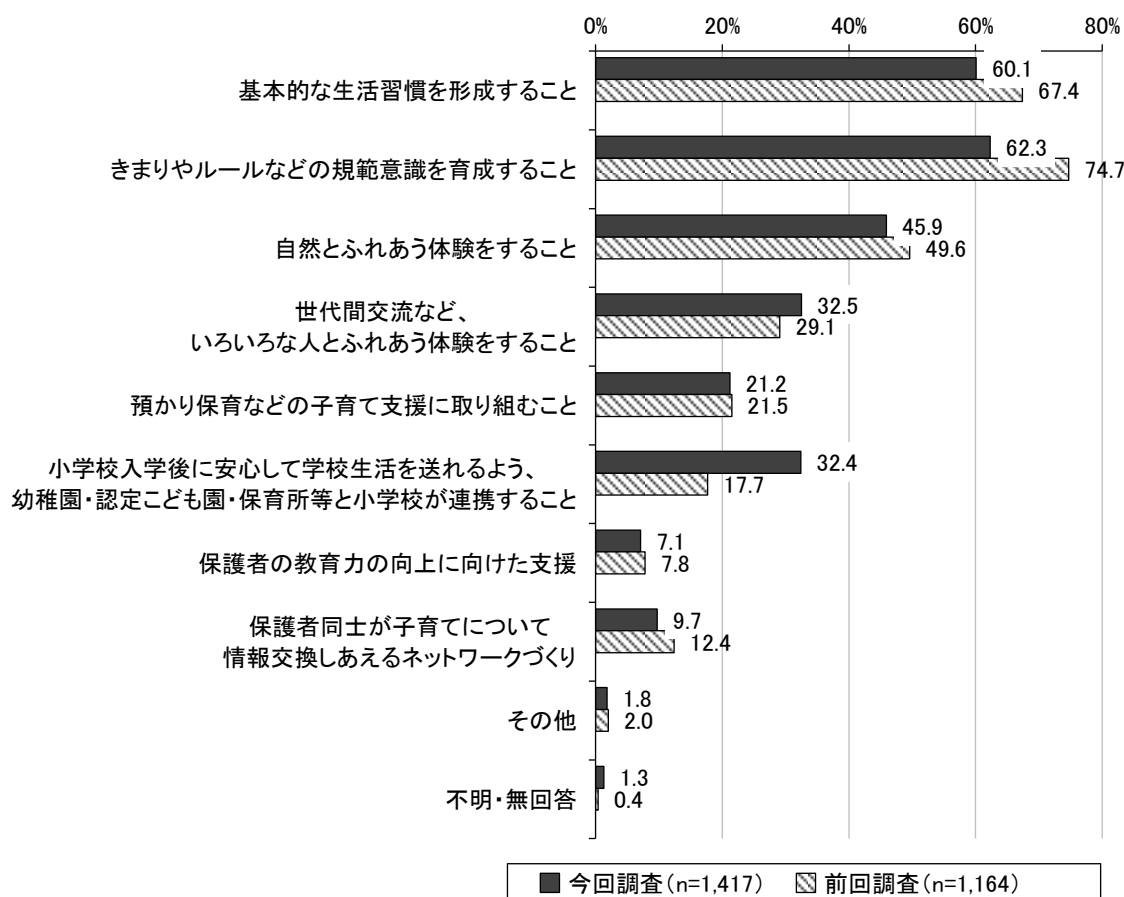
問8 あなたは学校に対してどのようなことを望みますか。(あてはまるもの3つまで)

学校に対して望むこととして、「自己肯定感や自尊感情を育むとともに、いじめ・差別を許さない心を育むこと」が54.7%と最も多く、次いで「児童生徒が失敗を恐れずに挑戦できる環境を整えること」が47.8%、「児童生徒が将来の夢や目標が持てるよう支援し、その思いを尊重すること」が36.0%と多くなっている。



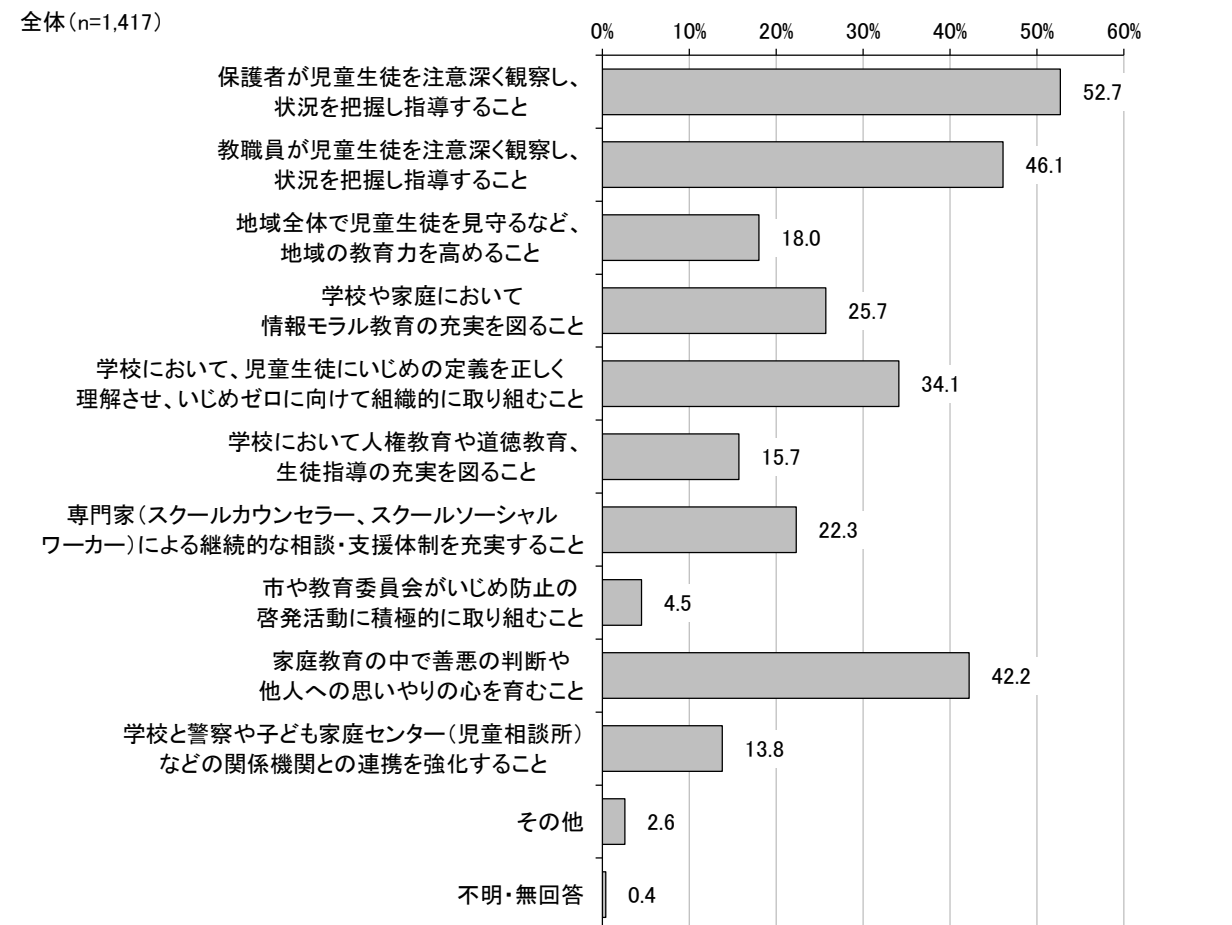
問9 あなたは就学前教育施設に対してどのようなことを望みますか。(あてはまるもの3つまで)

就学前教育施設に対して望むこととして、前回調査同様に「きまりやルールなどの規範意識を育成すること」が62.3%と最も多く、次いで「基本的な生活習慣を形成すること」が60.1%と多くなっているが、どちらもその割合は減少している。一方で、「小学校入学後に安心して学校生活を送れるよう、幼稚園・認定こども園・保育所等と小学校が連携すること」が32.4%と前回調査と比べて14.7ポイントと最も増加している。



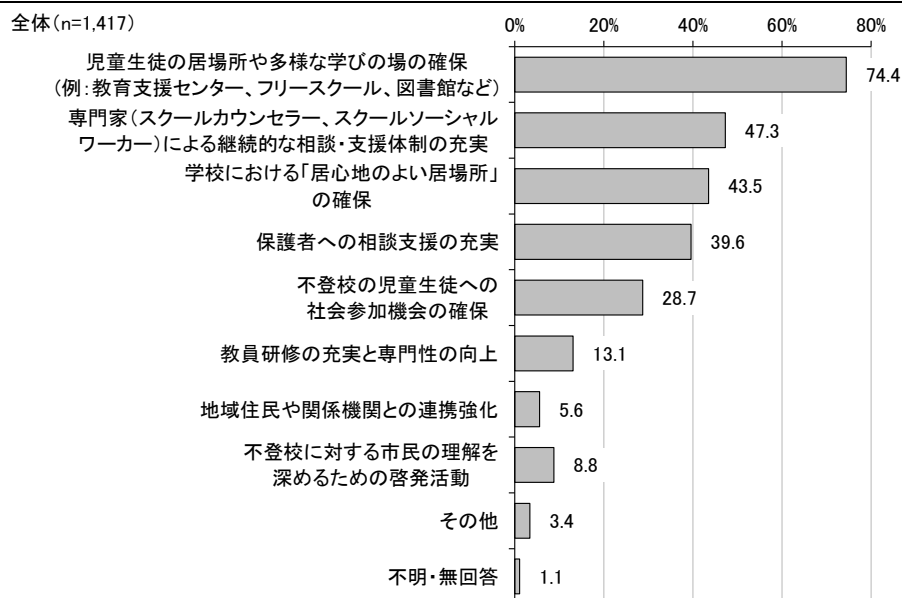
問10 あなたは、いじめや問題行動などを防止するためにはどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの3つまで）

いじめや問題行動を防止するために必要なこととして、「保護者が児童生徒を注意深く観察し、状況を把握し指導すること」が52.7%と最も多く、次いで「教職員が児童生徒を注意深く観察し、状況を把握し指導すること」が46.1%、「家庭教育の中で善悪の判断や他人への思いやりの心を育むこと」が42.2%と多くなっている。



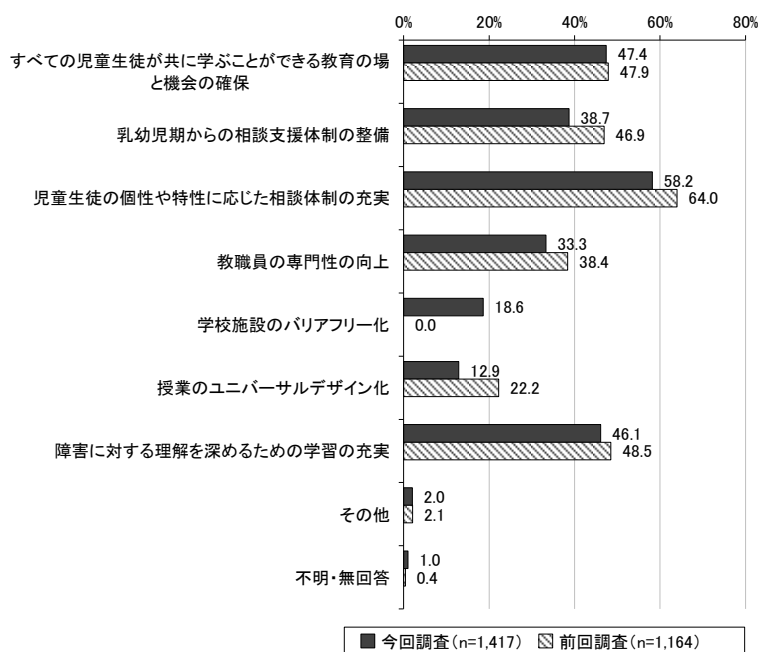
問11 あなたは、不登校に対応するために、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの3つまで）

不登校を防止するために必要なこととして、「児童生徒の居場所や多様な学びの場の確保」が74.4%と最も多く、次いで「専門家による継続的な相談・支援体制の充実」が47.3%、「学校における「居心地のよい居場所」の確保」が43.5%と多くなっている。



問12 あなたは、特別支援教育の充実のためにどのような取組が必要だと思いますか。（あてはまるもの3つまで）

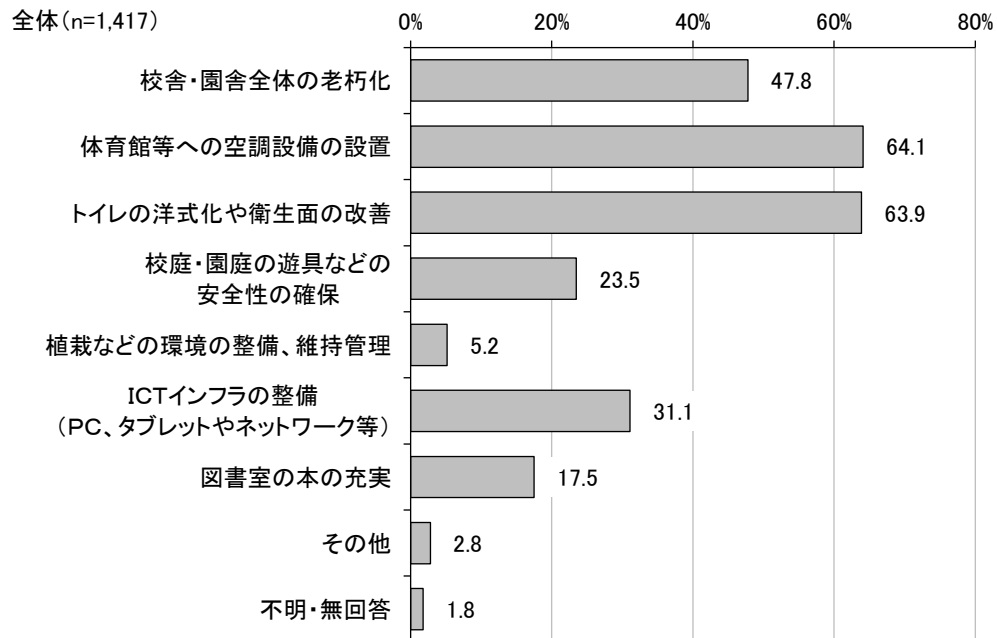
特別支援教育の充実のために必要なこととして、前回調査と比較して割合は減っているものの「児童生徒の個性や特性に応じた相談体制の充実」が58.2%と最も多い。また、新しい選択肢である「学校施設のバリアフリー化」は18.6%となっている。



※「学校施設のバリアフリー化」は今回調査より追加

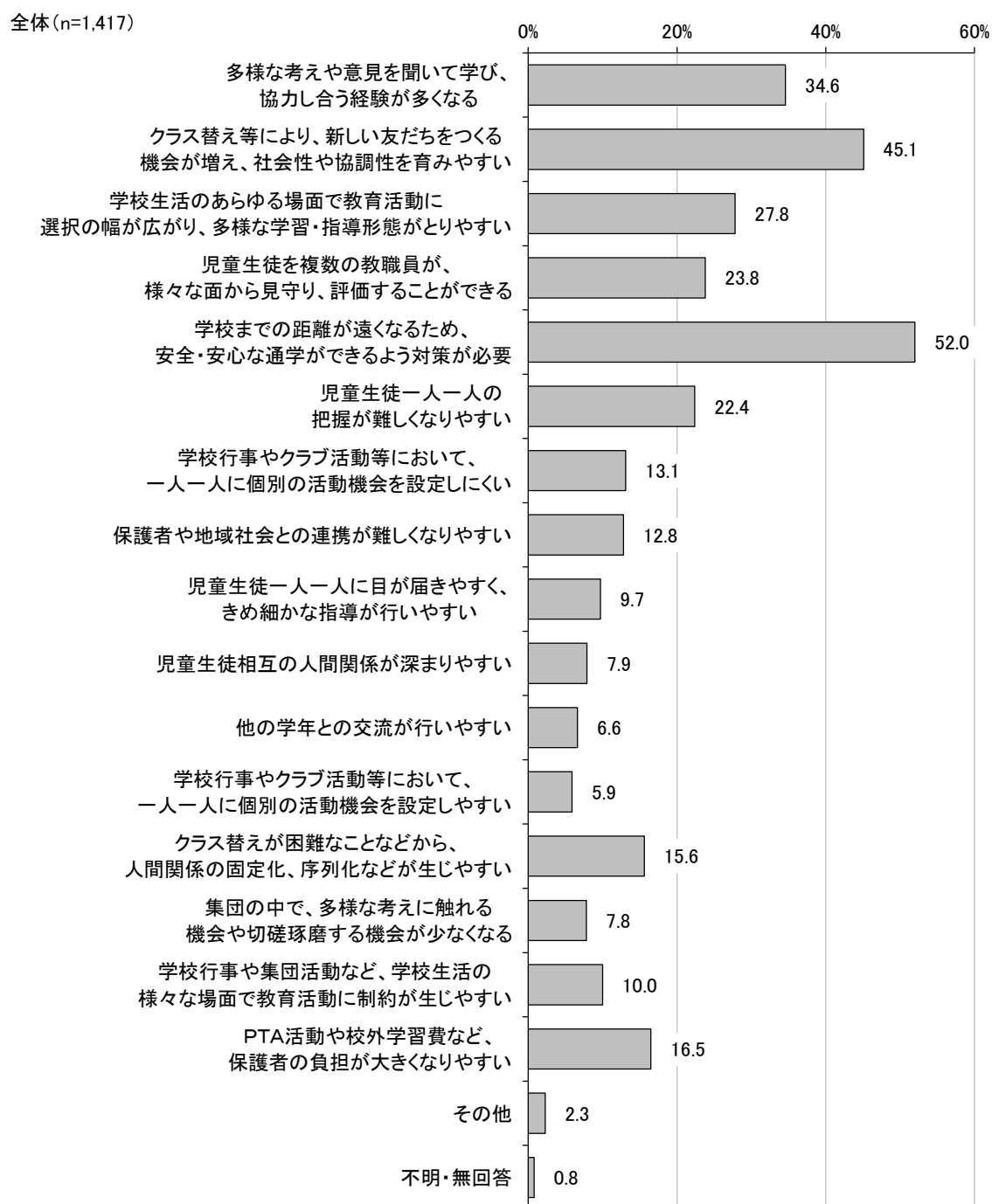
問 13 あなたは、学校の施設や設備で改善すべきだと思うことはありますか。（あてはまるもの3つまで）

学校の施設や設備で改善すべき点として、「体育館等への空調設備の設置」と「トイレの洋式化や衛生面の改善」が約64%とほぼ同じ割合で最も多く、次いで「校舎・園舎全体の老朽化」が47.8%と多くなっている。



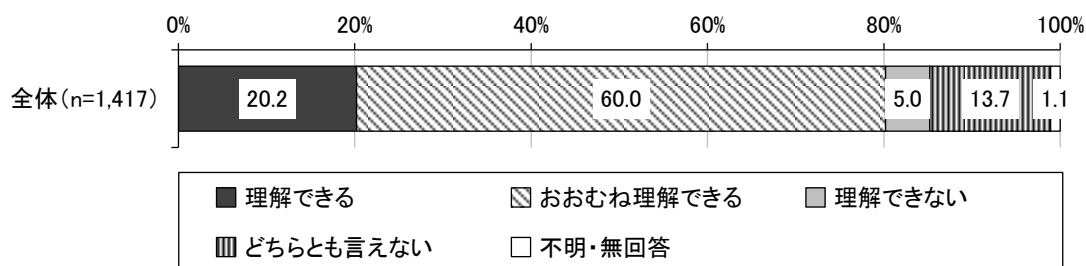
問 14 本市では、学校の小規模化に伴う諸課題を解消し、教育環境や学習環境を充実していくため、三田市立学校のあり方に関する基本方針に基づき学校再編（統合）の取組を進めていくこととしています。この取組について期待することや、心配なことなど、あなたのお考えに近いものを選んでください。（あてはまるものすべて）

学校再編の取組について期待することや心配なこととして、「通学距離が長くなるため、安全・安心な通学ができるよう対策が必要」が52.0%と最も多く、次いで「クラス替え等により、新しい友だちをつくる機会が増え、社会性や協調性を育みやすい」が45.1%と多くなっている。



問 14-1 あなたは、学校再編の取組についてどのように思われますか。（あてはまるもの1つ）

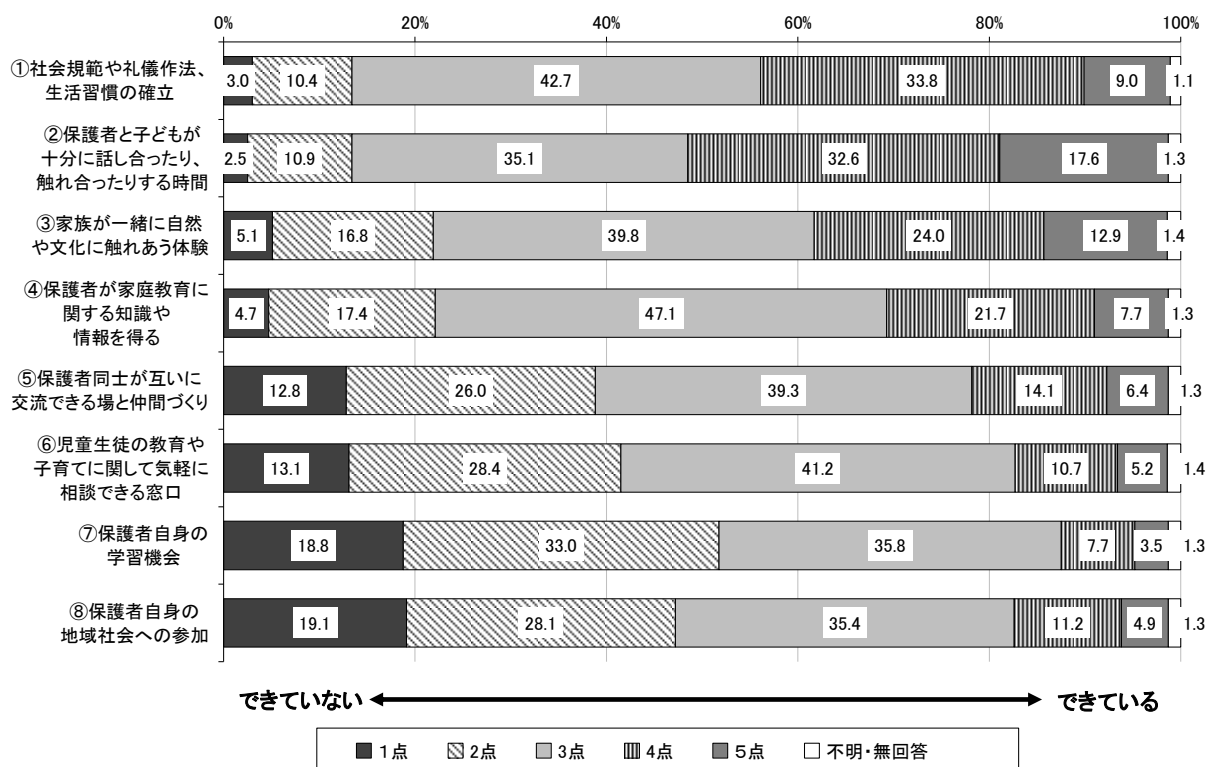
学校再編の取組について、「理解できる」「おおむね理解できる」とする回答が合計で 80.2%と多くなっている。



### 3 家庭・地域で児童生徒を育てていくことについて

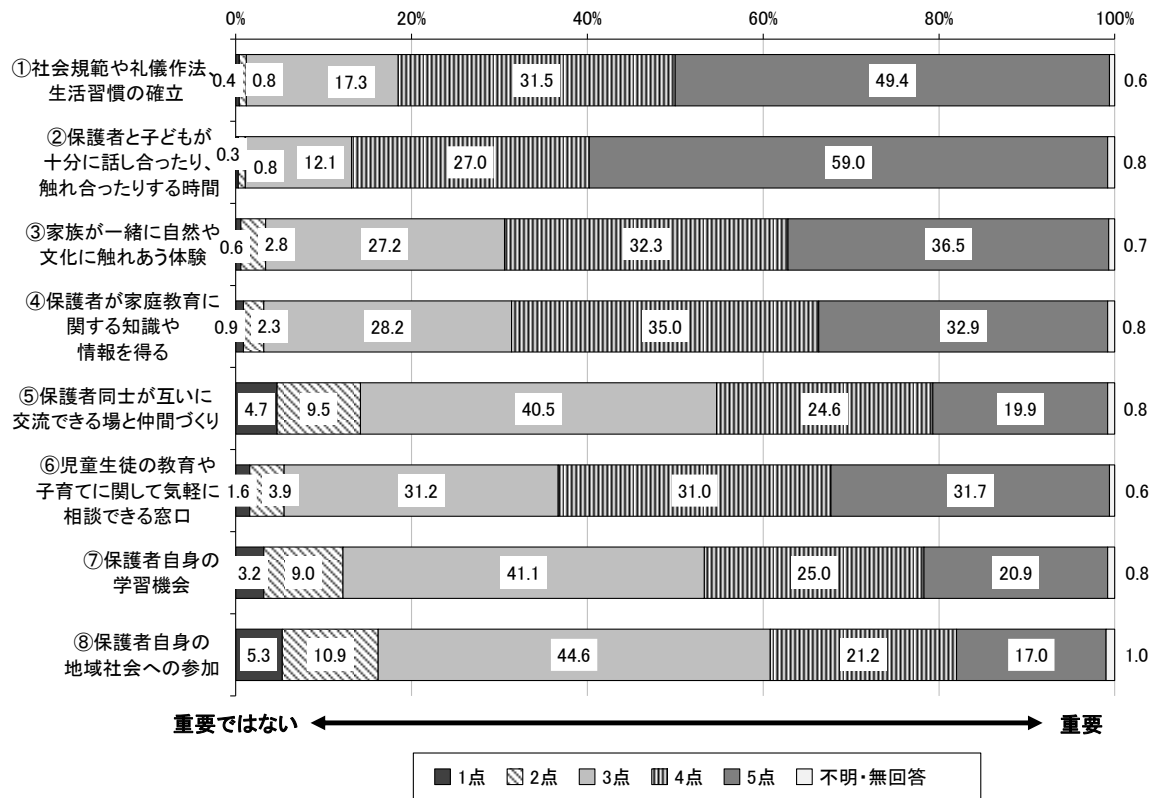
問 15-1 家庭での教育について「現在」①～⑧ができていますか。（「できている」を5点、「できてない」を1点として①～⑧それぞれあてはまるもの1つ）

家庭での教育について「できている」ことは、「②保護者と子どもが十分に話し合ったり、触れ合ったりする時間」が最も多く、次いで「③家族と一緒に自然や文化に触れあう体験」「①社会規範や礼儀作法、生活習慣の確立」が多くなっている。一方で、「⑦保護者自身の学習機会」「⑧保護者自身の地域社会への参加」が少なくなっている。



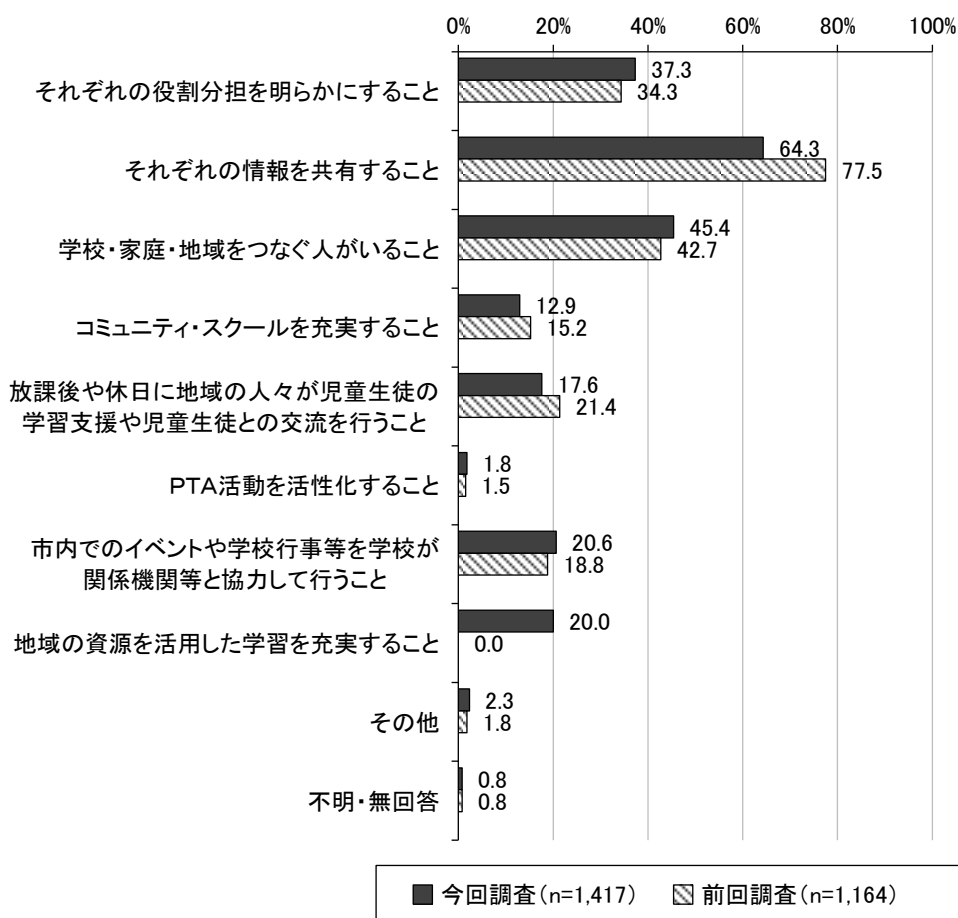
問 15-2 「今後の重要度」について、それぞれ選んでください。（「重要」を5点、「重要でない」を1点として①～⑧それぞれあてはまるもの1つ）

家庭での教育における今後の重要度について、「②保護者と子どもが十分に話し合ったり、触れ合ったりする時間」が重要だと感じている回答者が最も多く、次いで「①社会規範や礼儀作法、生活習慣の確立」が多くなっている。



問 16 学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深め、子育てをしていくことが求められますが、その上で、大切なことは何だと思えますか。（あてはまるもの3つまで）

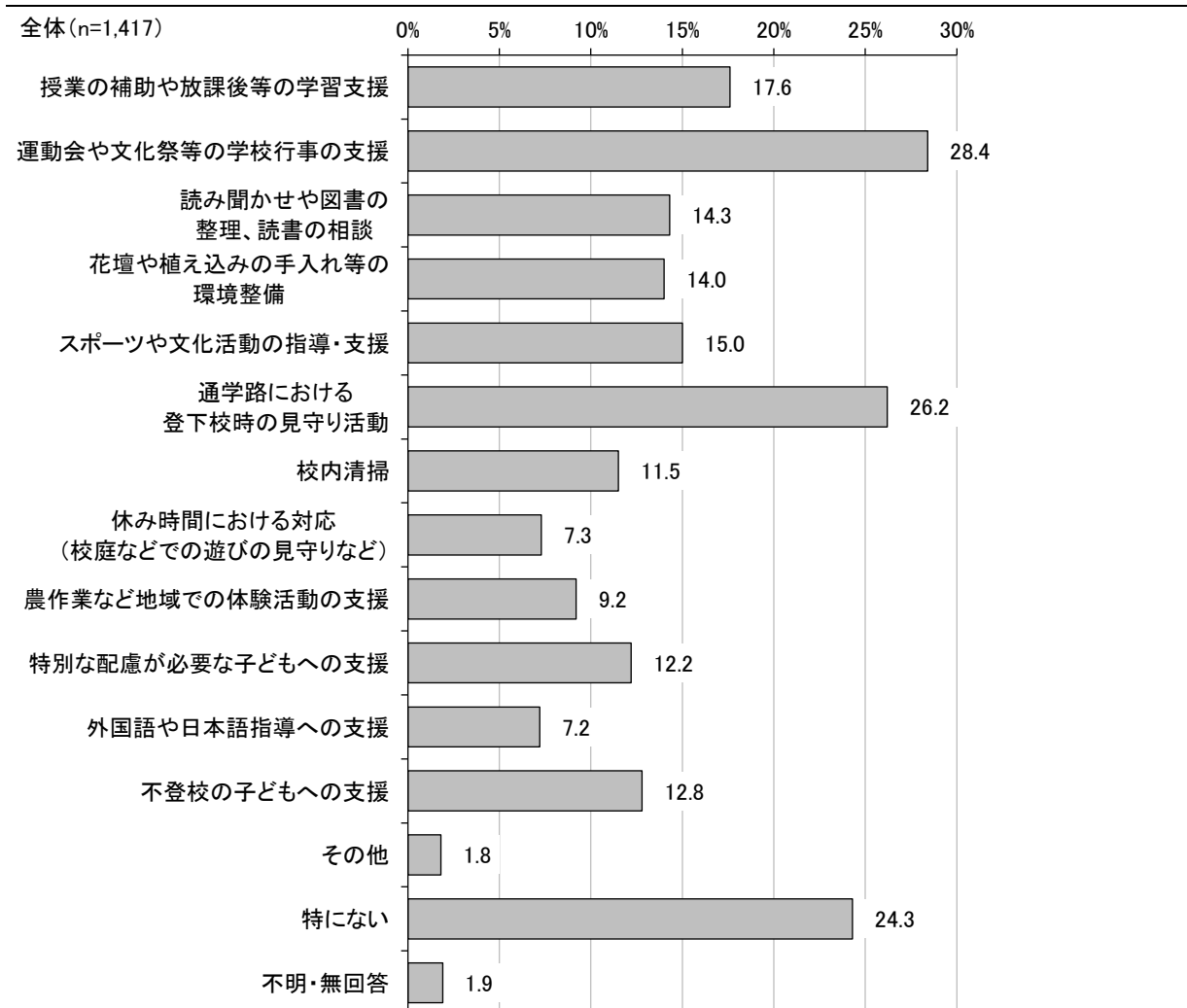
学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深め、子育てをしていく上で大切なこととして、「それぞれの情報を共有すること」が64.3%と前回調査と比較して減少しているものの、最も多くなっている。次いで、「学校・家庭・地域をつなぐ人がいること」が45.4%と多くなっている。また、新しい選択肢である「地域の資源を活用した学習を充実すること」は20%となっている。



※「地域の資源を活用した学習を充実すること」は今回調査より追加

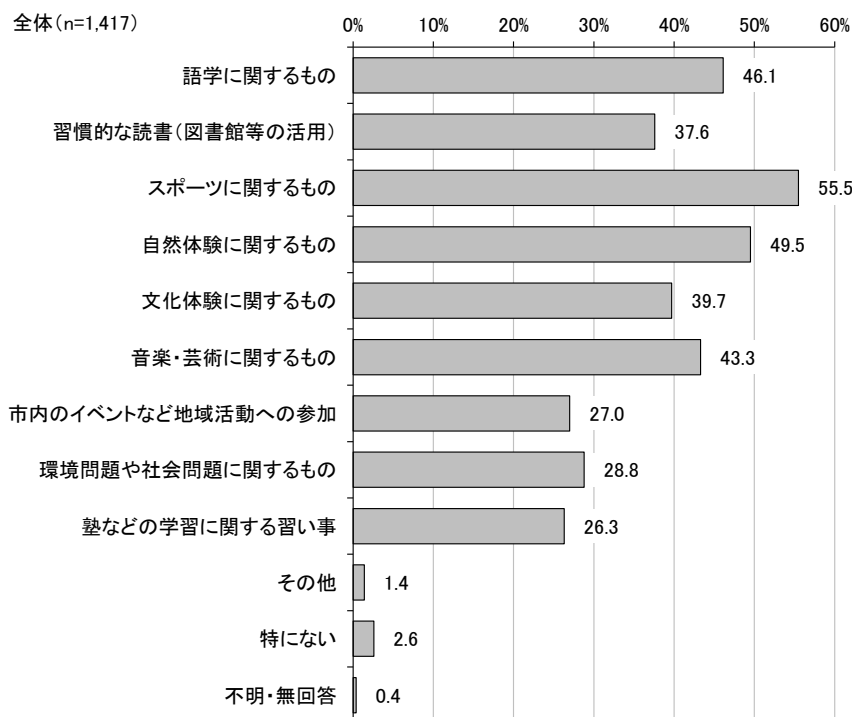
問 17 学校に対して協力してみたいと思うことはありますか。（あてはまるものすべて）

学校に対して協力してみたいこととして、「運動会や文化祭等の学校行事の支援」が 28.4%と最も多く、次いで「通学路における登下校時の見守り活動」が 26.2%と多くなっている。また、「特にない」という回答が3番目に多くなっている。



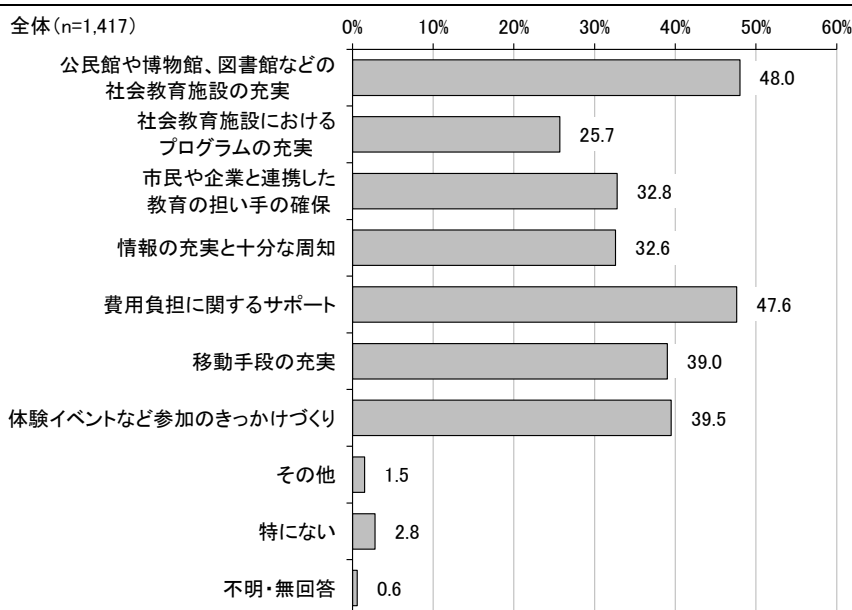
問 18 あなたは、学校や家庭以外で、児童生徒にどのような教育や体験活動が必要だと思いますか。（あてはまるものすべて）

学校や家庭以外で必要な教育や体験活動について、「スポーツに関するもの」が 55.5%と最も多く、次いで「自然体験に関するもの」が 49.5%と多くなっている。



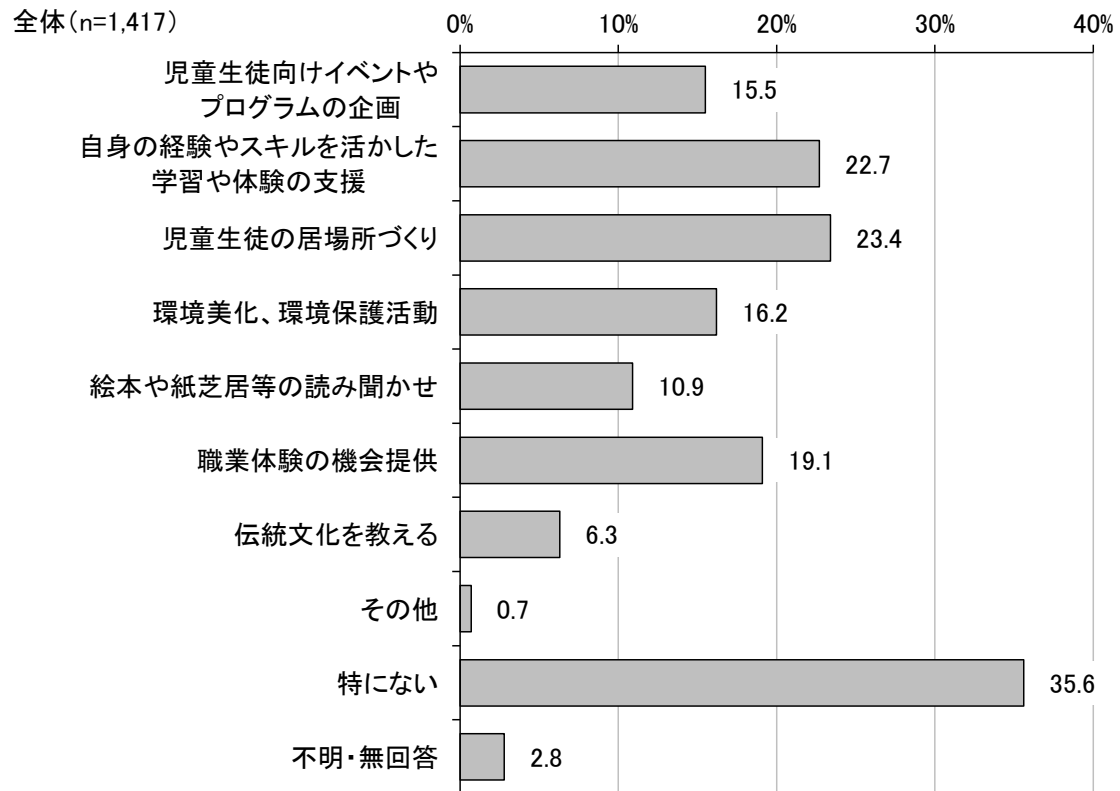
問 18-1 学校や家庭以外での教育のためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべて）

学校や家庭以外で教育を進めるために必要だと思うことについて、「公民館や博物館、図書館などの社会教育施設の充実」が 48.0%と最も多く、次いで「費用負担に関するサポート」が 47.6%と多くなっている。



問 19 学校や家庭以外での教育において、協力してみたいと思うことはありますか。（あてはまるものすべて）

学校や家庭以外で教育において協力してみたいことについて、「特にない」が 35.6%と最も多く、次いで「児童生徒の居場所づくり」が 23.4%と多くなっている。

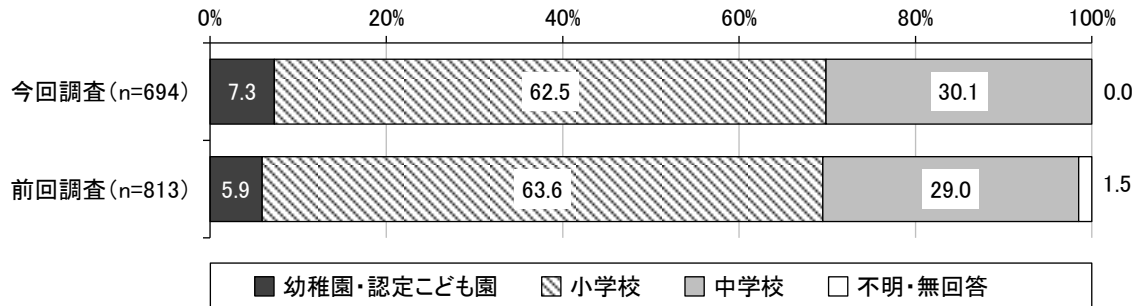


### Ⅲ 教職員アンケート調査結果

#### 1 回答者の基本属性

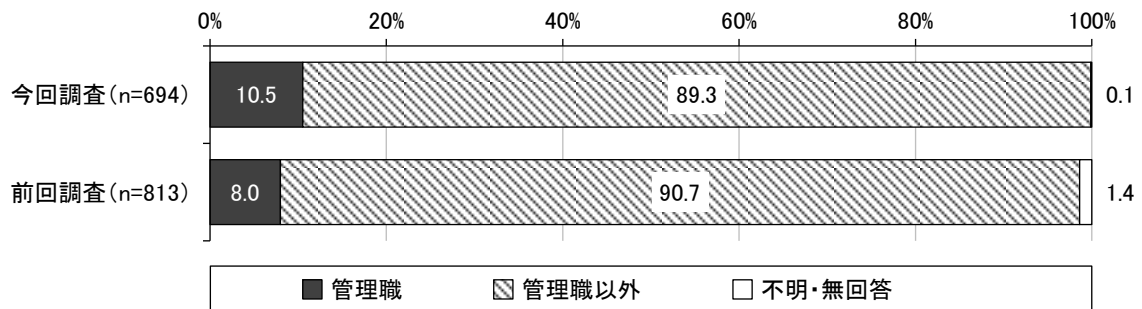
問1 あなたの勤務先はどちらですか。（あてはまるもの1つ）

今回の回答者の勤務先割合は前回調査時と大きな変化はなく、「幼稚園・認定こども園」が7.3%、「小学校」が62.5%、「中学校」が30.1%となっている。



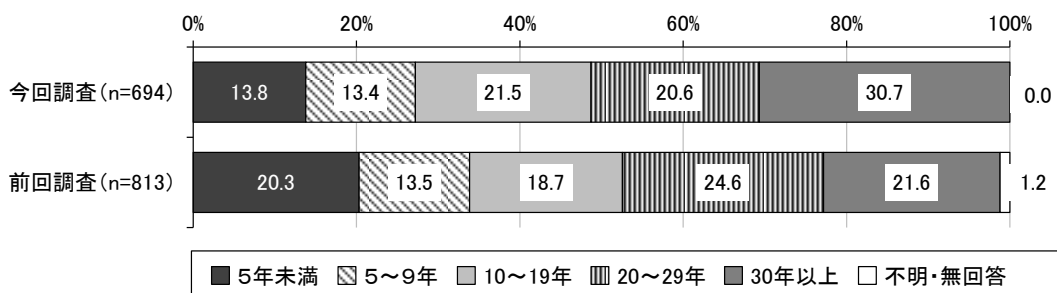
問2 あなたの職種を教えてください。（あてはまるもの1つ）

職種についても前回調査時と大きな変化はなく、「管理職」が10.5%、「管理職以外」が89.3%となっている。



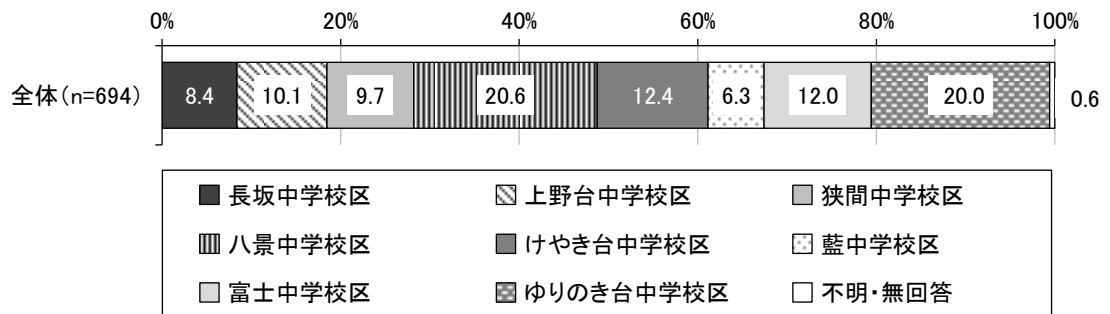
問3 三田市外を含む、学校の現場でのあなたの勤務経験を教えてください。（あてはまるもの1つ）

勤務経験において、前回調査時と比較し「30年以上」の回答者が9.1ポイント増加し、「5年未満」の回答者が6.5ポイント減少した。



問4 あなたが勤務している学校はどの校区ですか。(あてはまるもの1つ)

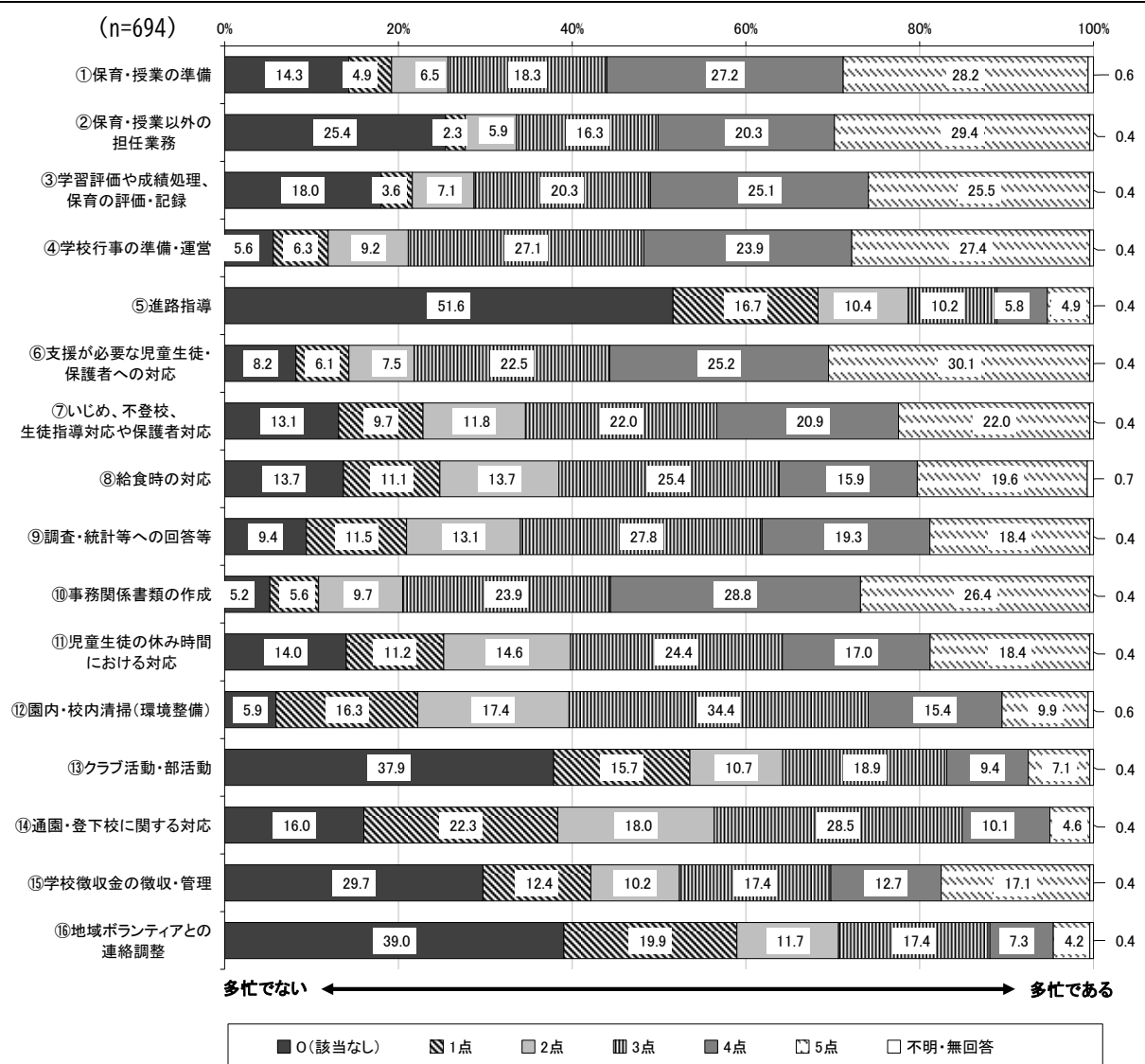
勤務している校区については、「八景中学校区」が最も多い20.6%、次いで「ゆりのき台中学校区」が20.0%、「けやき台中学校区」が12.4%となっている。



## 2 教職員の職場環境について

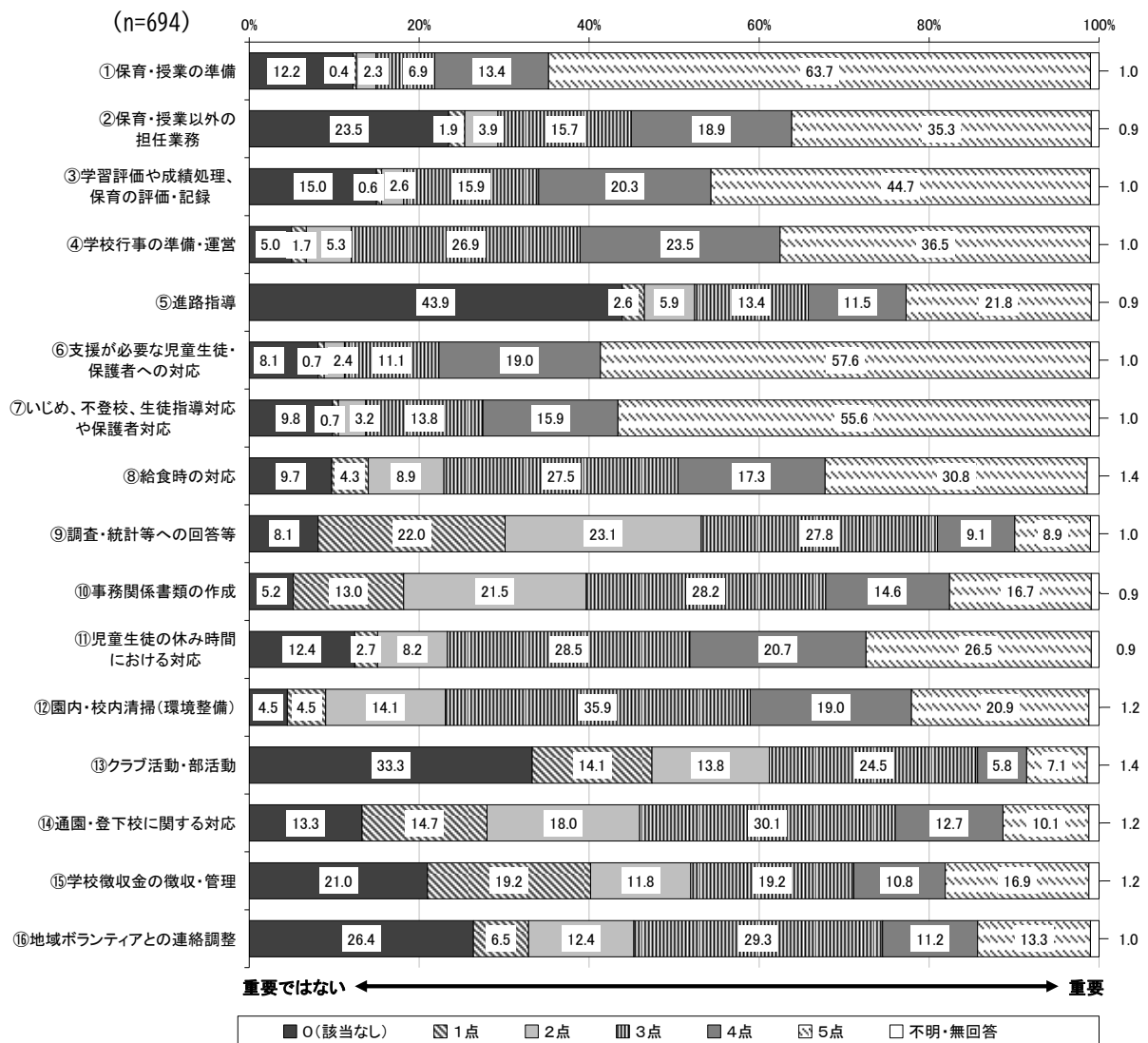
問5-1 あなたはご自身の職務について、「現在の状況」として、①～⑯のどの業務が多忙ですか。（「該当なし」を0とし、「多忙である」を5点、「多忙でない」を1点としてそれぞれあてはまるもの1つ）

教職員にとって現在多忙な業務は、「⑥支援が必要な児童生徒・保護者への対応」が30.1%と最も多く、次いで「②保育・授業以外の担任業務」が29.4%、「①保育・授業の準備」が28.2%と多くなっている。



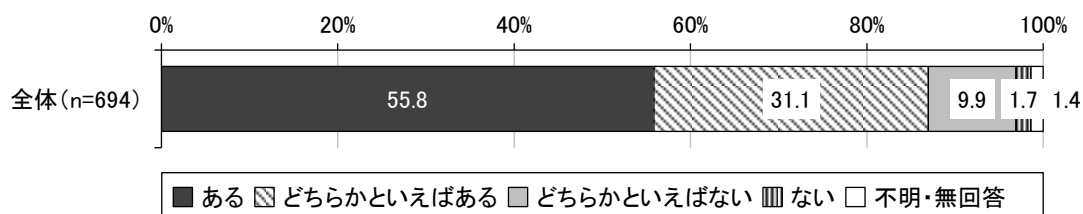
問5-2 ①～⑯の業務としての「今後の重要度」について、あなたの考えに最も近いものを、それぞれ1つずつ選んでください。（「該当なし」を0とし、「重要」を5点、「重要でない」を1点としてそれぞれあてはまるもの1つ）

教職員における今後の重要度は、「①保育・授業の準備」が63.7%最も多く、次いで「⑥支援が必要な児童生徒・保護者への対応」が57.6%、「⑦いじめ、不登校、生徒指導対応や保護者対応」が55.6%と多くなっている。



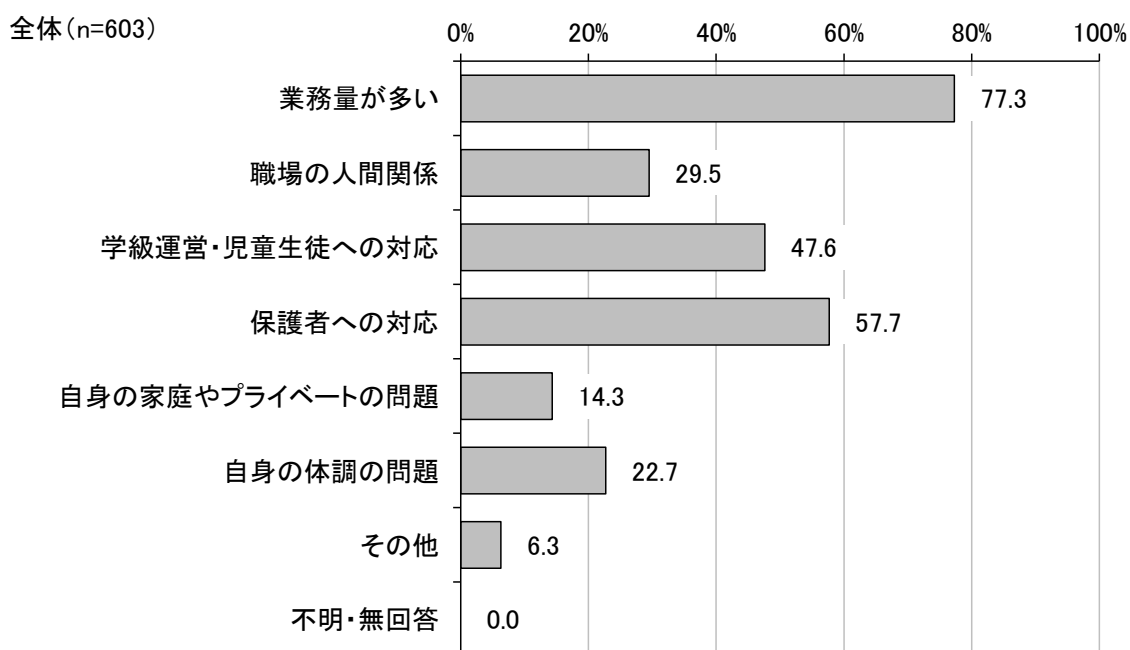
問6 業務において、負担やストレスを感じる点がありますか。（あてはまるもの1つ）

業務において負担やストレスを感じる点が「ある」と回答した人が55.8%と半数を超えており、「どちらかといえばある」と感じている回答者を含めると86.9%と、多くの教職員が負担やストレスを感じていることがうかがえる。



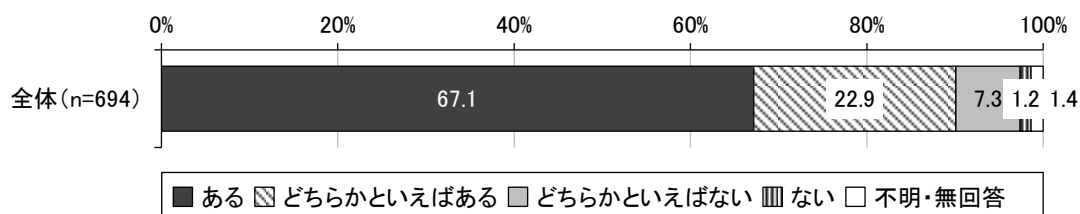
問6-1 負担やストレスを感じるのはどんなことですか。（あてはまるものすべて）

具体的な負担やストレスの原因として、「業務量が多い」ことが77.3%と最も多く、次いで「保護者への対応」が57.7%となっている。一方で、「自身の家庭やプライベートの問題」や「自身の体調の問題」という回答はそれぞれ14.3%、22.7%と少なくなっている。



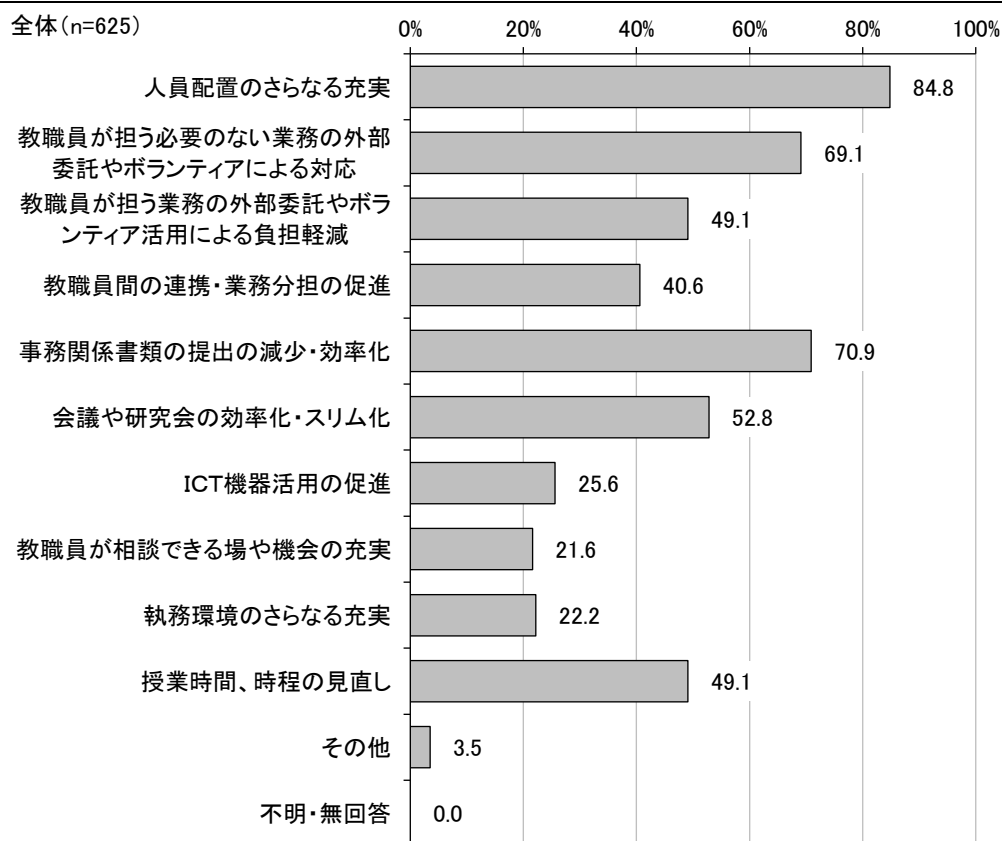
問7 業務を進めるうえで、改善が必要だと感じる点がありますか。（あてはまるもの1つ）

業務を進めるうえで、改善が必要だと感じる点が「ある」と回答した人が67.1%、「どちらかといえばある」と感じている回答者を含めると90.0%と多くなっている。



問7-1 特に改善が必要だと思うものは何ですか。（あてはまるものすべて）

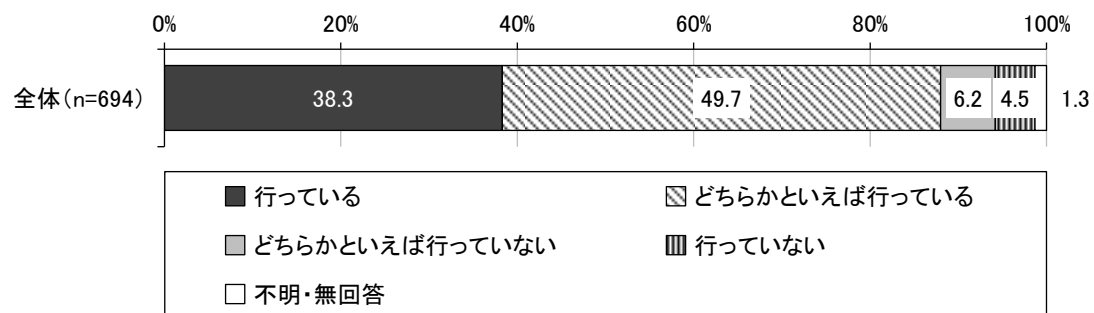
特に改善が必要だと思う点について、「人員配置のさらなる充実」が84.8%と最も多く、次いで「事務関係書類の提出の減少・効率化」が70.9%、「教職員が担う必要のない業務の外部委託やボランティアによる対応」が69.1%と多くなっている。



### 3 教育や学習に関する取組について

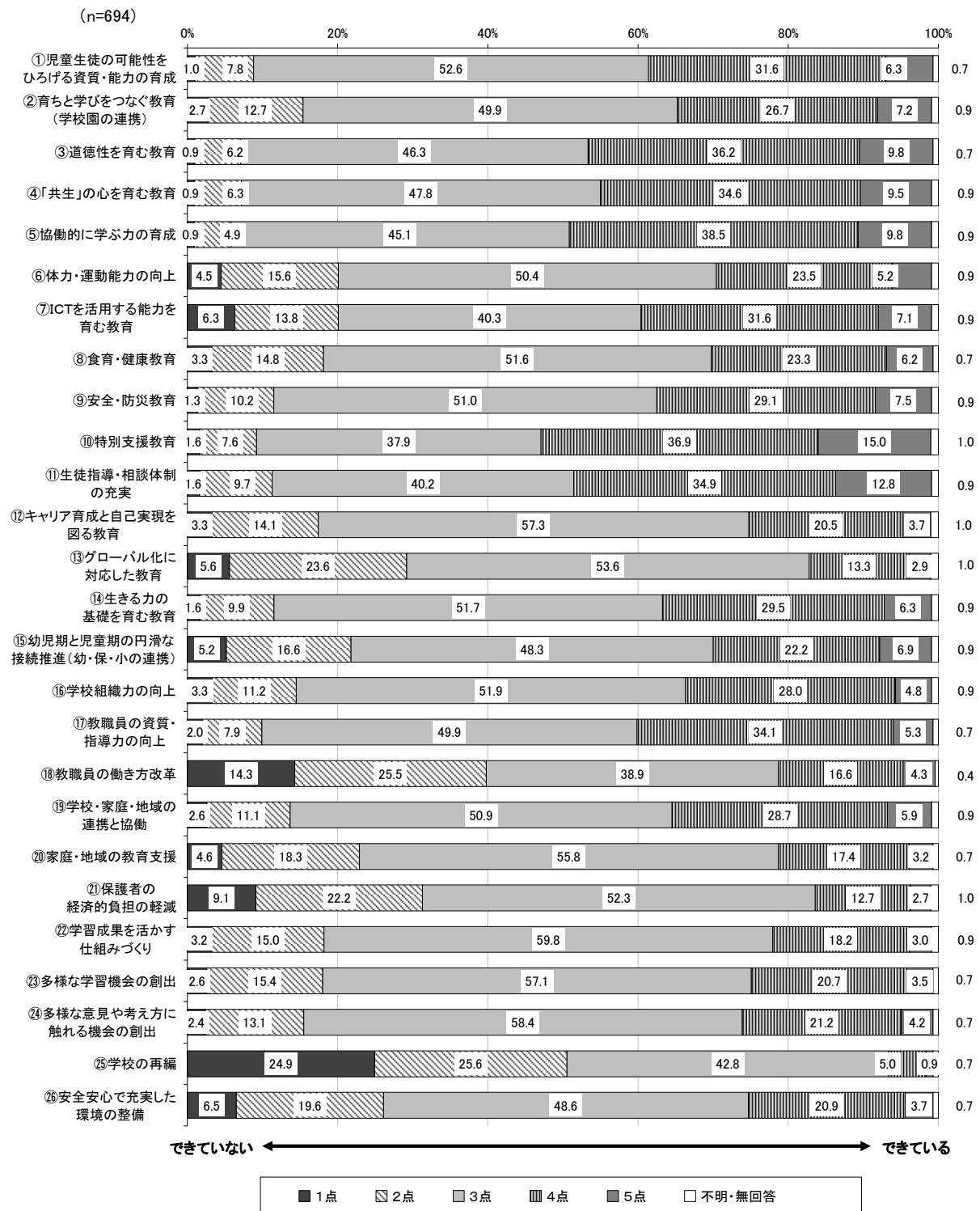
問8 あなたは、児童生徒への指導力向上に向けた実践を行っていますか。（あてはまるもの1つ）

指導力向上に向けた実践について、「行っている」「どちらかといえば行っている」と回答した人が88.0%であり、「行っていない」「どちらかといえば行っていない」と回答した人が約10%となっている。



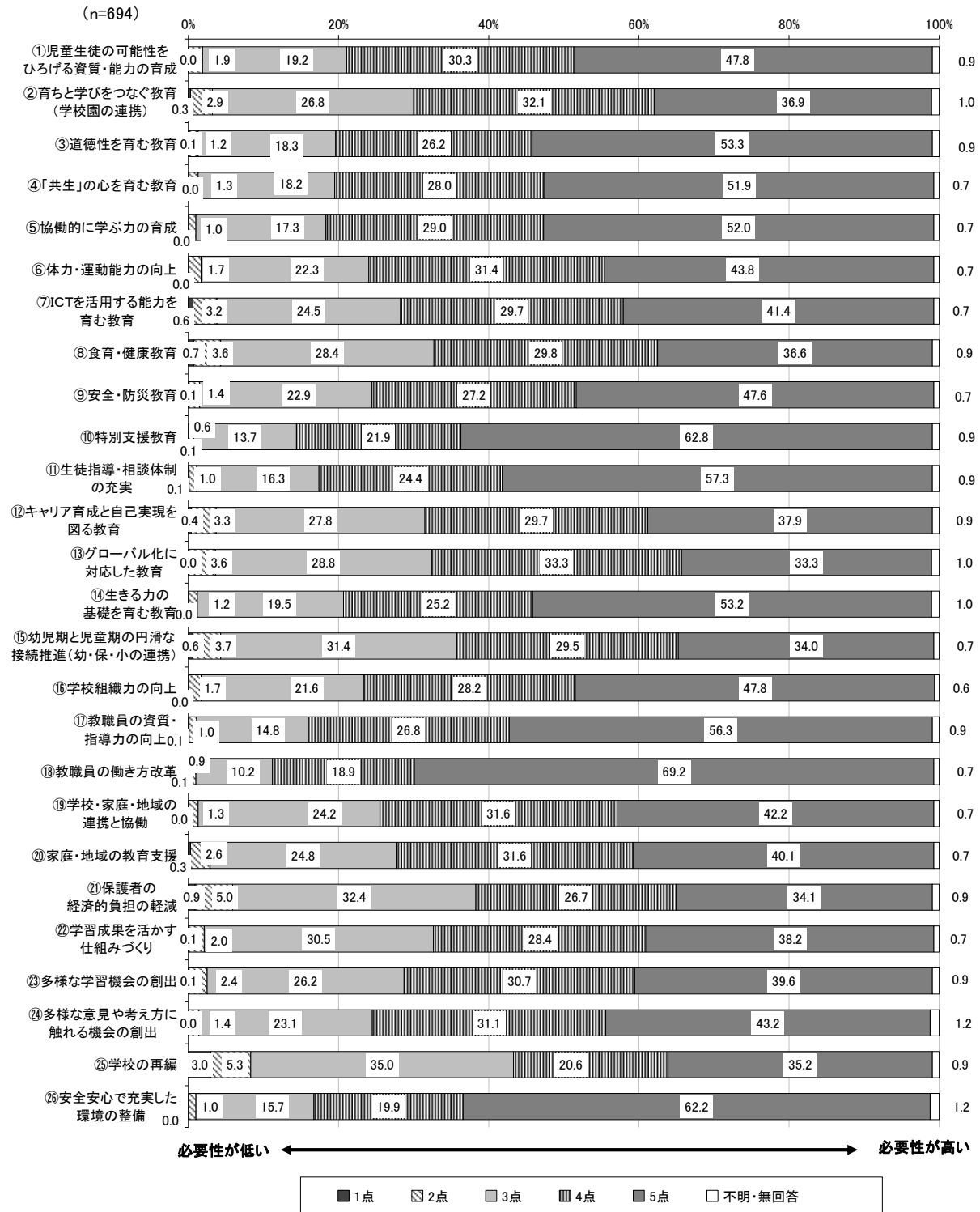
問9-1 ①～②⑥の三田市の教育の取組の中で、「現在の状況」（できていると感じるもの）はどれですか。（「できている」を5点、「できていない」を1点としてそれぞれあてはまるもの1つ）

教育の取組の中で「現在できている」と感じるものとして、「⑩特別支援教育」や「⑪生徒指導・相談体制の充実」が多くなっている一方で、できていないと感じているものとして「②⑤学校の再編」や「⑬教職員の働き方改革」が多くなっている。



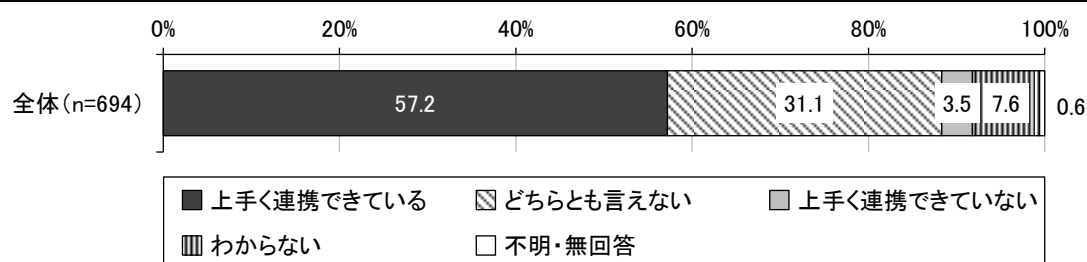
問9-2 ①～⑳の三田市の教育の取組の中で、今後「充実する必要があるもの」はどれですか。（充実が「必要」を5点、「必要でない」を1点としてそれぞれあてはまるもの1つ）

教育の取組の中で「充実する必要がある」と感じるものとして、「⑱教職員の働き方改革」が最も多く、次いで「⑩特別支援教育」や「㉖安全安心で充実した環境の整備」「⑪生徒指導・相談体制の充実」「⑰教職員の資質・指導力の向上」などが多くなっている。



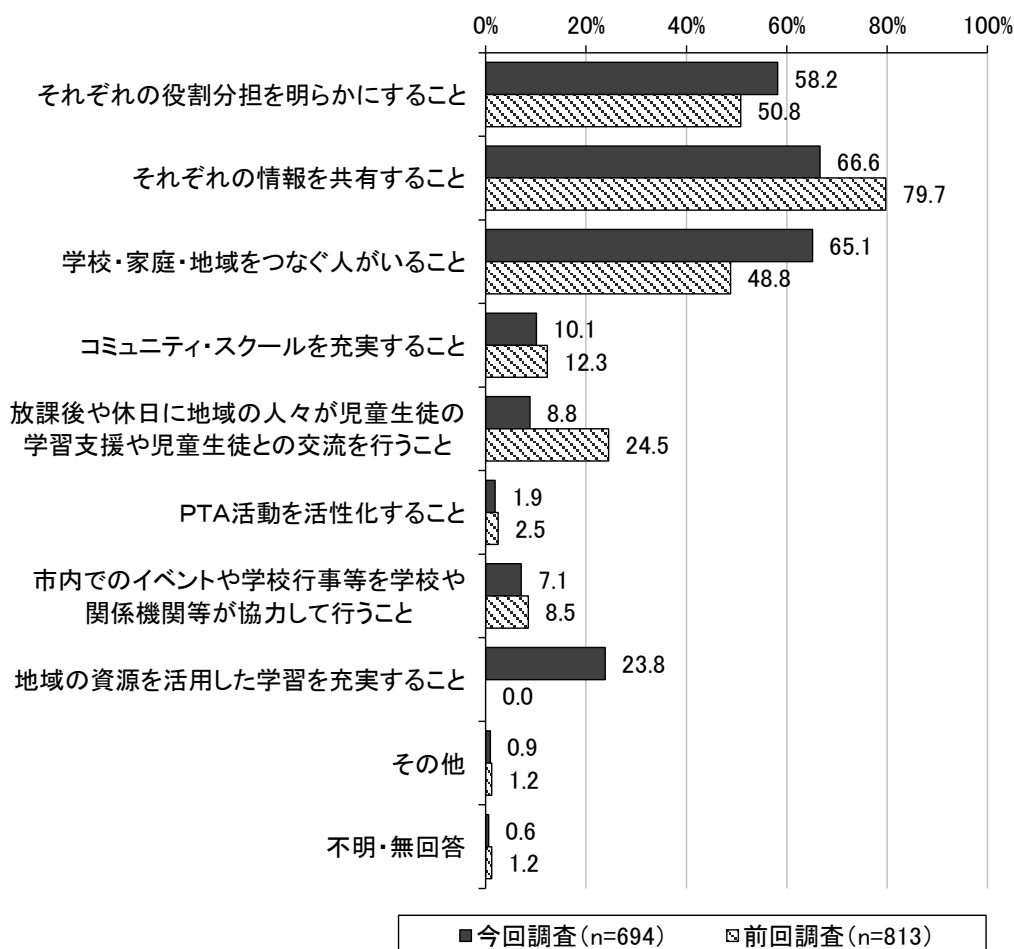
問 10 あなたの学校と地域は、上手く連携できていますか。（あてはまるもの1つ）

学校と地域の連携について、「上手く連携できている」と感じている回答者が 57.2%と半数以上となっている。



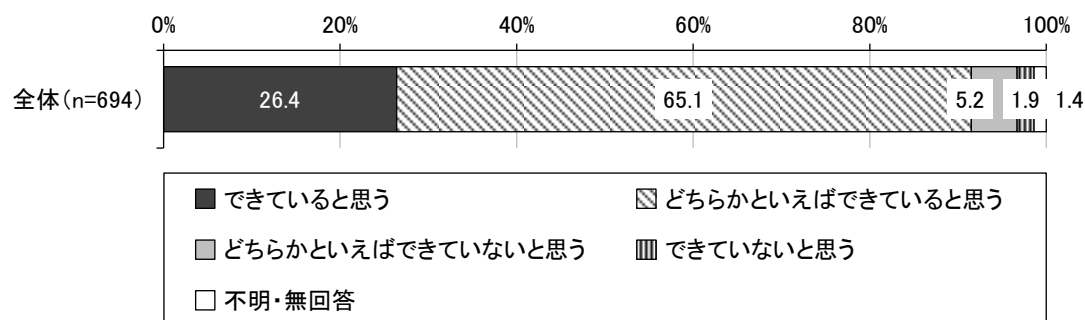
問 11 学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深め、子育てしていく上で、大切なことは何だと思えますか。（3つまで）

学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深め、子育てしていく上で大切なこととして、前回調査よりも 10 ポイント以上減少したものの「それぞれの情報を共有すること」が 66.6%と最も多く、次いで「学校・家庭・地域をつなぐ人がいること」が 65.1%と 10 ポイント以上増加し、2 番目に多くなっている。



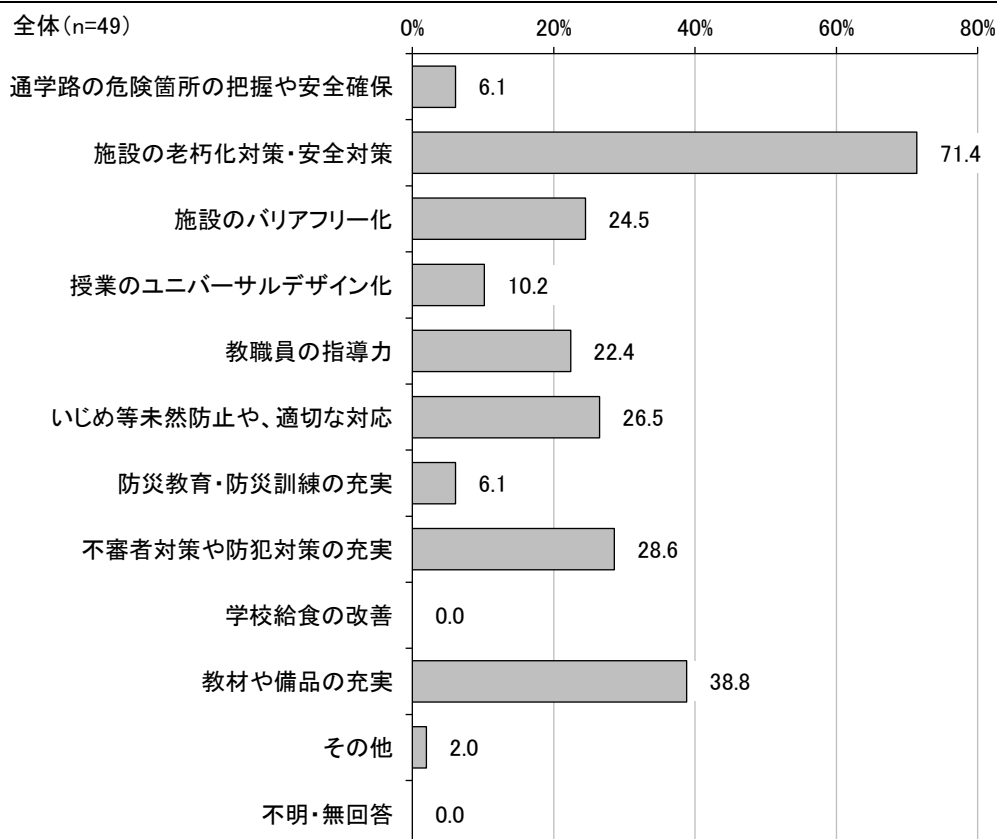
問 12 あなたの学校は、児童生徒が安心して学べる環境ができていると思いますか。  
(あてはまるもの1つ)

児童生徒が安心して学べる環境が「できている」「どちらかといえばできている」と感じている回答者が 91.5%を占めており、「できていない」「どちらかといえばできていない」と感じている回答者は 7.1%に留まっている。



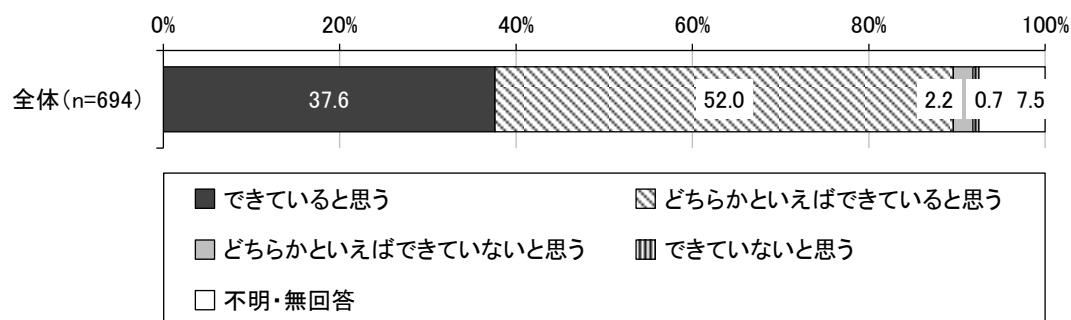
問 12-1 特に改善が必要だと思うものは何ですか。(3つまで)

特に改善が必要だと思うものにつきまして、「施設の老朽化対策・安全対策」が 71.4%と最も多く、次いで「教材や備品の充実」が 38.8%となっている。



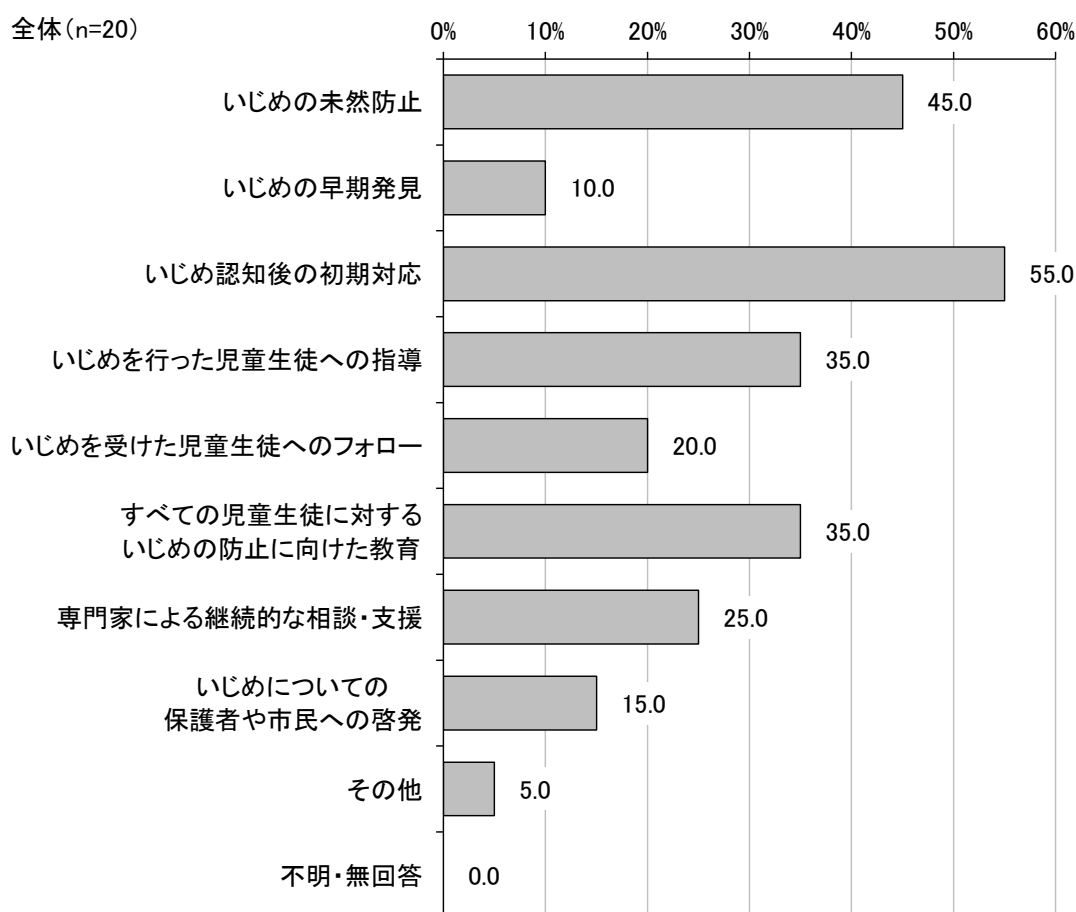
問 13 あなたの学校は、いじめへの対策・対応が適切にできていると思いますか。  
 (あてはまるもの1つ)

いじめへの対策・対応が適切に「できている」「どちらかといえばできている」と感じている回答者は89.6%を占めており、「できていない」「どちらかといえばできていない」と感じている回答者は2.9%に留まっている。



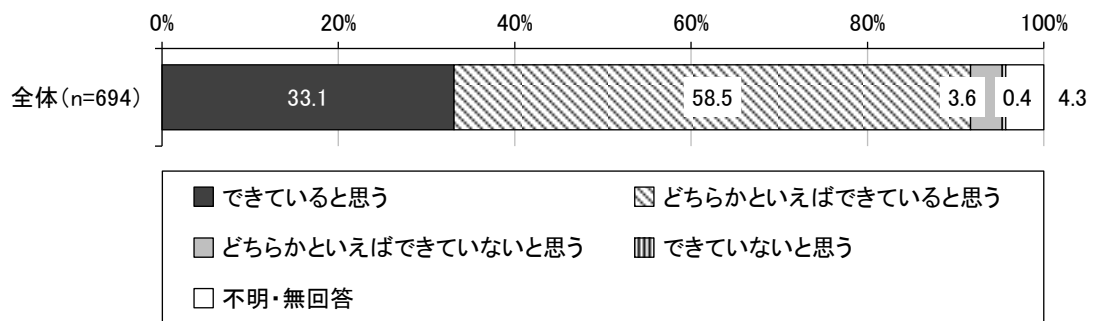
問 13-1 特に改善が必要だと思うものは何ですか。(3つまで)

特に改善が必要だと思うものとして、「いじめ認知後の初期対応」が55.0%と最も多く、次いで「いじめの未然防止」が45.0%となっている。



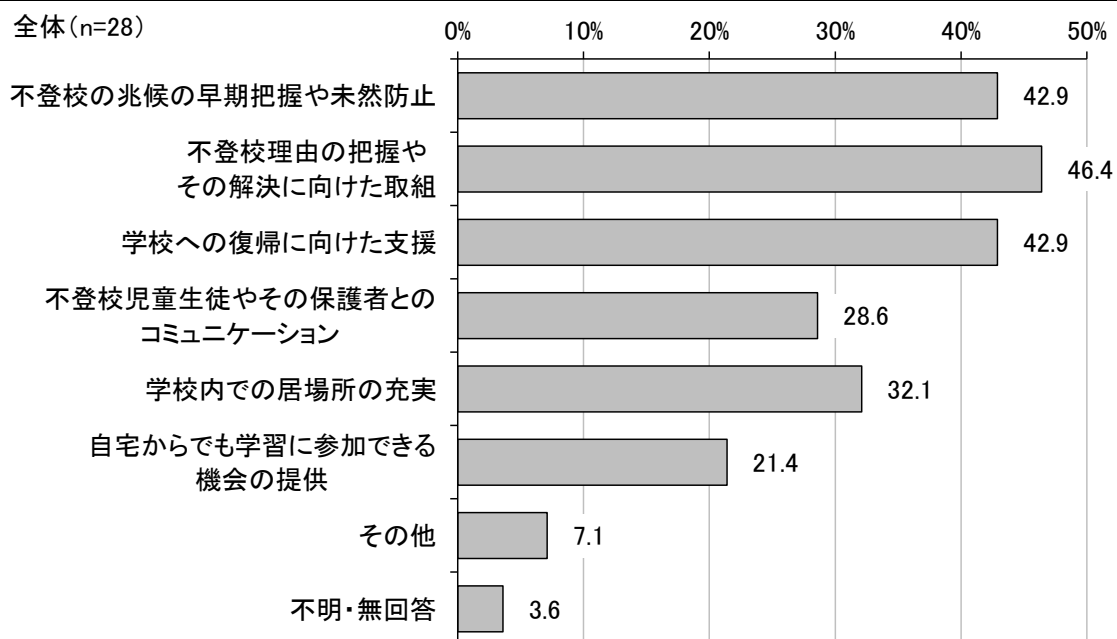
問 14 あなたの学校は、不登校児童生徒への対策・対応が適切にできていると思いますか。（あてはまるもの1つ）

不登校児童生徒への対策・対応について、「できている」「どちらかといえばできている」と感じている回答者は91.6%を占めており、「できていない」「どちらかといえばできていない」と感じている回答者は4.0%に留まっている。



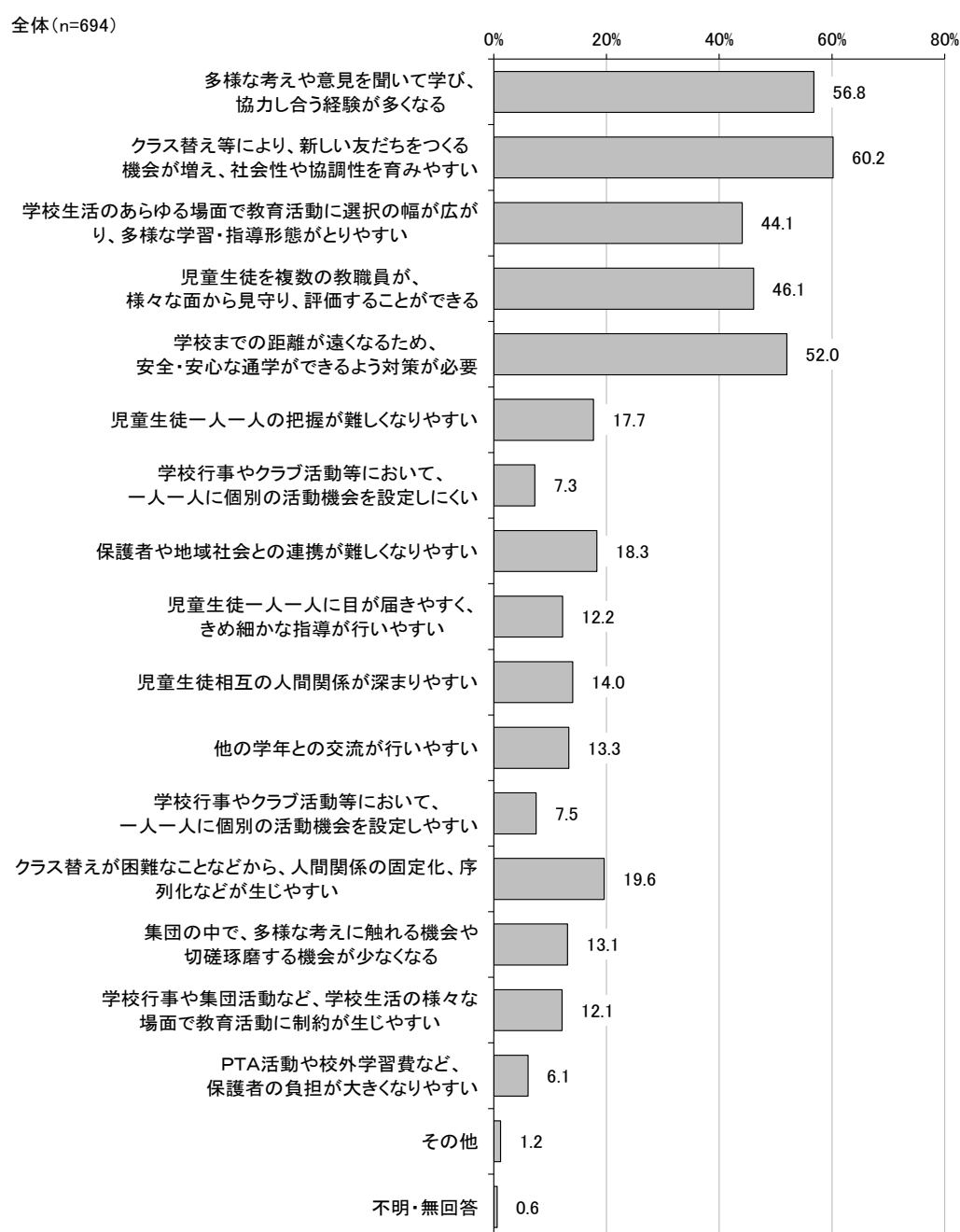
問 14-1 特にできていないと思うものは何ですか。（あてはまるものすべて）

特にできていないと思うものとして、「不登校理由の把握やその解決に向けた取組」が46.4%と最も多く、次いで「不登校の兆候の早期把握や未然防止」「学校への復帰に向けた支援」が同じく42.9%となっている。



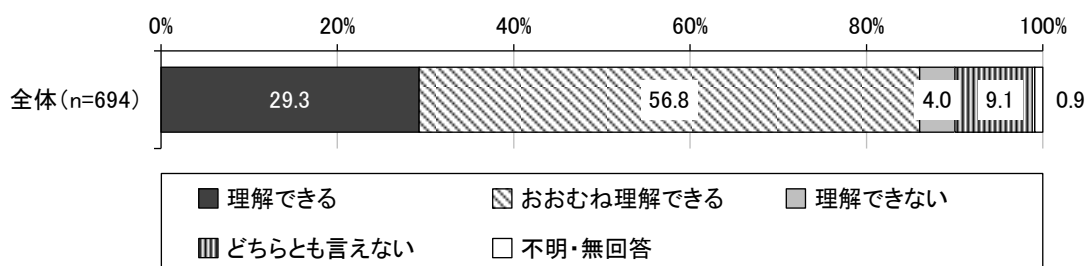
問 15 本市では、学校の小規模化に伴う諸課題を解消し、教育環境や学習環境を充実していくため、三田市立学校のあり方に関する基本方針に基づき学校再編（統合）の取組を進めていくこととしています。この取組について期待することや、心配なことなど、あなたのお考えに近いものを選んでください。（あてはまるものすべて）

学校再編の取組について期待することや、心配なこととして、「クラス替え等により、新しい友だちをつくる機会が増え、社会性や協調性を育みやすい」が 60.2%と最も多く、次いで「多様な考えや意見を聞いて学び、協力し合う経験が多くなる」が 56.8%で多くなっており、市民アンケート結果（問 14・P17）と比較して、いずれも 15 ポイント以上高くなっている。



問 15-1 あなたは、学校再編の取組についてどのように思われますか。（あてはまるもの1つ）

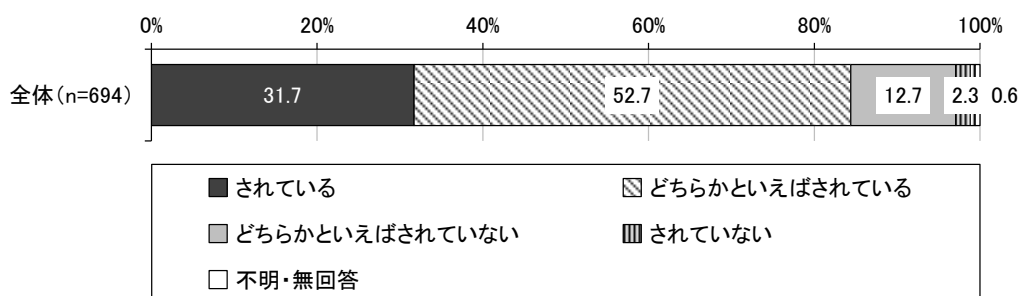
学校再編の取組について「理解できる」「おおむね理解できる」と感じている回答者が 86.1% と市民アンケート結果（問 14-1・P18）に比較しても高く、概ね理解が進んでいることがうかがえる。



#### 4 ICT教育について

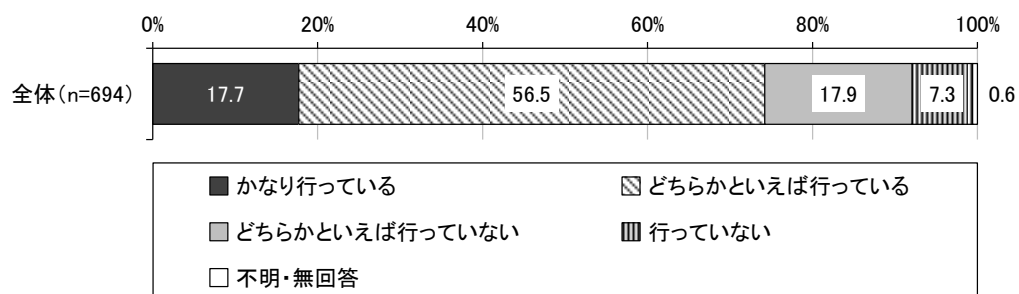
問 16 あなたの勤務先の学校のICT環境は整備されていますか。（あてはまるもの1つ）

勤務先のICT環境の整備について、「されている」「どちらかといえばされている」と感じている回答者が 84.4%を占めている。



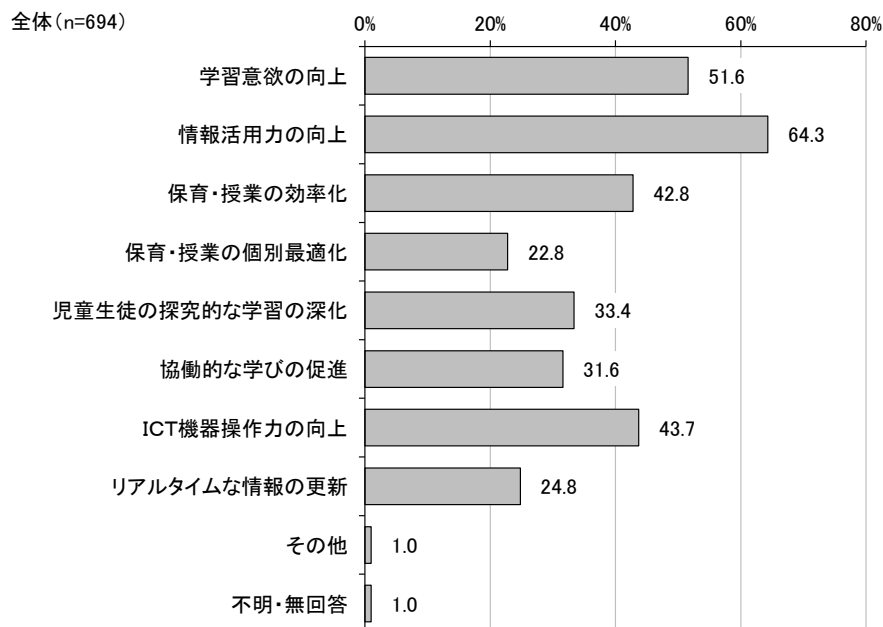
問 17 あなたは、ICT機器を活用した保育・授業をどの程度行っていますか。（あてはまるもの1つ）

ICT機器を活用した保育・授業について、「かなり行っている」「どちらかといえば行っている」と感じている回答者が 74.2%を占めている。



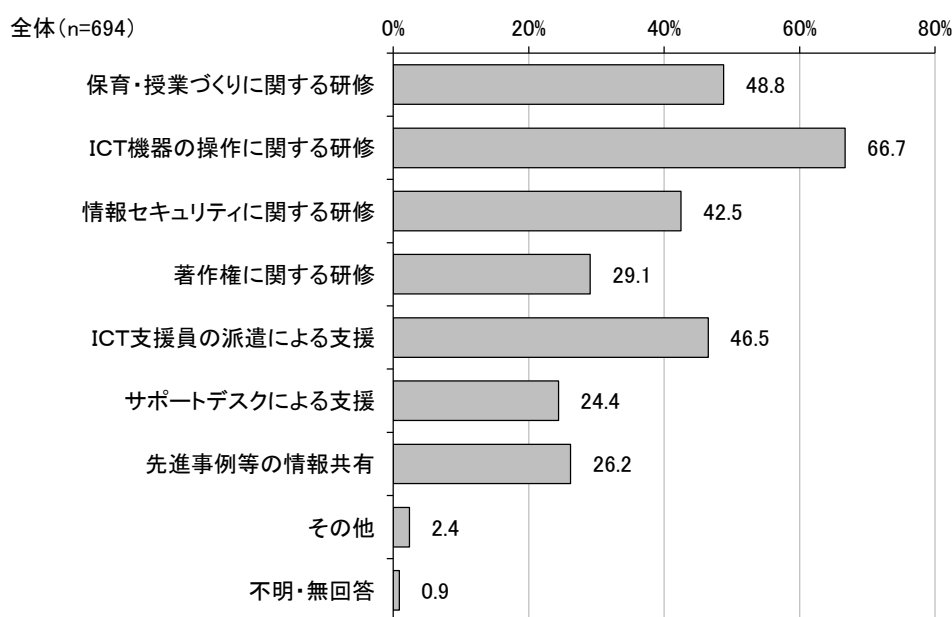
問 18 ICT機器を活用した保育・授業によるメリットと感ずることは何ですか。  
 (あてはまるものすべて)

ICT機器を活用した保育・授業のメリットを感ずることとして、「情報活用力の向上」が64.3%と最も多く、次いで「学習意欲の向上」が51.6%と多くなっている。



問 19 ICT機器を活用した教育の推進には、どのような支援が必要だと感ずますか。  
 (あてはまるものすべて)

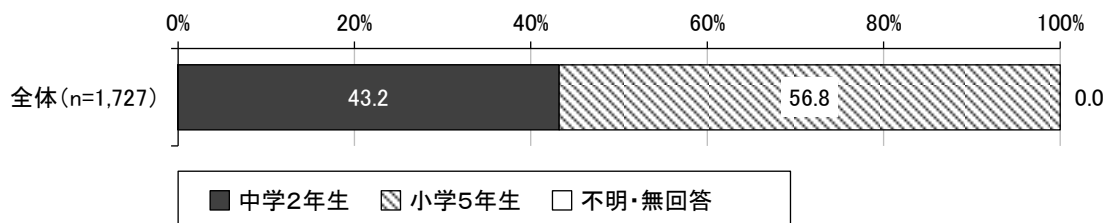
ICT機器を活用した教育の推進に必要な支援として、「ICT機器の操作に関する研修」が66.7%と最も多く、次いで「保育・授業づくりに関する研修」が48.8%と多くなっている。



## IV 小中学生アンケート調査結果

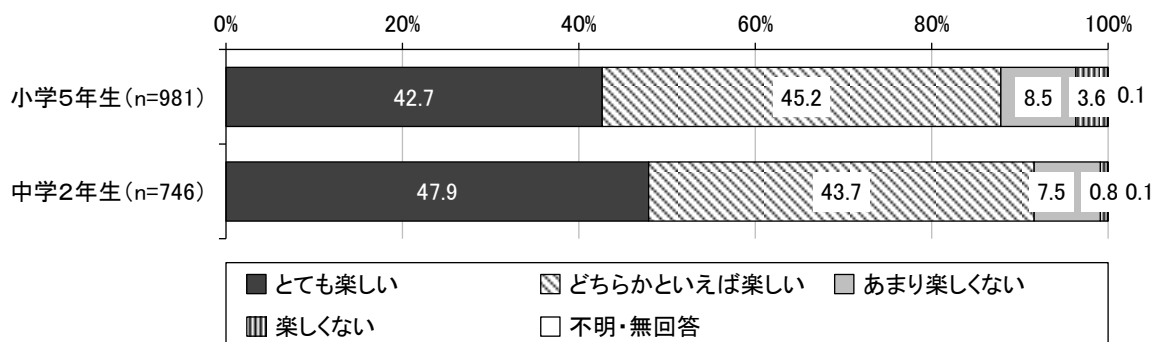
問1 あなたの学年をおしえてください。(あてはまるもの1つ)

中学生2年生が43.2%、小学5年生が56.8%となっている。



問2 学校は楽しいですか。(あてはまるもの1つ)

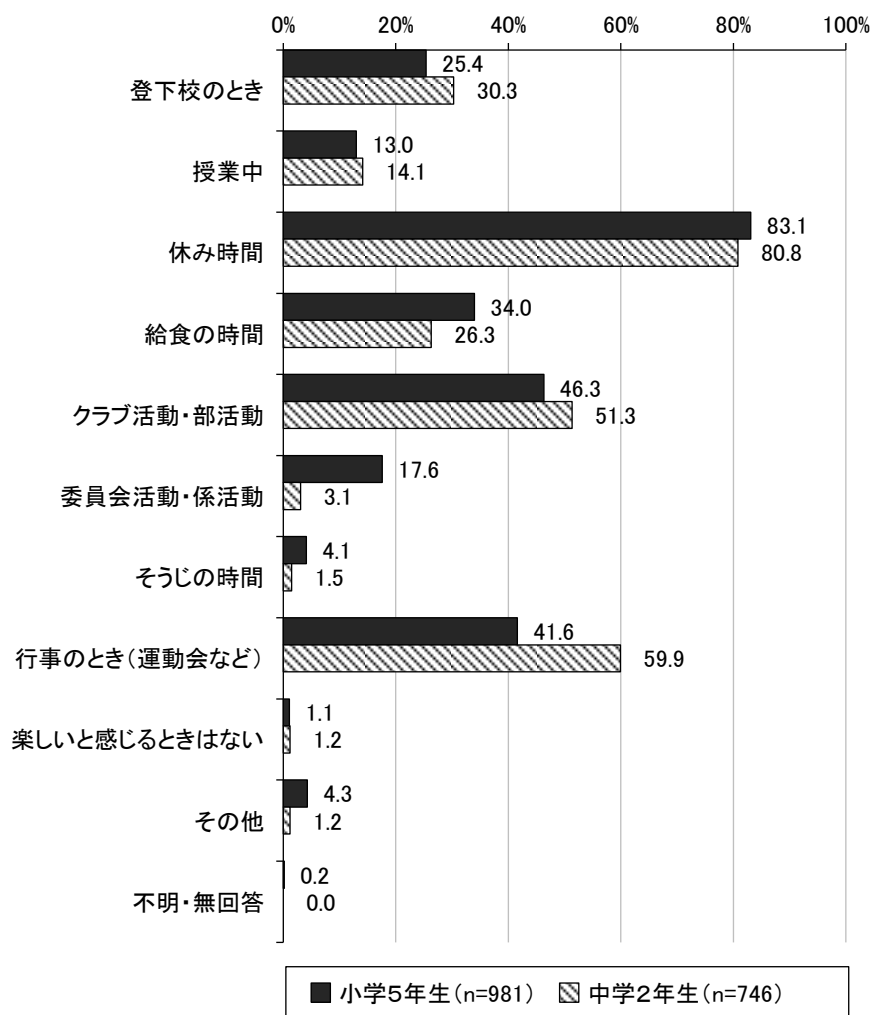
「とても楽しい」「どちらかといえば楽しい」と回答した人の割合が、中学2年生では91.6%、小学5年生では87.9%と多くなっている。



学校生活が楽しい理由	
(1) 友人との交流・人間関係	411 件
(2) 授業・学習内容	94 件
(3) 学校の雰囲気・環境	44 件
(4) 部活動・クラブ活動	23 件
(5) 学校行事・活動	17 件
(6) 休み時間・放課後	17 件
(7) 給食	8 件
(8) その他	24 件
学校生活があまり楽しくない・大変な理由	
(1) 勉強・授業に対する充足感の欠如	62 件
(2) 教師・指導に対する充足感の欠如	7 件
(3) 人間関係の悩み・いじめ	29 件
(4) 規則・環境に対する充足感の欠如	24 件
(5) その他	30 件

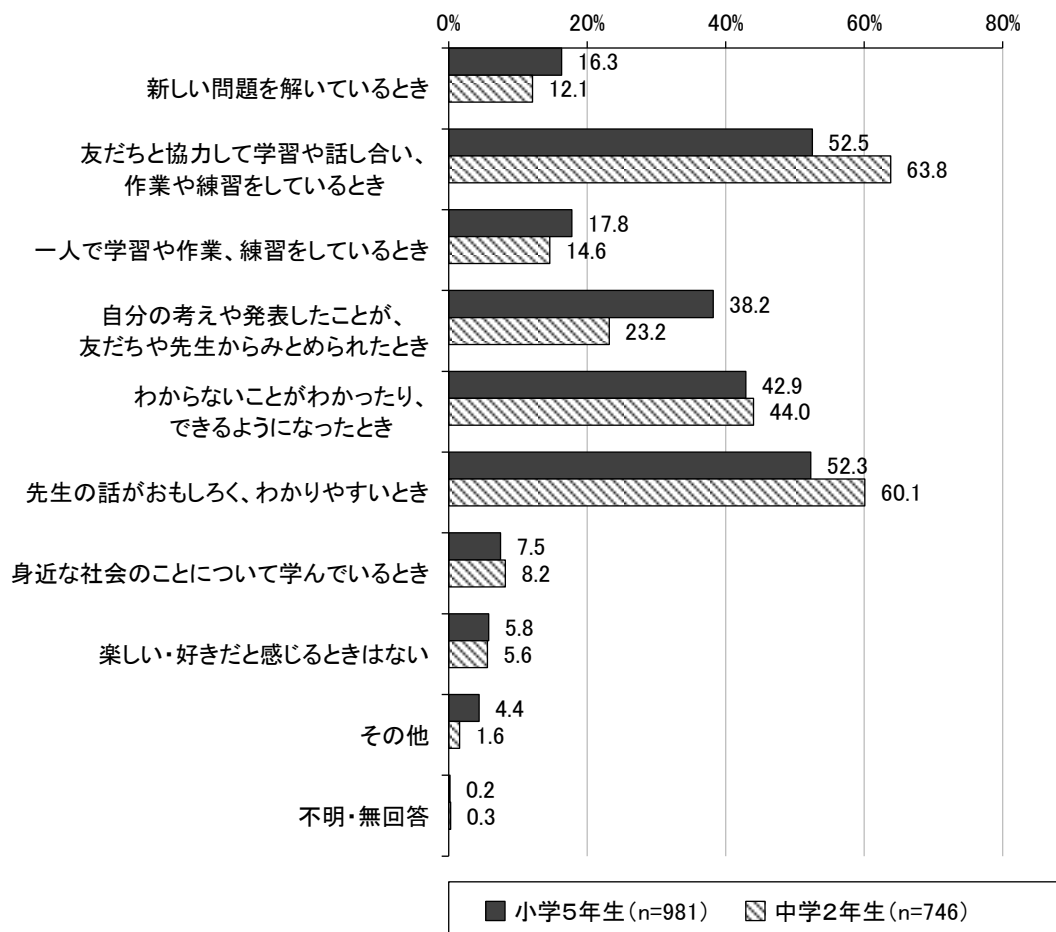
問3 毎日の学校生活で、楽しいと感じるときはいつですか。（あてはまるもの3つまで）

毎日の学校生活で楽しいと感じるときについて、中学2年生と小学5年生のともに「休み時間」が80%超えで最も多く、次いで中学2年生では「行事のとき」が59.9%、小学5年生では「クラブ活動・部活動」が46.3%と多くなっている。一方で、「授業中」と回答した人は約15%に留まっている。



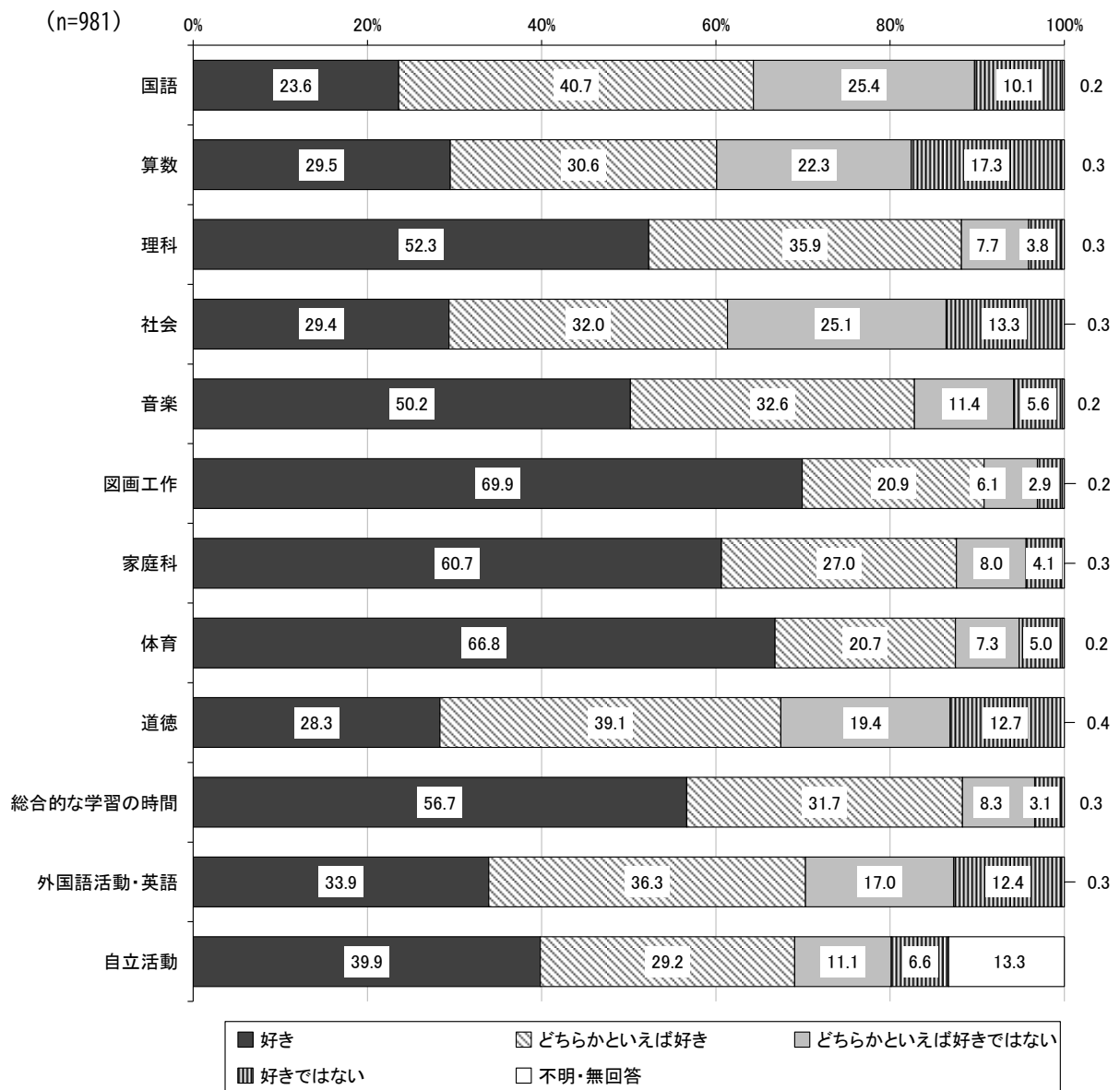
問4 学級活動やクラブ活動・部活動などの特別活動をのぞいて、授業が楽しい、好きだと感じる時はいつですか。（あてはまるもの3つまで）

授業が楽しい、好きだと感じる時について、中学2年生、小学5年生ともに「友だちと協力して学習や話し合い、作業や練習をしているとき」が最も多く、次いで「先生の話がおもしろく、わかりやすいとき」が多くなっている。



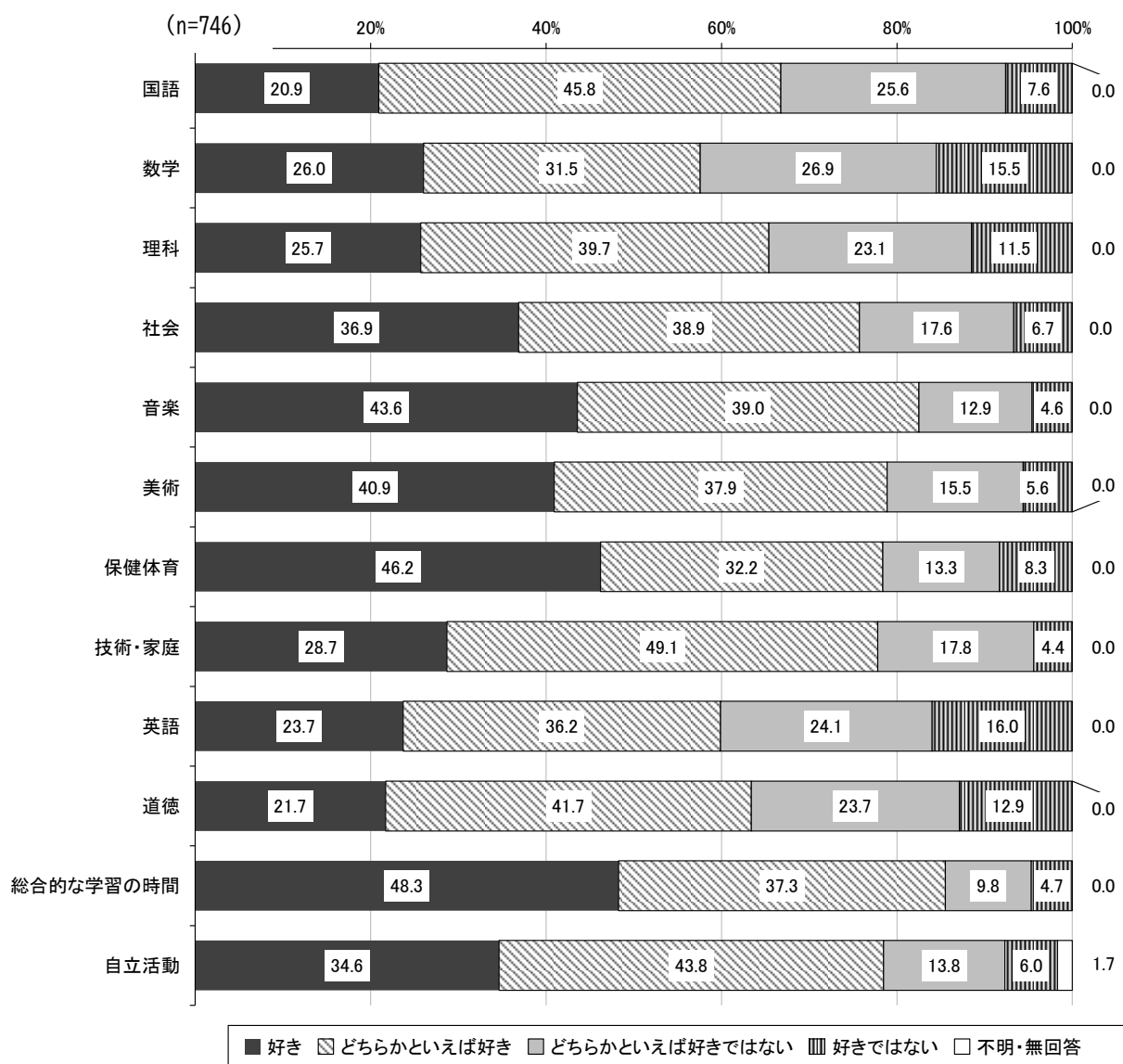
問5 《小学生》次の授業は好きですか。（それぞれあてはまるもの1つ）

小学生の「好き」「どちらかといえば好き」な授業について、「図画工作」が90.8%と最も多く、次いで「総合的な学習の時間」が88.4%、「理科」が88.2%と多くなっている。一方で、「国語」「算数」「社会」「道徳」を好きと感じている児童が少なくなっている。



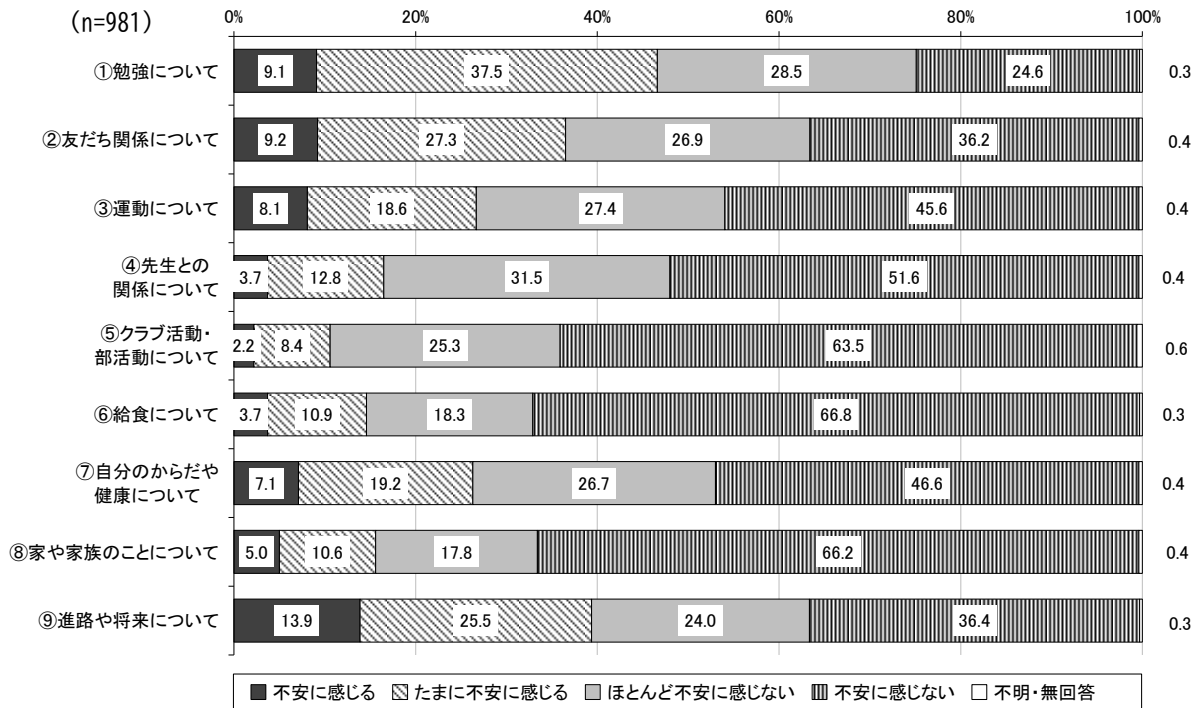
問5 《中学生》次の授業は好きですか。（それぞれあてはまるもの1つ）

中学生の「好き」「どちらかといえば好き」な授業について、「総合的な学習の時間」が85.6%と最も多く、次いで「音楽」が82.6%、「美術」が78.8%と多くなっている。一方で、「国語」「数学」「理科」「英語」「道徳」を好きと感じている生徒が少なくなっている。



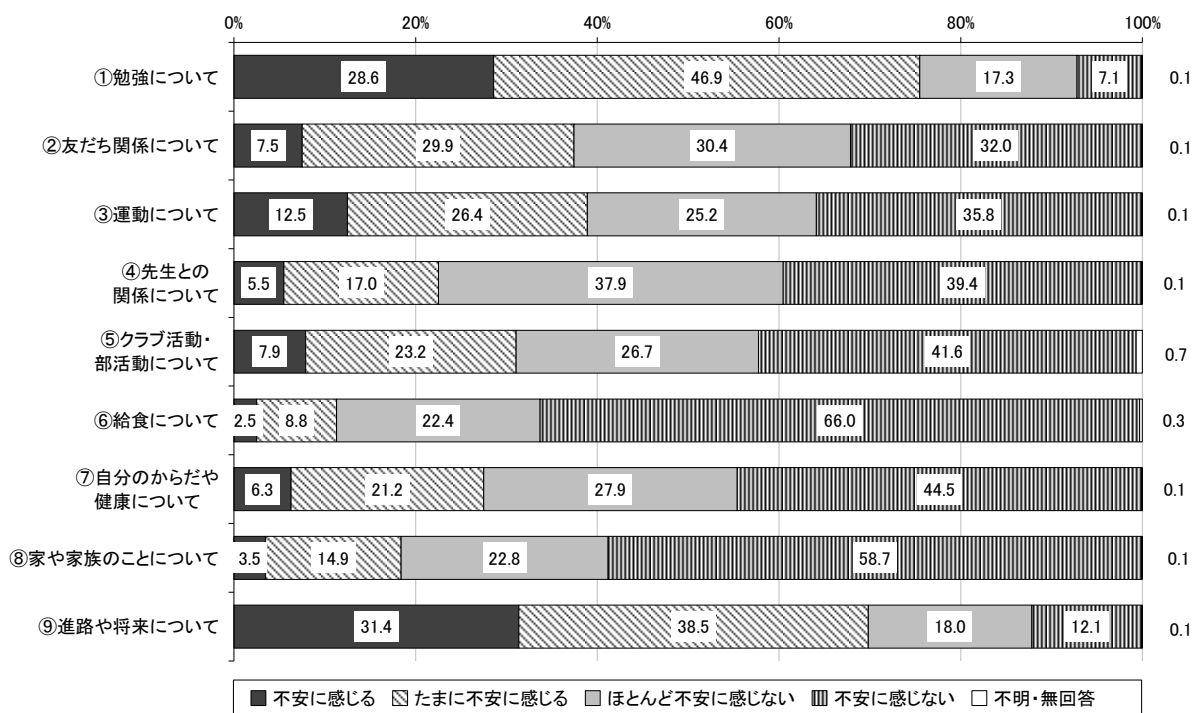
問6 《小学生》毎日の生活の中で不安に感じることはありますか。①～⑨のそれぞれについて当てはまるものをえらんでください。（それぞれあてはまるもの1つ）

小学生が「不安に感じる」「たまに不安に感じる」こととして、「①勉強について」が46.6%と最も多く、次いで「⑨進路や将来について」が39.4%、「②友だち関係について」が36.5%と多くなっている。



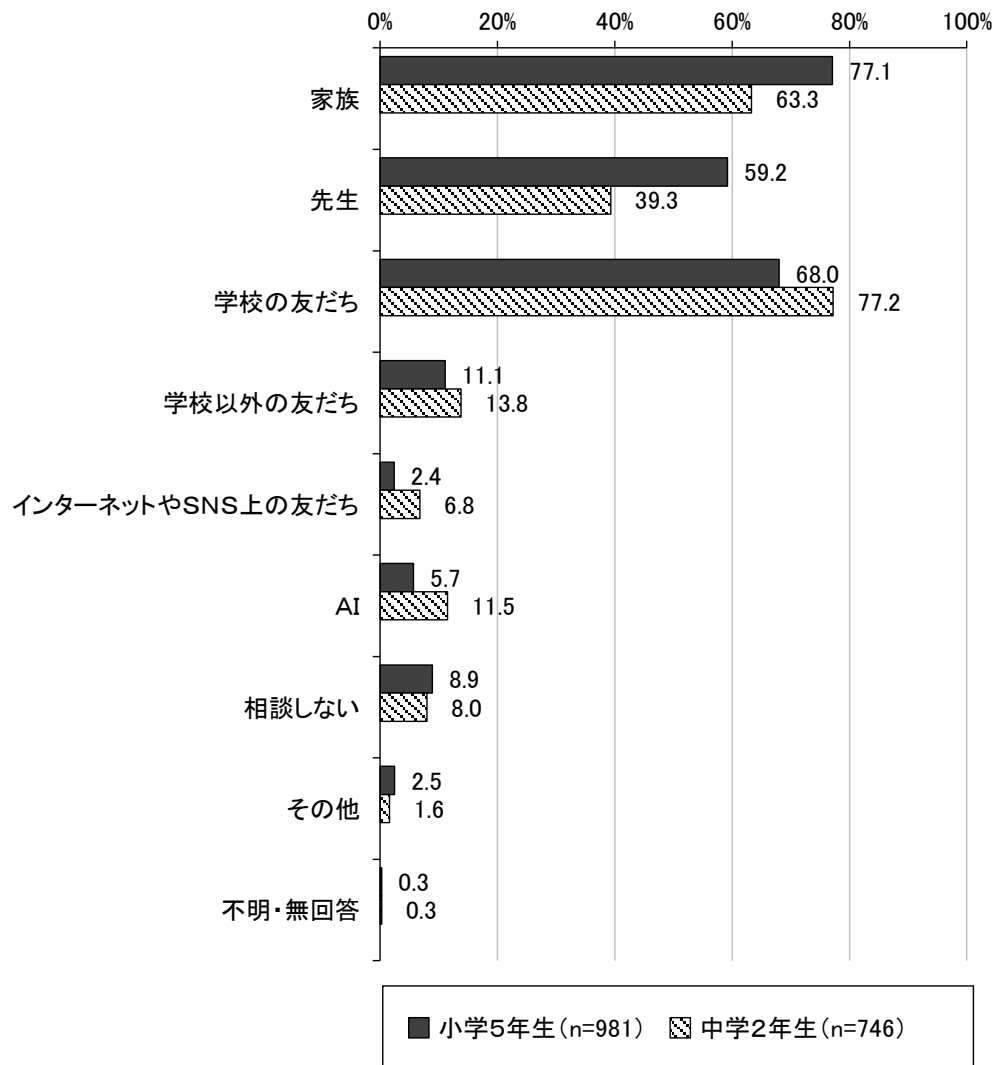
問6 <<中学生>>毎日の生活の中で不安に感じることはありますか。①～⑨のそれぞれについて当てはまるものをえらんでください。（それぞれあてはまるもの1つ）

中学生が「不安に感じる」「たまに不安に感じる」こととして、「①勉強について」が75.5%と最も多く、次いで「⑨進路や将来について」が69.9%と小学生と同じ項目である一方で、その割合は大幅に多くなっている。また、中学生の3位には「③運動について」が38.9%と多くなっている。



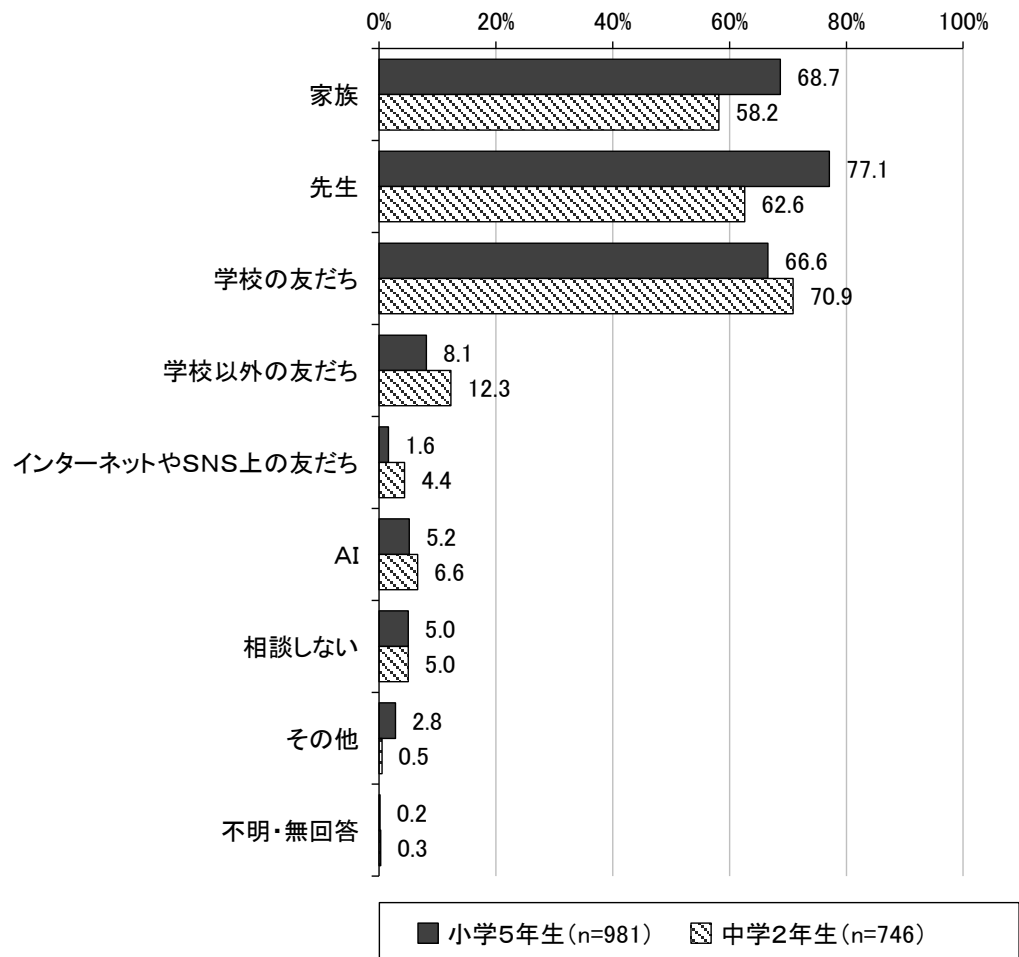
問7 なやみや不安なことがあるとき、だれに相談しますか。(あてはまるもの3つまで)

なやみや不安なことがあるときに相談相手として、小学5年生では「家族」が77.1%と最も多くなっている一方で、中学2年生では「学校の友だち」が77.2%と最も多くなっており、「インターネットやSNS上の友だち」や「AI」は小学生と比較して多くなっている。また、「相談しない」との回答も一定数見られる。



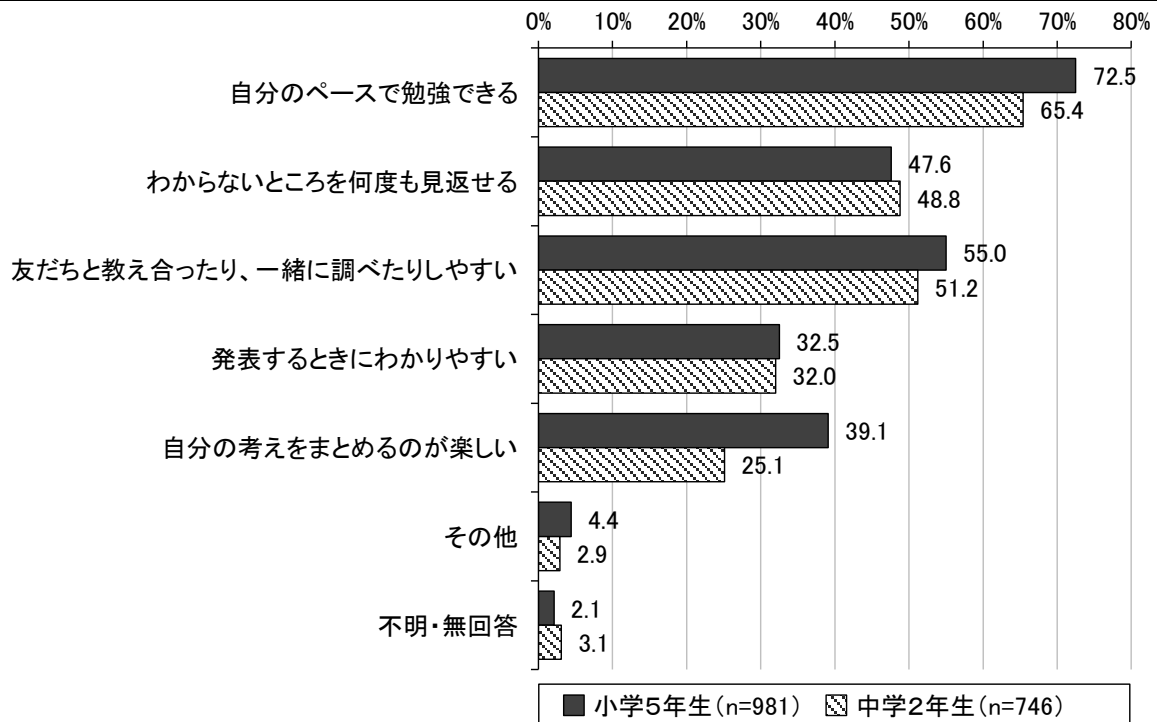
問8 あなたがいじめを受けたときや見たときに、だれに相談しますか。(あてはまるもの3つまで)

いじめを受けたときや見たときに相談相手として、小学5年生では「先生」が77.1%と最も多くなっている一方で、中学2年生では「学校の友だち」が70.9%と最も多くなっている。



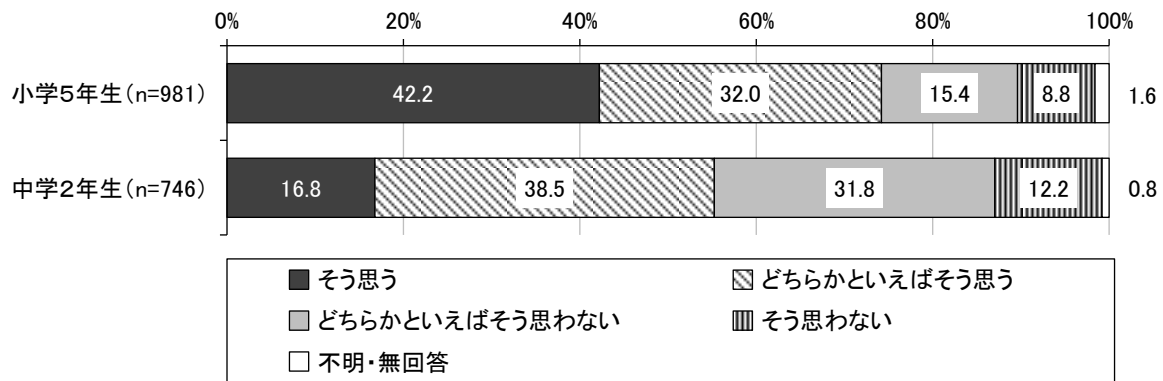
問9 授業でタブレットなどを使って勉強するとき、どんなことがいいなと思いますか。（あてはまるものすべて）

タブレットなどを使った授業の良いことについて、小学5年生・中学2年生のどちらも「自分のペースで勉強できる」ことが最も多くなっている一方で、「自分の考えをまとめるのが楽しい」という回答は中学生では14.0ポイント少なくなっている。



問10 大人になっても三田市に住み続けたいと思いますか。(あてはまるもの1つ)

大人になっても三田市に住み続けたいと「思う」「どちらかといえばそう思う」と感じている回答者は、小学5年生では74.2%に対し、中学2年生では55.3%と約20ポイント少なくなっている。

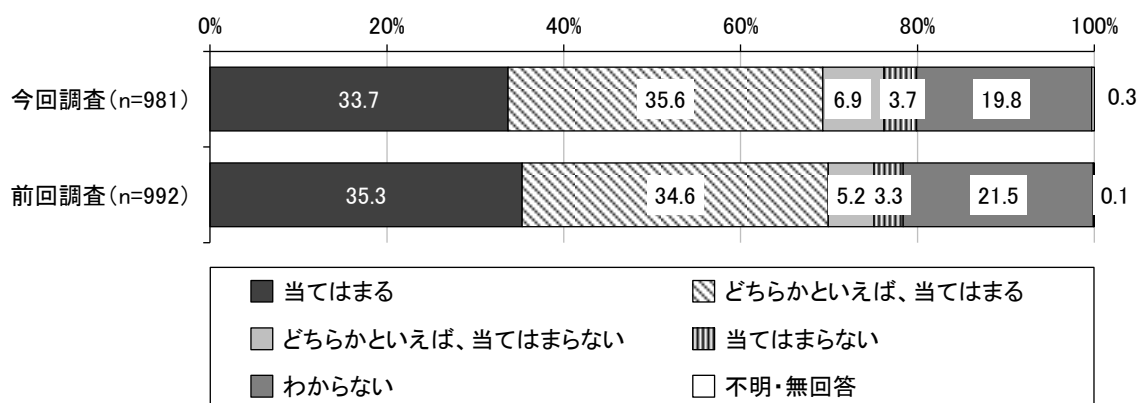


三田市に住み続けたい理由	
(1) 自然環境・地域性	95件
(2) 安心感・治安・安全	33件
(3) 慣れ・愛着・思い出	44件
(4) 人間関係・地域交流	57件
(5) 利便性・住みやすさ	38件
三田市に住み続けたくない・迷う理由	
(1) 都会志向・他地域への興味	149件
(2) 不便さ・施設の不足	24件
(3) 将来の仕事・進路	24件
(4) その他(消極的な理由)	23件

問 11 次の①～④のそれぞれについて当てはまるものをえらんでください。

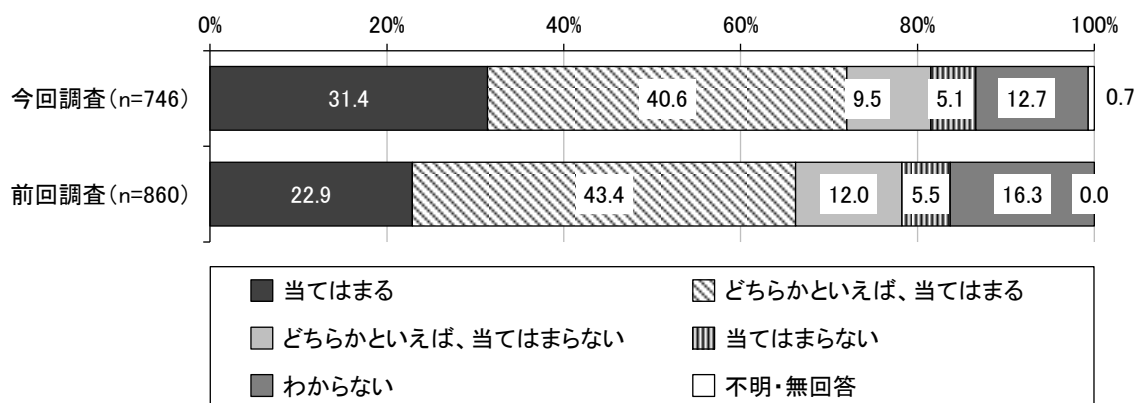
問 11① 《小学生》あなたは自分に良いところがあると思いますか？（あてはまるもの1つ）

自分に良いところがあると「思う」「どちらかといえばそう思う」と感じている回答者は69.3%と、前回調査の69.9%からわずかに減少した。また、「分からない」と感じている回答者が19.8%となっている。



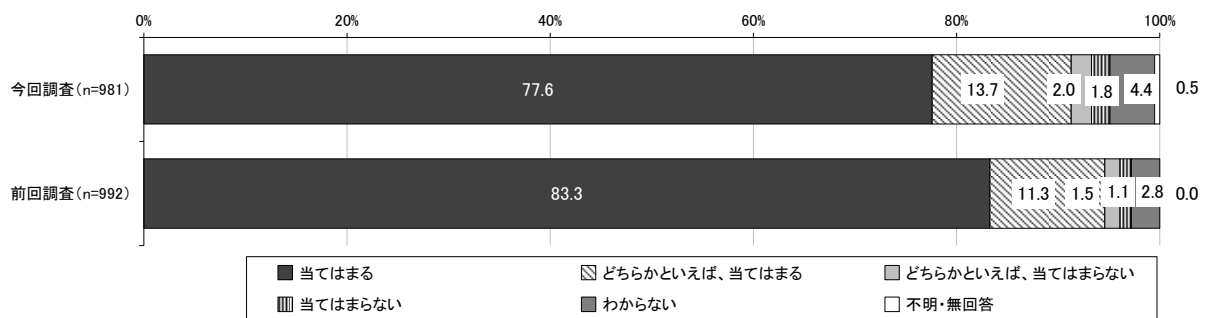
問 11① 《中学生》あなたは自分に良いところがあると思います（あてはまるもの1つ）

自分に良いところがあると「思う」「どちらかといえばそう思う」と感じている回答者は72.0%と、前回調査の66.3%から5.7ポイント増加した。また、「分からない」と感じている回答者が12.7%と小学5年生より少なくなっている。



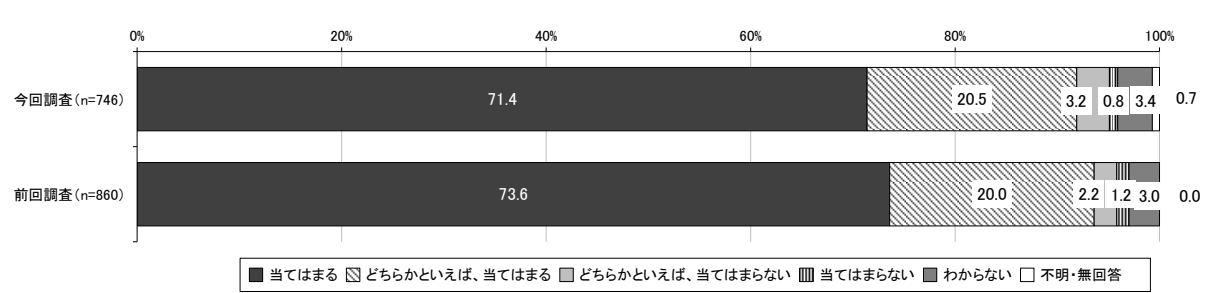
問 11② 《小学生》あなたには信頼できる人がいますか（あてはまるもの1つ）

信頼できる人が「いる」「どちらかといえばいる」と感じている回答者は91.3%と、前回調査の94.6%から3.3ポイント少なくなっている。



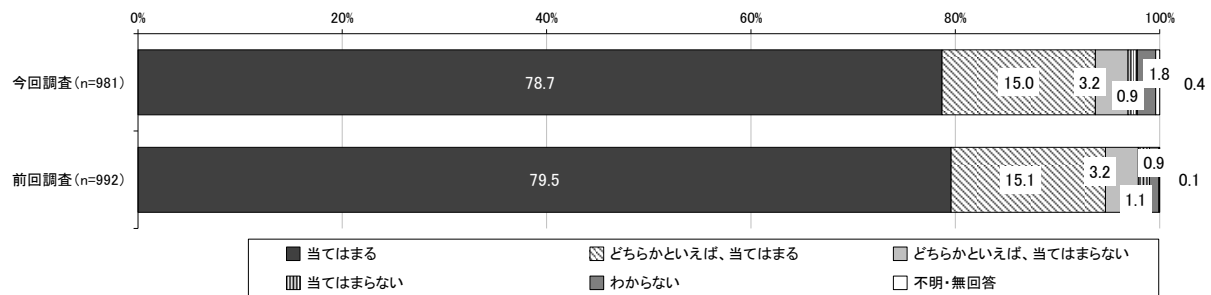
問 11② 《中学生》あなたには信頼できる人がいますか（あてはまるもの1つ）

信頼できる人が「いる」「どちらかといえばいる」と感じている回答者は91.9%と、前回調査の93.6%から1.7ポイント少なくなっている。



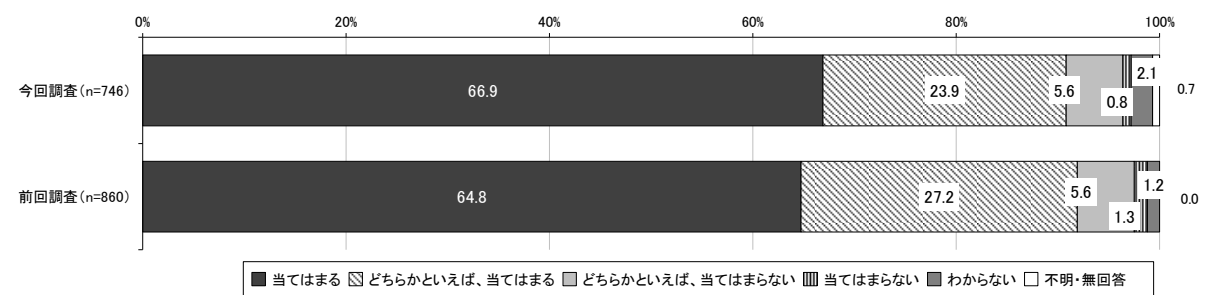
問 11 ③あなたは家族や一緒に暮らしている人とよく話をしますか（小学5年生）  
（あてはまるもの1つ）

家族や一緒に暮らしている人と「よく話す」「どちらかといえばよく話す」と感じている回答者は93.7%と、前回調査の94.6%から少なくなっている。



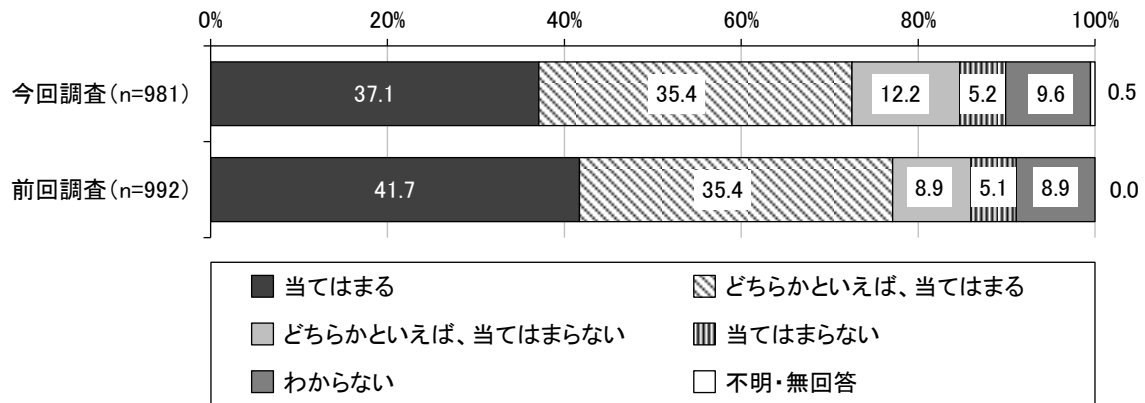
問 11 ③あなたは家族や一緒に暮らしている人とよく話をしますか（中学2年生）  
（あてはまるもの1つ）

家族や一緒に暮らしている人と「よく話す」「どちらかといえばよく話す」と感じている回答者は90.8%と、前回調査の92.0%から1.2ポイント多くなっている。



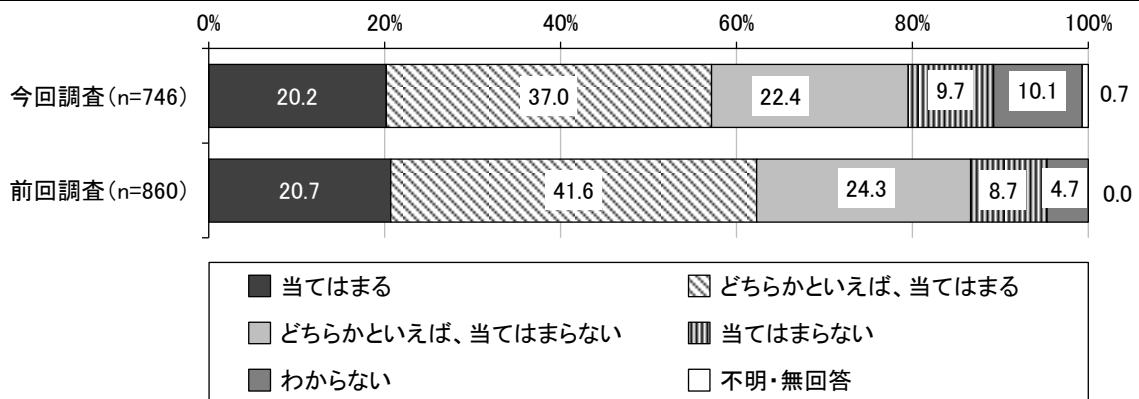
問 11 ④あなたは地域の行事やイベントに参加したいと思いますか（小学5年生）  
（あてはまるもの1つ）

地域の行事やイベントに参加したいと「思う」「どちらかといえばそう思う」と感じている回答者は72.5%と、前回調査の77.1%から4.6ポイント少なくなっている。



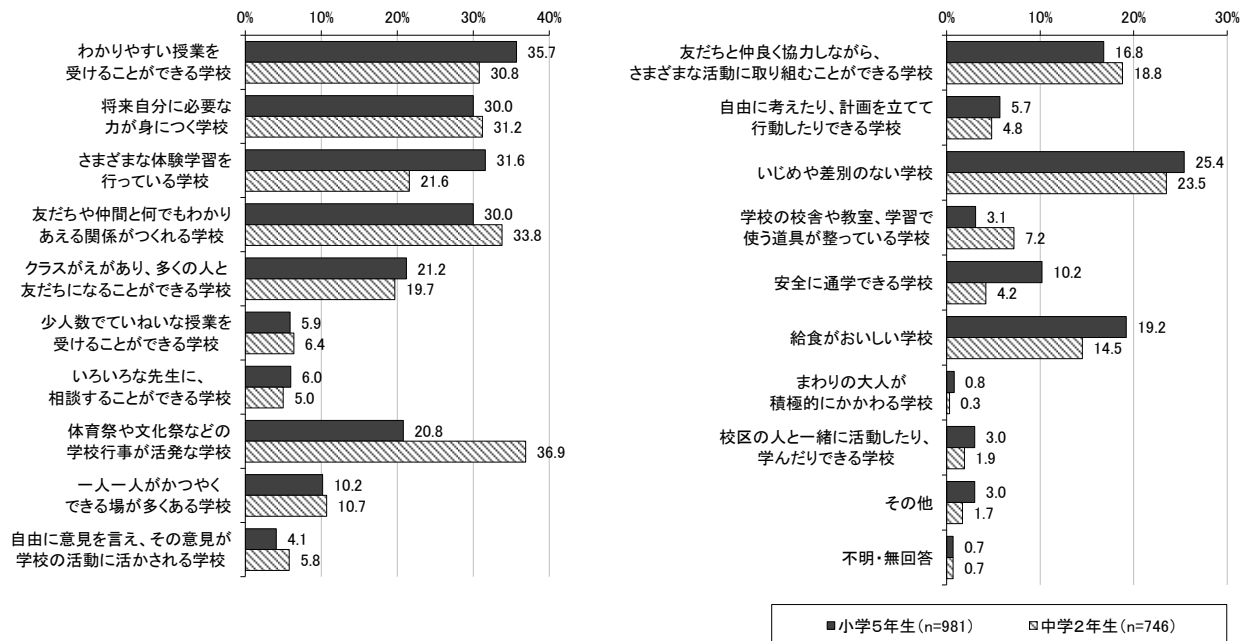
問 11 ④あなたは地域の行事やイベントに参加したいと思いますか（中学2年生）  
（あてはまるもの1つ）

地域の行事やイベントに参加したいと「思う」「どちらかといえばそう思う」と感じている回答者は57.2%と、前回調査の62.3%から5.1ポイント少なくなっており、小学5年生と比較すると約15ポイント少なくなっている。



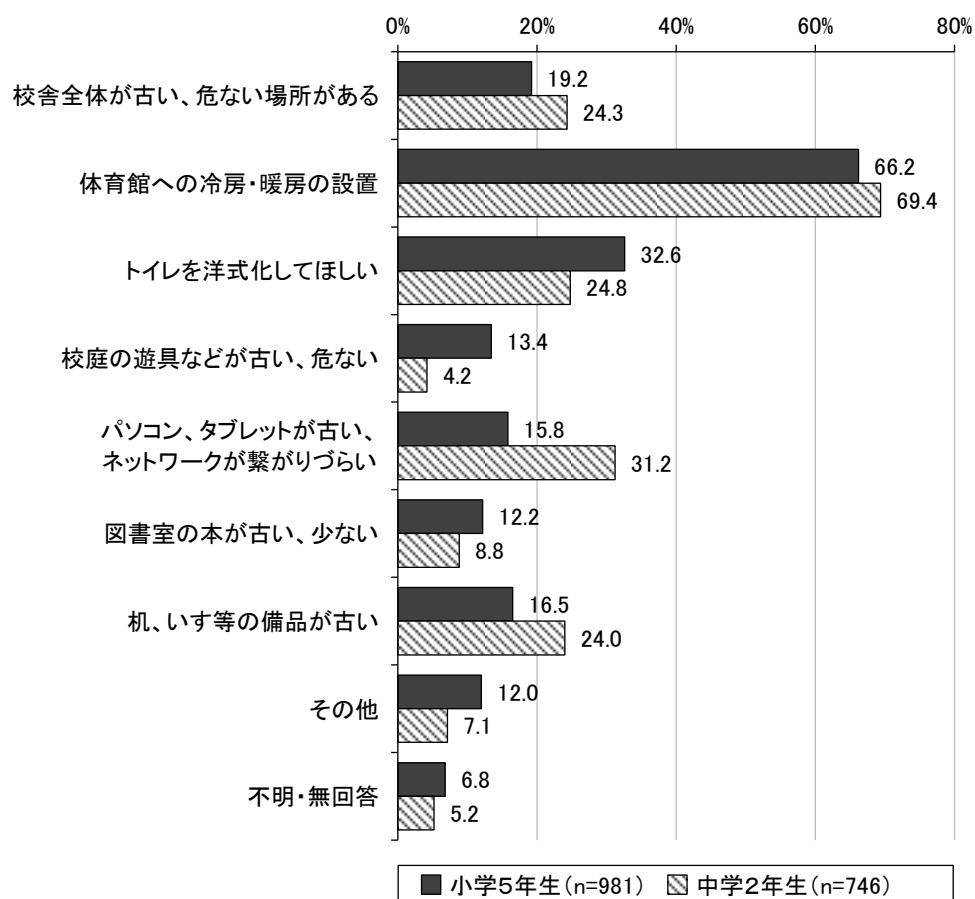
問12 あなたは、どのような学校に魅力（いいな、すてきだなと感じること）を感じますか。（あてはまるもの3つまで）

魅力的に感じる学校として、小学5年生では「わかりやすい授業を受けることができる学校」が35.7%と最も多くなっている。中学2年生では「体育祭や文化祭などの学校行事が活発な学校」が36.9%と最も多く、小学5年生と比較し16.1ポイント多くなっている。



問 13 あなたは、学校の施設や設備で改善すべきだと思うことはありますか。（あてはまるもの3つまで）

学校の施設や設備で改善すべきだと思うことについて、小学5年生・中学2年生のともに「体育館への冷房・暖房の設置」が最も多くなっている。また中学2年生では、「パソコン、タブレットが古い、ネットワークが繋がりにくい」が小学5年生と比較し15.4ポイント多くなっている。



## V 自由意見まとめ

### 1 市民アンケート調査 (309件)

1. 子どもの学び、育ちについて	
(1) 社会的自立に向けた教育について	3件
(2) 学力について	11件
(3) 体験・交流・心の育成について	21件
(4) 不登校やいじめについて	24件
(5) 体力や健康づくりについて	15件
(6) 支援が必要な子ども・家庭について	12件
2. 教職員、教育環境等について	
(1) 教職員について	27件
① 教職員への感謝	3件
② 教職員の資質向上について	12件
③ 勤務時間の適正化、多忙解消、増員などについて	7件
④ その他	5件
(2) 学校再編について	25件
【賛成意見 16件】	
① 早期実施の要望	7件
② 小規模校のデメリット解消について	3件
③ 校区再編について	3件
④ 財政面・効率性向上について	3件
【反対意見 9件】	
① 通学の負担について	4件
② 児童・生徒の心のケアについて	2件
③ その他	3件
(3) 通学、安全、安心なまちについて	12件
(4) 学校施設等について	15件
3. 子どもの教育（学校教育）について	
(1) ICT、オンライン教育について	17件
(2) 少人数学級について	4件
(3) 学校教育について	17件
4. 部活動について	
(1) 地域移行への不安について	19件
(2) 地域クラブへの要望	8件

5. PTAについて	
(1) 負担軽減、簡素化、効率化について	7件
(2) 廃止すべき	4件
6. 学校・家庭・地域の連携について	
(1) 協働の仕組みづくり、ボランティアについて	9件
(2) 文化活動や地域行事などについて	1件
(3) 学校施設の有効活用について	1件
7. その他の教育施設等について	
(1) 公園設備について	5件
(2) 児童クラブについて	11件
(3) 就学前施設について	6件
(4) 放課後等の居場所、学習の場について	8件
8. その他	
(1) 医療費の無償化、習い事等の金銭的補助について	6件
(2) 高校について	6件
(3) モラルについて	1件
(4) その他	14件

## 2 教職員アンケート調査 (125件)

1. 子どもの学び、育ちについて	
(1) 不登校やいじめについて	1件
(2) 支援が必要な子ども・家庭について	5件
2. 教職員、教育環境等について	
(1) 教職員について	41件
① 教職員の資質向上について	5件
② 勤務時間の適正化、多忙解消、増員などについて	32件
③ その他	4件
(2) 学校再編について	15件
① 賛成意見	8件
② 小中一貫校について	4件
③ その他	3件
(3) 学校施設等について	21件
3. 子どもの教育（学校教育）について	
(1) ICT、オンライン教育について	17件
(2) 少人数学級について	3件
(3) その他	10件
4. 学校・家庭・地域の連携について	
(1) 学校・家庭・地域の連携について	4件
(2) 部活動の地域移行について	2件
5. その他	
(1) 学校・家庭・地域の連携について	4件
(2) 部活動の地域移行について	2件

### 3 小中学生アンケート調査

1. 学校生活が楽しい理由（問2）	
(1) 友人との交流・人間関係	411 件
(2) 授業・学習内容	94 件
(3) 学校の雰囲気・環境	44 件
(4) 部活動・クラブ活動	23 件
(5) 学校行事・活動	17 件
(6) 休み時間・放課後	17 件
(7) 給食	8 件
(8) その他	24 件
2. 学校生活があまり楽しくない・大変な理由（問2）	
(1) 勉強・授業に対する充足感の欠如	62 件
(2) 教師・指導に対する充足感の欠如	7 件
(3) 人間関係の悩み・いじめ	29 件
(4) 規則・環境に対する充足感の欠如	24 件
(5) その他	30 件
3. 三田市に住み続けたい理由（問10-1）	
(1) 自然環境・地域性	95 件
(2) 安心感・治安・安全	33 件
(3) 慣れ・愛着・思い出	44 件
(4) 人間関係・地域交流	57 件
(5) 利便性・住みやすさ	38 件
4. 三田市に住み続けたくない・迷う理由（問10-1）	
(1) 都会志向・他地域への興味	149 件
(2) 不便さ・施設の不足	24 件
(3) 将来の仕事・進路	24 件
(4) その他（消極的な理由）	23 件

## VI 調査結果の概要

### 1 子どもの教育や学習に関する取組

市民の教育に関する関心事では、「主体的に学ぶ力」が59.5%と最も高く、次いで「確かな学力」（44.5%）が続いています。前回調査と比較しても学力や自発性への関心は高く、特に自ら課題を解決する力の育成が重視されています。一方で、教育全般に対する不安要素としては、「いじめや不登校」が46.4%と突出しており、次点の「主体的に学ぶ力」（28.9%）を大きく上回る状況となっています。

児童生徒の能力・態度の現状については、「いじめや差別・暴力行為を許さない心」や「道徳心」が身につけていると評価される一方、「読書習慣」や「性に関する正しい知識」の定着が求められています。今後の重要度としては、「いじめや差別を許さない心」に加え「自ら危険を予測し、安全に行動する力」が極めて高く、心の教育や安全・安心への意識が高いことがうかがえます。

就学前教育については、「規範意識」や「基本的な生活習慣」の育成が依然として重視されていますが、「幼稚園・保育所等と小学校の連携」への要望が前回より14.7ポイント増加（32.4%）しており、円滑な接続支援への期待が急増しています。特別支援教育では「個に応じた相談体制の充実」が引き続き求められています。

### 2 学びの環境づくり・学校づくりについて

学校・家庭・地域の連携において大切な点は、市民・教職員ともに「情報の共有」と「つなぎ役となる人材（コーディネーター）の存在を上位に挙げています。特に教職員調査では「役割分担の明確化」を重視する声が前回より増加しており、組織的な連携体制の構築が求められています。

いじめや問題行動を防止するために必要なこととして、「保護者が児童生徒を注意深く観察し、状況を把握し指導すること」が最も多く、次いで「教職員が児童生徒を注意深く観察し、状況を把握し指導すること」、「家庭教育の中で善悪の判断や他人への思いやりの心を育むこと」と多くなっており、児童生徒への注意深い観察や状況把握、指導が求められていることがうかがえます。

不登校を防止するために必要なこととして、「児童生徒の居場所や多様な学びの場の確保」が最も多く、次いで「専門家による継続的な相談・支援体制の充実」、「学校における「居心地のよい居場所」の確保」が多くなっており、児童生徒の居場所や気軽に相談できる支援が必要とされていることがうかがえます。

学校再編については、市民の80.2%、教職員の86.1%が「理解できる」「おおむね理解できる」と回答し、高い理解が得られています。期待する点として「クラス替え等による新しい友だちをつくる機会を通じた、社会性・協調性の育成」が挙がる一方、「安全・安心な通学」についての懸念が52.0%であり、通学路や通学手段を含めた安全・安心な通学について、対策が求められています。

教職員の勤務環境は依然として厳しく、86.9%が業務に負担やストレスを感じる点が「ある」「どちらかといえばある」と回答しており、その主な要因は「業務量の多さ」(77.3%)と「保護者対応」(57.7%)となっています。改善策として「人員配置の充実」(84.8%)や「事務作業の効率化・削減」(70.9%)を挙げる声が多く、教職員が子どもと向き合う時間を確保するための働き方改革が必要とされています。

### 3 まち（地域）全体での子どもの学びと成長の支援について

子どもを取り巻く環境の変化として、「地域の人や高齢者とのふれあい」や「地域で活動している人との触れ合い」が減少したと感じる割合が増えており、地域コミュニティの希薄化が進行しています。ICT環境の浸透により「多様な情報に触れる機会」が大きく増加(89.7%)する中で、リアルにおける人間関係の再構築に対する対策が求められています。

家庭教育では、「親子で話し合う時間」が最も重要視されていますが、保護者自身の「地域社会への参加」や「学習機会の確保」は十分とは言えず、大人の学びや地域活動に関わる機会をつくることの必要性がうかがえます。

学校外での体験活動については、「スポーツ」(55.5%)や「自然体験」(49.5%)が求められており、これらの活動を支えるために「社会教育施設の充実」(48.0%)や「費用負担のサポート」(47.6%)を求める声が多くなっています。

### 4 子どもたちの思いについて（小学5年生・中学2年生調査）

児童生徒の約90%が、学校が「とても楽しい」「どちらかといえば楽しい」と回答していますが、楽しいと感じる場面はどちらの学年も「休み時間」や「行事」が高くなっています。「授業中」を楽しいと答えたのは約15%であり「授業の魅力化」に向けた取組が求められています。

また、授業が楽しい、好きだと感じるときについて、中学2年生、小学5年生ともに「友だちと協力して学習や話し合い、作業や練習をしているとき」が最も多く、次いで「先生の話がおもしろく、わかりやすいとき」と多くなっており、人とのコミュニケーションの中に楽しさを見出す傾向がうかがえます。

自己肯定感については自分には良いところが「ある」「どちらかといえばある」と答えた割合が、小学5年生では前回よりわずかに(0.6ポイント)少なくなっており、中学2年生では5.7ポイント多くなっています。悩みやいじめの相談相手として、小学5年生は「家族」(77.1%)が最も多く、次いで「学校の友だち」(68.0%)、中学2年生では「学校の友だち」(77.2%)が最も多く、次いで「家族」(63.3%)と多くなっています。

タブレットの活用については、小学5年生、中学2年生のともに「自分のペースで勉強できる」点にメリットを感じていますが、中学生では「自分の考えをまとめるのが楽しい」と感じる割合が小学生より14ポイント低く、発達段階に応じた活用方法の工夫が求められます。また、将来三田市に住み続けたいと考える子どもは小学生(74.2%)から中学生(55.3%)にかけて減少しており、シビックプライドを育む取組の重要性がうかがえます。

学校の施設や設備で改善すべきだと思うことについて、小学5年生・中学2年生のともに「体育館への冷房・暖房の設置」が最も多くなっています。また、中学2年生では、「パソコン、タブレットが古い、ネットワークが繋がりにくい」が小学5年生と比較し15.4ポイント多くなっており、日常的に使用する設備の改善が必要とされていることがうかがえます。

# Ⅶ 参考資料

## 1 市民アンケート調査票

アンケートに回答いただいているあなた自身のものごとについておたずねします。

問1 あなたの年齢を次の中から1つお選びください。(令和7年10月1日現在)

- 1. 30歳未満
- 2. 30歳代
- 3. 40歳代
- 4. 50歳代
- 5. 60歳代
- 6. 70歳以上

問2 お住まいの小学校区はどちらですか。(あてはまるもの1つ)

- 1. 三田小学校
- 2. 三輪小学校
- 3. 志手原小学校
- 4. 藍小学校
- 5. 本庄小学校
- 6. 瓜野小学校
- 7. 小野小学校
- 8. 高平小学校
- 9. 母子小学校
- 10. 武庫小学校
- 11. 松が丘小学校
- 12. すずかけ台小学校
- 13. 狹間小学校
- 14. 富士小学校
- 15. あかしあ台小学校
- 16. 弥生小学校
- 17. つつが丘小学校
- 18. げやき台小学校
- 19. 学園小学校
- 20. ゆりのき台小学校

※小学校区が不明な場合は、市HP (<https://www.city.sanda.lg.jp/material/files/group/64/sintugakioutugakukuki09401.pdf>) でご覧いただけます。

問3 あなたには、次の方がご家族におられますか。(あてはまるものすべて)

- 1. 就学前の子ども
- 2. 小学生の子ども
- 3. 中学生の子ども
- 4. 高校生の子とも
- 5. 大学生・専門学校生の子とも
- 6. 1～5に該当する家族はいない

問3-1 問3で「1～3」を選んだ人は答えてください。あなたのご家族に以下の三田市立の学校等に在籍している方はおられますか。(おられる場合は1～4であてはまるものすべてを、おられない場合は5を選んでください)

- 1. 市立幼稚園(認定こども園)・保育所
- 2. 市立小学校
- 3. 市立中学校
- 4. 市立特別支援学校
- 5. 該当しない

問4 あなたは以下の三田市立の学校等を卒業されましたか。(あてはまるものすべて)

- 1. 市立幼稚園(認定こども園)・保育所
- 2. 市立小学校
- 3. 市立中学校
- 4. 市立特別支援学校
- 5. 該当しない

### 児童生徒の教育や学習に関する取組についておたずねします。

問5 児童生徒を取り巻く環境は、この数年、どのように変化してきましたか。

(①～⑦ごとに1つ)

	増えてきた	変わらな	減ってきた
① 学校や塾以外の児童生徒同士の交流の時間	1	2	3
② 家庭などで家族と関わり合いを持つ時間	1	2	3
③ 地域で活動している人とふれあう機会	1	2	3
④ 高齢の人とふれあう機会	1	2	3
⑤ 外国の人や異文化とふれあう機会	1	2	3
⑥ インターネットなど多様な情報にふれる機会	1	2	3
⑦ 家庭における経済格差	1	2	3

※学校：このアンケートにおいて「学校」とは、就学前教育・保育施設(幼稚園、保育所、認定こども園、小規模保育施設など)、小学校、中学校、特別支援学校、高等学校を指します。  
 ※児童生徒：このアンケートにおいて児童生徒とは、就学前教育・保育施設(幼稚園、保育所、認定こども園、小規模保育施設など)、小学校、中学校、特別支援学校に通う子どもを指します。

### 三田市の教育に関する市民アンケート調査のお願い

市民の皆様には、日頃から市政に対し、ご協力をいただきありがとうございます。さて、三田市では、これまでの学校・家庭・地域における教育の取組の成果と課題を検証するとともに、今後の取り組むべき方向性を定めるため、「第4期三田市教育振興基本計画(計画期間：令和9年度～令和13年度の5年間)」の策定を予定しています。そのために、広く市民の皆様様の声を聞き、今後の教育のあり方を考える参考とさせていただきます。市民アンケート調査を実施することといたしました。アンケートの結果は、今後の教育施策のための基礎資料として活用させていただきますので、お忙しいところ恐縮ですが、ご協力ください。申し込みますようお願い申し上げます。なお、回答いただいた内容はすべて統計的に処理しますので、個人情報が入り込まないこと、上記の目的の他に使用することは一切ありません。

令和7年10月 三田市教育委員会

《回答方法について》

- ① 質問ごとに、あてはまる番号を○で囲んでください。
- ② 「その他」にあてはまる場合は、( )内になるべく具体的に記入ください。
- ③ 回答は、えんぴつ、ボールペンなどではっきりと記入ください。
- ④ 令和7年10月31日(金)までに、同封の返信用封筒にて返送してください。(切手は不要です。) お名前、住所を記入いただく必要はありません。

《お問い合わせ》

三田市教育委員会 学校教育部 教育総務課  
 TEL：079-569-5131  
 FAX：079-563-1343

問6 あなたは、児童生徒の力や教育全般について、関心があること、不安に感じていること、それぞ  
れらつまで選んで数字を記載してください。回答は同じ選択肢を選んでも構いません。

1. 確かな学力（教科の知識や技能が身につけていること）
2. 主体的に学ぶ力（自ら課題を見つけ、解決する力が身につけていること）
3. 協働的に学ぶ力
4. すこやかな体力
5. 健康的な生活習慣
6. 道徳心や規範意識
7. いじめや不登校
8. 学校の施設・設備
9. 家庭環境等による教育格差
10. 学校・家庭・地域の連携・協働
11. 地域での子育て・教育
12. 学校・家庭・地域の連携・協働
13. 進路に関すること
14. 幼稚園・認定こども園・小学校間の連携
15. 教職員の指導力や専門性
16. ICTを活用した教育
17. 教育相談に関すること
18. その他（ ）
19. 持たない
20. 分からない

関心があること	不安に感じていること

問7 教育を通して、児童生徒には「現在」①～⑫の能力や態度が身につけていると思いますか。また、「今後の重要度」について、あなたの考えに最も近いものを、それぞれ1つずつ選んでください。

項目	【現在の状況】 身につけている					【今後の重要度】				
	5	4	3	2	1	重要	3	2	1	重要でない
① 課題を身につけ解決に向けて考えながら取り組む力	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
② 他の人々と協働しながら課題解決に取り組む態度	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
③ 身につけた知識や技能を活用する力	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
④ 表現力やコミュニケーション力	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑤ 教科の基礎的な学力	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑥ ICTを活用する力	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑦ インターネットなどの情報を適切に判断し、安全かつ効果的に利用する力	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑧ 英語に興味を持ち学ぶ姿勢	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑨ 読書習慣	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑩ 道徳心（思いやりや心の善悪の判断など）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑪ 自己肯定感や自尊感情	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑫ 社会生活に必要な常識やマナー	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

⑬ いじめや差別・暴力行為を許さない心	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑭ 生き方や進路について考える力	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑮ 多様な人々がお互いに認め合い、共に生きる姿勢	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑯ “心算”と三田”を語り合う心、愛する心	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑰ 地元の人や行事に積極的に関わろうとする姿勢	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑱ 体力を向上させ、健康的に生きようとする姿勢	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑲ 性に関する正しい知識	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑳ 自ら危険を予測し、安全に行動する力	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

問8 あなたは学校に対してどのようなことを望みますか。(3つまで)

1. 自己肯定感や自尊感情を育むとともに、いじめ・差別を許さない心を育むこと
2. 児童生徒の個性にふさわしいきめ細やかな対応をすること
3. 生活習慣や社会規範について指導すること
4. 児童生徒が将来の夢や目標が持てるよう支援し、その思いを尊重すること
5. 児童生徒が失敗を恐れずに挑戦できる環境を整えること
6. 児童生徒や保護者の相談に対して、しっかりと話を聞いて的確に助言してくれること
7. 教科に関する専門的な知識を持ち、わかりやすい授業を行うこと
8. 児童生徒を複数の教職員が、様々な面から見守り、公平に接すること
9. 社会の要請や時代の変化に柔軟に対応し、学校として継続的に対応すること
10. 基礎的な学力を身につけるとともに、体育などの基礎的な体づくりを推進すること
11. その他（ ）

問9 あなたは就学前教育施設に対してどのようなことを望みますか。(3つまで)

1. 基本的な生活習慣を形成すること
2. きまりやルールなどの規範意識を育成すること
3. 自然とふれあふ体験をすること
4. 世代間交流など、いろいろな人とふれあふ体験をすること
5. 預かり保育などの子育て支援に取り組みすること
6. 小学校入学後に安心して学校生活を送れるよう、幼稚園・認定こども園・保育所等と小学校が連携すること
7. 保護者の教育力の向上に向けた支援
8. 保護者同士が子育てについて情報交換しあえるネットワークづくり
9. その他（ ）

問 10 あなたは、いじめや問題行動などを防止するためにどのようなことが必要だと思いますか。(3つまで)

1. 保護者が児童生徒を注意深く観察し、状況を把握し指導すること
2. 教職員が児童生徒を注意深く観察し、状況を把握し指導すること
3. 地域全体で児童生徒を見守るなど、地域の教育力を高めること
4. 学校や家庭において情報モラル教育※の充実を図ること
5. 学校において、児童生徒がいじめの定義を正しく理解させ、いじめゼロに向けて継続的に取り組むこと
6. 学校において人権教育や道徳教育、生徒指導の充実を図ること
7. 専門家（スクールカウンセラー※、スクールソーシャルワーカー※）による継続的な相談・支援体制を充実すること
8. 市や教育委員会がいじめ防止の啓発活動に積極的に取り組むこと
9. 家庭教育の中で悪悪の判断や他人への思いやりの心を育むこと
10. 学校と警察や子ども家庭センター（児童相談所）などの関係機関との連携を強化すること
11. その他（ ）

※情報モラル教育：よりよいコミュニケーションや人間関係づくりに向けて、インターネットやスマートフォンなど情報手段を適切に活用して行われる判断力や心構えを身に付けさせる教育。  
 ※スクールカウンセラー：心の悩みなどに対して、小・中・高等学校に配置し、児童生徒や保護者、教職員へのカウンセリングを行う専門家。  
 ※スクールソーシャルワーカー：学校で児童生徒の悩みに対して支援し、家庭や地域と連携して問題解決を助ける専門家。

問 11 あなたは、不登校に対処するために、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで)

1. 児童生徒の居場所や多様な学びの場の確保(例：教育支援センター、フリースクール、図書館など)
2. 専門家（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー）による継続的な相談・支援体制の充実
3. 学校における「居心地のよい居場所」の確保
4. 保護者への相談支援の充実
5. 不登校の児童生徒への社会参加機会の確保
6. 教員研修の充実と専門性の向上
7. 地域住民や関係機関との連携強化
8. 不登校に対する市民の理解を深めるための啓発活動
9. その他（ ）

問 12 あなたは、特別支援教育※の充実のためにどのような取組が必要だと思いますか。(3つまで)

1. すべての児童生徒が共に学ぶことのできる教育の場と機会の確保
2. 乳幼児期からの相談支援体制の整備
3. 児童生徒の個性や特性に合わせた相談体制の充実
4. 教職員の専門性の向上
5. 学校施設のバリアフリー化
6. 授業のユニバーサルデザイン※化
7. 障害に対する理解を深めるための学習の充実
8. その他（ ）

※特別支援教育：障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、障害のある子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの。  
 ※ユニバーサルデザイン：年齢や性別、国籍、障害の有無にかかわらず、誰にとっても利用できるようにデザインするという考え方。

問 13 あなたは、学校の施設や設備で改善すべきだと思うことはありますか。(3つまで)

1. 校舎・園舎全体の老朽化
2. 体育館等への空調設備の設置
3. トイレの洋式化や衛生面の改善
4. 校庭・園庭の遊具などの安全性の確保
5. 植栽などの景観の整備、維持管理
6. ICTインフラの整備（PC、タブレットやネットワーク等）
7. 図書室の木の充実
8. その他（ ）

問 14 本市では、学校の小規模化に伴う課題等を解消し、教育環境や学習環境を充実していくため、三田市立学校のあり方に関する基本方針<sup>※</sup>に基づき学校再編（統合）の取組を進めていくこととされています。この取組について期待することや、心配なことなど、あなたのお考えに近いものを選んでください。(あてはまるものすべて)

※学校再編は、子どもたちの教育上の観点から、小学校では各学年2～3クラス、中学校では各学年3～6クラス程度が望ましいと考えています。

1. 多様な考えや意見を聞いて学び、協力し合う経験が多くなる
2. クラス替え等により、新しい友達をつくる機会が増え、社会性や協調性を育みやすい
3. 学校生活のあらゆる場面で教育活動に選択の幅が広がり、多様な学習・指導形態がとりやすい
4. 児童生徒を複数の教職員が、様々な面から見守り、評価することができる
5. 学校までの距離が遠くなるため、安全・安心な通学ができるよう対策が必要
6. 児童生徒一人一人の把握が難しくなりやすい
7. 学校行事やクラブ活動等において、一人一人に個別の活動機会を設定しにくい
8. 保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい
9. 児童生徒一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい
10. 児童生徒相互の人間関係が深まりやすい
11. 他の学年との交流が行いやすい
12. 学校行事やクラブ活動等において、一人一人に個別の活動機会を設定しやすい
13. クラス替えが困難なことなどから、人間関係の固定化、序列化などが生じやすい
14. 集団の中で、多様な考えに触れる機会や切磋琢磨する機会が少なくなる
15. 学校行事や集団活動など、学校生活の様々な場面で教育活動に制約が生じやすい
16. PTA、活動や校外学習費など、保護者の負担が大きくなりやすい
17. その他（ ）

問 14-1 あなたは、学校再編の取組についてどのように思われますか。(あてはまるもの1つ)

1. 理解できる
2. おおむね理解できる
3. 理解できない
4. どちらとも言えない

**家庭・地域で児童生徒を育てていくことについておたずねします。**

問 15 家庭での教育について「現在」①～⑧からできていると思えますか。また、「今後の重要度」について、それぞれ1つずつ選んでください。

項目	【現在の状況】					【今後の重要度】				
	できている	できていない	重要	重要でない						
① 社会科や理科の学習の確立	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
② 保護者と子どもが十分に話し合ったり、触れ合ったりする時間	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
③ 家族と一緒に自然や文化に触れあう体験	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
④ 保護者が家庭教育に関する知識や情報を得る	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑤ 保護者同士が互いに交流できる場と仲間づくり	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑥ 児童生徒の教育や子育てに関して気軽に相談できる窓口	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑦ 保護者自身の学習機会	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑧ 保護者自身の地域社会への参加	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

問 16 学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深め、子育てしていくことが求められますが、その上で、大切なことは何だと思えますか。(3つまで)

1. それぞれの役割分担を明らかにすること
2. それぞれの情報を共有すること
3. 学校・家庭・地域をつなぐ人がいること
4. コミュニティ・スクール<sup>※</sup>を充実させること
5. 放課後や休日に地域の人が児童生徒の学習支援や児童生徒との交流を行うこと
6. PTA活動を活性化すること
7. 市内でのイベントや学校行事等を学校が関係機関等と協力して行うこと
8. 地域の資源を活用した学習を充実させること
9. その他 ( )

※コミュニティ・スクール：学校運営協議会を設置し、学校と地域住民などが協働しながら学校の運営やその支援に取り組む仕組み。

問 17 学校に対して協力してみたいと思うことはありますか。(あてはまるものすべて)

1. 授業の補助や放課後等の学習支援
2. 運動会や文化祭等の学校行事の支援
3. 読み聞かせや図書の整理、読書の相談
4. 花壇や植えるふみの手入れ等の環境整備
5. スポーツや文化活動の指導・支援
6. 通学路における登下校時の見守り活動
7. 校内清掃
8. 休み時間における対面（校庭などでの遊びの見守りなど）
9. 農作業など地域での体験活動の支援
10. 特別な配慮が必要な子どもへの支援
11. 外国語や日本語指導への支援
12. 不登校の子どもへの支援
13. その他 ( )
14. 特になし

**学校や家庭以外での教育についておたずねします。**

問 18 あなたは、学校や家庭以外で、児童生徒にどのような教育や体験活動が必要だと思いますか。(あてはまるものすべて)

1. 読書に関するもの
2. 習得的な読書（図書館等の活用）
3. スポーツに関するもの
4. 自然体験に関するもの
5. 文化体験に関するもの
6. 音楽・芸術に関するもの
7. 市内のイベントなど地域活動への参加
8. 環境問題や社会問題に関するもの
9. 塾などの学習に関する習い事
10. その他 ( )
11. 特になし

問 18-1 学校や家庭以外での教育のためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべて)

1. 公民館や博物館、図書館などの社会教育施設の充実
2. 社会教育施設におけるプログラムの充実
3. 市民や企業と連携した教育の担い手の確保
4. 情報の充実と十分な周知
5. 費用負担に関するサポート
6. 移動手段の充実
7. 体験イベントなど参加のきっかけづくり
8. その他 ( )
9. 特になし

問 19 学校や家庭以外での教育において、協力してみたいと思うことはありますか。(あてはまるものすべて)

1. 児童生徒向けイベントやプログラムの企画
2. 自身の経験やスキルを活かした学習や体験の支援
3. 児童生徒の居場所づくり
4. 環境美化、環境保護活動
5. 絵本や紙芝居等の読み聞かせ
6. 職業体験の機会提供
7. 伝統文化を教える
8. その他 ( )
9. 特になし

三田市の教育に関して、望むことや具体的な提案、感想がありましたら、ご記入ください。


以上でアンケートは終わります。ご協力ありがとうございました。

## 2 教職員アンケート調査票

### 三田市の教育に関する教職員アンケート調査のお願い

教職員の皆様には、日頃から三田市の児童生徒の教育にご尽力いただきありがとうございます。この度、教育委員会では、「第4期三田市教育振興基本計画（計画期間：令和9年度～令和13年度の5年間）」の策定にあたり、教育に関する意見を聴き取りたいと考えています。教職員を対象にアンケート調査を実施することといたしました。

アンケート結果は、今後の教育施策のための基礎資料として活用しますので、お忙しいところ恐縮ですが、ご協力くださいようお願いいたします。なお、回答いただきました内容はすべて統計的に処理しますので、個人が特定されることや、上記の目的の他に使用することは一切ありません。

令和7年10月 三田市教育委員会

【回答にあたってのお願い】

※学校：このアンケートにおいて学校とは、就学前教育・保育施設（幼稚園、保育所、認定こども園、小規模保育施設など）、小学校、中学校、特別支援学校を指します。

※児童生徒：このアンケートにおいて児童生徒とは、就学前教育・保育施設（幼稚園、保育所、認定こども園、小規模保育施設など）、小学校、中学校、特別支援学校に通う子どもを指します。

パソコンやスマートフォンから、下記URL（または二次元コード）にアクセスし、項目ごとに回答してください。回答の受付は、**令和7年10月31日（金）24時**までにお願いたします。

【URL】 <https://questant.jp/a/sanda-kyoin>



【お問い合わせ】

三田市教育委員会 学校教育部 教育総務課 TEL：079-559-5131/FAX：079-563-1343

### あなた自身のことについておたずねします。

問1 あなた自身の勤務先はどちらですか。（あてはまるもの1つ）

1. 幼稚園・認定こども園      2. 小学校      3. 中学校

※特別支援学校については、小学部は「2」、中学部・高等部は「3」に○を記載してください。

問2 あなたの職種を教えてください。（あてはまるもの1つ）

1. 管理職      2. 管理職以外

問3 三田市外を含む、学校の現場でのあなたの勤務経験を教えてください。（あてはまるもの1つ）

1. 5年未満      2. 5～9年      3. 10～19年  
4. 20～29年      5. 30年以上

問4 あなたが勤務している学校はどの校区ですか。（あてはまるもの1つ）

1. 長坂中学校区      2. 上野台中学校区      3. 被田中学校区  
4. 八景中学校区      5. げやき台中学校区      6. 藍中学校区  
7. 富士中学校区      8. ゆりのき台中学校区

※特別支援学校については「7 富士中学校区」に○を記載してください。

### 教職員の職場環境についておたずねします。

問5 あなたは自身の職務について、「現在の状況」として、「①～⑥のどの業務が多忙ですか。また、①～⑥の業務としての「今後の重要度」について、あなたの考えに最も近いものを、それぞれ1つずつ選んでください。「該当なし」の場合は「0」を選んでください。

項目	【現在の状況】						該当なし	【今後の重要度】						該当なし				
	多忙である			多忙でない				重要			重要でない							
① 保育・授業の準備	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
② 保育・授業以外の担任業務	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
③ 学習評価や成績処理、 保育の評価・記録	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
④ 学校行事の準備・運営	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑤ 進路指導	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑥ 支援が必要な児童生徒・保護者への対応	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑦ いじめ、不登校、生徒指導 対応や保護者対応	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑧ 給食時の対応	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

⑨ 調査・統計等への回答等	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑩ 事務関係書類の作成	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑪ 児童生徒の休み時間における対応	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑫ 園内・校内清掃(環境整備)	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑬ クラブ活動・部活動	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑭ 通園・登下校に関する対応	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑮ 学校徴収金の徴収・管理	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑯ 地域ボランティアとの連絡調整	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

問6 業務において、負担やストレスを感じる点はありませんか。(あてはまるもの1つ)  
 1. ある  
 2. どちらかといえはある  
 3. どちらかといえはない  
 4. ない

問6-1 問6で「1」「2」を選んだ人は答えてください。負担やストレスを感じるのとはどんなことですか。(あてはまるものすべて)

1. 業務量が多い
2. 職場の人間関係
3. 学級運営・児童生徒への対応
4. 保護者への対応
5. 自身の家庭やプライベートの問題
6. 自身の体調の問題
7. その他 ( )

問7 業務を進めるうえで、改善が必要だと感じる点はありませんか。(あてはまるもの1つ)  
 1. ある  
 2. どちらかといえはある  
 3. どちらかといえはない  
 4. ない

問7-1 問7で「1」「2」を選んだ人は答えてください。特に改善が必要だと思うものは何ですか。(あてはまるものすべて)

1. 人員配置のさらなる充実
2. 教職員が担う必要のない業務の外部委託やボランティアによる対応
3. 教職員が担う業務の外部委託やボランティア活用による負担軽減
4. 教職員間の連携・業務分担の促進
5. 事務関係書類の提出の減少・効率化
6. 会議や研究会の効率化・スリム化
7. ICT機器活用の促進
8. 教職員が相談できる場や機会の充実
9. 執務環境のさらなる充実
10. 授業時間、時程の見直し
11. その他 ( )

**教育や学習に関する取組についておたずねします。**

問8 あなたは、児童生徒への指導力向上に向けた実践を行っていますか。(あてはまるもの1つ)  
 1. 行っている  
 2. どちらかといえは行っている  
 3. どちらかといえは行っていない  
 4. 行っていない

問9 ①～⑮の三田市の教育の取組の中で、「現在の状況」(できていると感じるもの)と、今後「充実させる必要があるもの」はどれですか。あなたの考えに最も近い番号を、それぞれ1つずつ選んでください。

取 組 内 容	【現在の状況】 できている できない					【充実させる必要がある】 必要 ない				
	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
① 児童生徒の可能性をひろげる資質・能力の育成	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
② 育ちと学びをつなぐ教育(学校の連携)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
③ 道徳性を育む教育	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
④ 「共生」の心を育む教育	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑤ 協働的に学ぶ力の育成	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑥ 体力・運動能力の向上	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑦ ICTを活用する能力を育む教育	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑧ 食育・健康教育	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑨ 安全・防災教育	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑩ 特別支援教育	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑪ 生徒指導・相談体制の充実	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑫ キャリア育成と自己実現を図る教育	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑬ グローバル化に対応した教育	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑭ 生きる力の基礎を育む教育	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑮ 幼児期と児童期の円滑な接続推進(幼・保・小の連携)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑯ 学校組織力の向上	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑰ 教職員の資質・指導力の向上	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑱ 教職員の働き方改革	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑲ 学校・家庭・地域の連携と協働	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑳ 家庭・地域の教育支援	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
㉑ 保護者の経済的負担の軽減	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
㉒ 学習成果を活かす仕組みづくり	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

㉓ 多様な学習機会の創出	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
㉔ 多様な職員や考え方に触れる機会の創出	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
㉕ 学校の再編	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
㉖ 安全安心で充実した環境の整備	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

問 10 あなたの学校と地域は、上手く連携できていますか。(あてはまるもの1つ)

1. 上手く連携できている
2. どちらとも言えない
3. 上手くいっていない
4. わからない

問 11 学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深め、子育てしていく上で、大切なことは何だと思いますか。(3つまで)

1. それぞれの役割分担を明らかにすること
2. それぞれの情報を共有すること
3. 学校・家庭・地域をつなぐ人がいること
4. コミュニティ・スクール<sup>\*</sup>を充実すること
5. 放課後や休日に地域の人が児童生徒の学習支援や児童生徒との交流を行うこと
6. PTA活動を活性化すること
7. 市内でのイベントや学校行事等を学校や関係機関等が協力して行うこと
8. 地域の資源を活用した学習を充実すること
9. その他 ( )

\*コミュニティスクール：学校運営協議会を設置し、学校と地域住民などが協働しながら学校の運営やその支援に取り組む仕組み。

問 12 あなたの学校は、児童生徒が安心して学べる環境ができていると思いますか。

(あてはまるもの1つ)

1. できていると思う
2. どちらかといえばできていると思う
3. どちらかといえばできていないと思う
4. できていないと思う

問 12-1 問 12で「3」「4」を選んだ人は答えてください。特に改善が必要だとと思うものは何ですか。(3つまで選択し、具体的な意見があれば教えてください)

1. 通学路の危険箇所の把握や安全確保 ( )
2. 施設の老朽化対策・安全対策 ( )
3. 施設のバリアフリー化 ( )
4. 授業のユニバーサルデザイン化 ( )
5. 教職員の指導力 ( )
6. いじめ等未然防止や、適切な対応 ( )
7. 防災教育・防災訓練の充実 ( )
8. 不審者対策や防犯対策の充実 ( )
9. 学校給食の改善 ( )
10. 教材や備品の充実 ( )
11. その他 ( )

問 13 あなたの学校は、いじめへの対策・対応が適切にできていると思いますか。(あてはまるもの1つ)

1. できていると思う
2. どちらかといえばできていると思う
3. どちらかといえばできていないと思う
4. できていないと思う

問 13-1 問 13で「3」「4」を選んだ人は答えてください。特にできていないと思うものは何ですか。(あてはまるものすべて)

1. いじめの未然防止
2. いじめの早期発見
3. いじめ認知後の初期対応
4. いじめを行った児童生徒への指導
5. いじめを受けた児童生徒へのフォロー
6. すべての児童生徒に対するいじめの防止に向けた教育
7. 専門家による継続的な相談・支援
8. いじめについての保護者や市民への啓発
9. その他 ( )

問 14 あなたの学校は、不登校児童生徒への対策・対応が適切にできていると思いますか。

(あてはまるもの1つ)

1. できていると思う
2. どちらかといえばできていると思う
3. どちらかといえばできていないと思う
4. できていないと思う

問 14-1 問 14で「3」「4」を選んだ人は答えてください。特にできていないと思うものは何ですか。(あてはまるものすべて)

1. 不登校の兆候の早期把握や未然防止
2. 不登校理由の把握やその解決に向けた取組
3. 学校への復帰に向けた支援
4. 不登校児童生徒やその保護者とのコミュニケーション
5. 学校内での居場所の充実
6. 自宅からでも学習に参加できる機会の提供
7. その他 ( )

問 15 本市では、学校の小規模化に伴う諸課題を解消し、教育環境や学習環境を充実していくため、三田市立学校のあり方に関する基本方針※に基づき学校再編（統合）の取組を進めていくこととしております。この取組について期待することや、心配なことなど、あなたのお考えに近いものを選んでください。（あてはまるものすべて）

※学校規模は、子どもたちの教育上の視点から、小学校では各学年2～3クラス、中学校では各学年3～6クラス程度が望ましいと考えています。

1. 多様な考えや意見を聞いて学び、協力し合う経験が多くなる
2. クラス替え等により、新しい友だちをつくる機会が増え、社会性や協調性を育みやすい
3. 学校生活のあらゆる場面で教育活動に選択の幅が広がり、多様な学習・指導形態がとりやすい
4. 児童生徒を複数の教職員が、様々な面から見守り、評価することができる
5. 学校までの距離が遠くなるため、安全・安心な通学ができるよう対策が必要
6. 児童生徒一人一人の把握が難しくなりやすい
7. 学校行事やクラブ活動等において、一人一人に個別の活動機会を確保しにくい
8. 保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい
9. 児童生徒一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい
10. 児童生徒相互の人間関係が深まりやすい
11. 他の学年との交流が行いやすい
12. 学校行事やクラブ活動等において、一人一人に個別の活動機会を確保しやすい
13. クラス替えが困難なことなどから、人間関係の固定化、序列化などが生じやすい
14. 集団の中で、多様な考えに触れる機会や切磋琢磨する機会が少なくなる
15. 学校行事や集団活動など、学校生活の様々な場面で教育活動に制約が生じやすい
16. PTA 活動や校外学習費など、保護者の負担が大きくなりやすい
17. その他( )

問 15-1 あなたは、学校再編の取り組みについてどのように思われますか。（あてはまるもの1つ）

1. 理解できる
2. おおむね理解できる
3. 理解できない
4. どちらとも言いえない

### ICT教育についておたずねします。

問 16 あなたの勤務先の学校のICT環境は整備されていますか。（あてはまるものすべて）

1. されている
2. どちらかといえばされている
3. どちらかといえばされていない
4. されていない

問 17 あなたは、ICT機器を活用した保育・授業をどの程度行っていますか。（あてはまるもの1つ）

1. かなり行っている
2. どちらかといえば行っている
3. どちらかといえば行っていない
4. 行っていない

問 18 ICT機器を活用した保育・授業によるメリットと感ずることは何ですか。（あてはまるものすべて）

1. 学習意欲の向上
2. 情報活用力の向上
3. 保育・授業の効率化
4. 保育・授業の個別最適化
5. 児童生徒の探究的な学習の深化
6. 協働的な学びの促進
7. ICT機器操作力の向上
8. リアルタイムな情報の更新
9. その他( )

問 19 ICT機器を活用した教育の推進には、どのような支援が必要だと感じますか。（あてはまるものすべて）

1. 保育・授業づくりに関する研修
2. ICT機器の操作に関する研修
3. 情報セキュリティに関する研修
4. 著作権に関する研修
5. ICT支援員の派遣による支援
6. サポートデスクによる支援
7. 先進事例等の情報共有
8. その他( )

三田市の教育に関して、望むことや具体的な提案、感想がありましたら、ご記入ください。


以上でアンケートは終わります。ご協力ありがとうございました。

### 3 小中学生アンケート調査票

三田市の小学校・中学校に通うみなさんへ

このアンケートは、これからの三田の教育、みなさんの通う学校をより良くするための新しい計画づくりにいかしていきます。ご協力をお願いします。

Q1 あなたの学年をおしえてください。(あてはまるもの1つ)

1. 中学2年生
2. 小学5年生

Q2 学校は楽しいですか。(あてはまるもの1つ)

1. とても楽しい
2. どちらかといえば楽しい
3. あまり楽しくない
4. 楽しくない

Q2-1 Q2のように答えた理由を教えてください。


Q3 毎日の学校生活で、楽しいと感じるときはいつですか。(3つまで)

1. 登下校のとき
2. しゅぎよう中
3. 休み時間
4. 給食の時間
5. クラブ活動・部活動
6. 委員会活動・係活動
7. そつじの時間
8. 行事のとき(運動会など)
9. 楽しいと感じるときはない
10. その他( )

Q4 学業活動やクラブ活動・部活動などの特別活動をのぞいて、授業が楽しい、好きだと感じるときはいつですか。(3つまで)

1. 新しい問題を解いているとき
2. 友だちと協力して学習や話し合い、作業や練習をしているとき
3. 一人で学習や作業、練習をしているとき
4. 自分の考えや発表したことが、友だちや先生からみとめられたとき
5. わからないことがわかったり、できるようになったとき
6. 先生の話がおもしろく、わかりやすいとき
7. 身近な社会のことについて学んでいるとき
8. 楽しい・好きだと感じるときはない
9. その他( )

Q5 次の授業は好きですか。①～⑩のそれぞれについて当てはまるものをえらんでください。

《小学生》	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば好きではない	好きではない
① 国語	1	2	3	4

② 算数	1	2	3	4
③ 理科	1	2	3	4
④ 社会	1	2	3	4
⑤ 音楽	1	2	3	4
⑥ 図画工作	1	2	3	4
⑦ 家庭科	1	2	3	4
⑧ 体育	1	2	3	4
⑨ どうとく	1	2	3	4
⑩ そつごつ的な学習の時間	1	2	3	4
⑪ 外国語活動・英語	1	2	3	4
⑫ 自立活動	1	2	3	4

《中学生》	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば好きではない	好きではない
① 国語	1	2	3	4
② 数学	1	2	3	4
③ 理科	1	2	3	4
④ 社会	1	2	3	4
⑤ 音楽	1	2	3	4
⑥ 美術	1	2	3	4
⑦ 保健体育	1	2	3	4
⑧ 技術・家庭	1	2	3	4
⑨ 英語	1	2	3	4
⑩ どうとく	1	2	3	4
⑪ そつごつ的な学習の時間	1	2	3	4
⑫ 自立活動	1	2	3	4

Q6 毎日の生活の中で不安に感じることはありませんか。①～⑩のそれぞれについて当てはまるものをえらんでください。また、その他で不安に感じることがあれば、記入してください。

	不安に感じる	たまに不安に感じる	ほとんど不安に感じない	不安に感じない
① 勉強について	1	2	3	4
② 友だち関係について	1	2	3	4
③ 運動について	1	2	3	4
④ 先生との関係について	1	2	3	4
⑤ クラブ活動・部活動について	1	2	3	4
⑥ 給食について	1	2	3	4
⑦ 自分からだや権について	1	2	3	4

⑧ 家や家族のことについて	1	2	3	4
⑨ 連絡やしよらについて	1	2	3	4
⑩ その他	( )			

Q7 なやみや不安なことがあるとき、だれに相談しますか。(3つまで)

1. 家族
2. 先生
3. 学校の友だち
4. 学校以外の友だち
5. インターネットやSNS上の友だち
6. AI
7. 相談しない
8. その他 ( )

Q8 あなたがいじめを受けたときや身たときに、だれに相談しますか。(3つまで)

1. 家族
2. 先生
3. 学校の友だち
4. 学校以外の友だち
5. インターネットやSNS上の友だち
6. AI
7. 相談しない
8. その他 ( )

Q9 授業でタブレットなどを使って勉強するとき、どんなことがいらないと思いますか。(あてはまるものすべて)

1. 自分のペースで勉強できる
2. わからないところを何度も見返せる
3. 友だちと教え合ったり、一緒に調べたりしやすい
4. 授業するときにわかりやすい
5. 自分の考えをまとめるのが楽しい
6. その他 ( )

Q10 大人になっても三田市に住み続けたいと思いますか。(あてはまるもの1つ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない

Q10-1 Q10のように考えた理由を教えてください。


Q11 次の①～④のそれぞれについて当てはまるものをえらんでください。

質 問	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらか い え ば、 当 て は ま ら な い	どちらか い え ば、 当 て は ま ら な い	わ か ら な い
① あなたは自分に良いところがある と思いますか	1	2	3	4	5
② あなたにはしんらいでできる人がい ますか	1	2	3	4	5
③ あなたは家族や一緒にくらししてい る人とよく話をしますか	1	2	3	4	5
④ 「あなたはちいぎの行事やイベン トに参加したいと思いますか」	1	2	3	4	5

Q12 あなたは、どのような学校にみよりよく(いいな、すてきなと感じること)を感じますか。(3つまで)

1. わかりやすい授業を受けられることができる学校
2. しょうらい自分に必要能力が身につく学校
3. さまざまな体験学習を行っている学校
4. 友だちや仲間と何でもわかりあえる関係がつけられる学校
5. クラスや部活があり、多くの人と友だちになることができる学校
6. 少人数でいい授業を受けられることができる学校
7. いろいろな先生に、相談することができる学校
8. 体育祭や文化祭などの学校行事が盛んな学校
9. 一人一人がかつやくできる場が多くある学校
10. 自由に意見を言え、その意見が学校の活動に活かされる学校
11. 友だちと仲良く協力しながら、さまざまな活動に取り組むことができる学校
12. 自由に考えたり、計画を立てて行動したりできる学校
13. いじめや差別のない学校
14. 学校のこうしゅや教室、学習で使う道具が整っている学校
15. 安全に通学できる学校
16. 給食がおいしい学校
17. まわりの大人が積極的にかかわる学校
18. 校区の人と一緒に活動したり、手伝ってもらえる学校
19. その他 ( )

Q13 あなたは、学校のしぜつやせつびでかいいずべきだと感じることありますか。(3つまで)

1. こうしゅ全体が古い、あふない場所がある
2. 体育館への入れいほう・だんぼつのせつち
3. トイレを洋式化してほしい
4. 校庭の遊具などが古い、あふない
5. パソコン、タブレットが古い、ネットワークがつかない
6. 図書室の本が古い、少ない
7. 机、いす等のびびんが古い
8. その他 ( )

## 【資料2】アンケート調査結果の報告

### ■アンケート調査の概要 p 1

- ・ 昨年 10 月にWEBでの調査をメインに実施
- ・ 対象
  - (1) 18 歳以上市民 3,000 人 (うち 18 歳未満のこどもの保護者 2,000 人)
  - (2) 市立の学校園の教職員・約 800 人
  - (3) 市立小中学校の児童生徒・約 2,000 人 (小5 : 1,000 人、中2 : 1,000 人)
- ・ 回収状況 表のとおり

### ■調査結果の概要 p 6 0

#### 1 こどもの教育や学習に関する事項

- ・ 市民の教育への関心：自ら課題解決する力 →予測不能な時代に「人生のかじ取り」
- ・ 不安な要素：いじめや不登校
- ・ 今後の重要度：いじめに関すること、危機管理能力
- ・ 就学前教育：規範、生活習慣に加え、幼稚園から小学校への円滑な接続が大きな伸び
- ・ 特別支援教育：個々の相談支援体制

#### 2 学びの環境、学校づくりの事項

- ・ p 4 市民・問5 地域、家族、人とのつながり →減ってきた →家庭や地域連携の重要性
- ・ 連携を進めるため：情報の共有、つなぎ役・コーディネーター、組織的な連携体制が必要
- ・ いじめや問題行動の対応：注意深い観察、状況把握、指導
- ・ 不登校の対応：居場所の確保、相談支援体制が必要

#### 次のページ p 6 1

- ・ 学校再編：8~9 割の高い理解度、社会性の育成のためにも必要、安心できる通学の確保
- ・ 教職員を取り巻く環境：ストレス感 →業務量、支援が必要な子供・保護者対応が要因  
→人員配置や事務削減 →働き方改革を進める必要性

#### 3 まち、地域全体で取り組む教育

- ・ 2でも述べたように人との関係やコミュニティの希薄化、一方でICTの伸展  
→リアルな人とのつながり、またはICT（オンライン）とオフラインの融合も必要
- ・ 家庭教育：保護者の地域参加、学習機会の確保が必要性
- ・ 学外の体験活動：スポーツ、自然体験が重要 →これを進めるために社会教育施設、参加のためのサポート

#### 4 子供の調査

- ・ 学校が楽しい：90% →休み時間、行事 →授業は15%に留まる →魅力ある授業が必要
- ・ 授業の楽しさ：ともだちと協力しての取組、先生のわかりやすさ  
→授業の中でのコミュニケーション、わかる授業づくりの必要性

- ・自己肯定感：7割が自己肯定感、中学生は伸び、小学生は若干減少
- ・タブレットの活用のメリット：中学生で大きく下がる項目あり⇒段階に応じた活用の工夫
- ・三田市への定住意向：中学生で大きく減少
  - ⇒p14・市民 ふるさと三田を思う心 の重要性は低い⇒シビックプライドの醸成
- ・学校施設の改善：体育館への空調 ⇒ 安全な教育環境の整備が必要

#### 【資料2-1】アンケートクロス集計の例

- ・回答者の属性から見たクロス集計
  - ・回答者の地区別から見た集計
  - ・回答内容から見た集計 など
- ⇒必要に応じて抽出が可能

#### 【資料2-2】自由意見まとめ

- ・【資料2】アンケート調査結果報告書 p56 に自由意見の件数のみ掲載
- ・一部具体的な意見を抜粋したのが【資料2-2】

## アンケートクロス集計の例

〇年代別にみた、「児童生徒の力や教育全般について関心があること」について

単位：%	確かな学力（教科の知識や技能が身につけていること）	主体的に学ぶ力（自ら課題を見つけ、解決する力が身につけていること）	協働的に学ぶ力	すこやかな体力	基本的な生活習慣	道徳心や規範意識	いじめや不登校	学校の施設・設備	家庭環境等による教育格差	家庭でのコミュニケーションや教育
全体(n=1,417)	44.5	59.5	16.4	26.0	24.1	24.8	16.8	5.6	7.0	9.4
30歳未満(n=91)	47.3	44.0	18.7	15.4	23.1	23.1	20.9	9.9	5.5	5.5
30歳代(n=314)	43.6	64.3	20.4	28.7	17.2	27.1	14.0	6.7	6.4	11.8
40歳代(n=597)	50.3	63.8	15.1	27.5	24.1	19.8	14.4	4.7	6.2	9.0
50歳代(n=224)	38.4	52.7	16.1	25.9	27.2	21.4	19.6	6.7	8.5	6.7
60歳代(n=109)	34.9	47.7	17.4	22.0	32.1	43.1	21.1	4.6	13.8	8.3
70歳以上(n=81)	32.1	60.5	7.4	23.5	33.3	40.7	27.2	2.5	3.7	16.0
不明・無回答(n=1)	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

単位：%	地域での子育て・教育	学校・家庭・地域の連携・協働	進路に関すること	幼稚園・認定こども園・小学校間の連携	教職員の指導力や専門性	I C Tを活用した教育	教育相談に関すること	その他	特にない	分からない
全体(n=1,417)	6.1	6.6	19.0	2.3	9.2	5.1	0.7	0.5	0.6	0.9
30歳未満(n=91)	8.8	5.5	20.9	4.4	6.6	12.1	0.0	0.0	0.0	2.2
30歳代(n=314)	7.0	5.1	16.9	5.4	6.7	4.1	0.3	0.6	0.3	1.6
40歳代(n=597)	6.5	6.2	23.8	1.3	9.0	4.2	0.8	0.2	0.5	0.7
50歳代(n=224)	4.9	8.0	21.0	0.9	12.5	4.9	0.9	1.3	1.8	0.9
60歳代(n=109)	3.7	8.3	3.7	0.9	9.2	8.3	0.9	0.9	0.0	0.0
70歳以上(n=81)	2.5	9.9	3.7	1.2	13.6	3.7	1.2	0.0	0.0	0.0
不明・無回答(n=1)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## V 自由意見まとめ

## 1 市民アンケート調査 (309件)

1. 子どもの学び、育ちについて	
(1) 社会的自立に向けた教育について	3件
政治に関心を持てる教育が必要	
道徳や社会規範について、よりしっかりと学ぶべき	
自ら考えて行動ができる子どもを育てる教育が必要	
(2) 学力について	11件
学校での授業をより意味あるものにし、塾に行かなくても良いレベルにしてほしい	
学力格差の解消のため、能力別クラスなどの導入を検討すべき アクティブ・ラーニングに時間が取られすぎて知識のインプットが減少している	
(3) 体験・交流・心の育成について	21件
三田の自然豊かな魅力を生徒自身が実感できる教育が必要	
異文化や海外との交流機会、オンライン留学などの体験を充実させてほしい 自分を大切にし、自分の機嫌は自分で取れるような心の持ち方を教えてほしい	
(4) 不登校やいじめについて	24件
不登校児も授業を受けられるよう、リモート授業やオンライン配信を充実させるべき	
いじめ加害者に対して、転校措置などのペナルティを科す仕組みが必要 不登校の原因究明と、当事者やその家族への専門的なケア窓口を設置してほしい	
(5) 体力や健康づくりについて	15件
休み時間には教職員が積極的に児童と外で遊ぶなど、学校生活の中で日常的に体を動かし、心身の健康を促進する機会を増やしてほしい	
低学年に対して縄跳びやかけっこ、鉄棒といった基礎的な運動を専門の先生が指導する場を設けるなど、体力向上に向けた具体的な支援を充実させるべき 体育の授業において、プロダンサーなどの専門講師を招聘し、児童生徒が楽しみながら運動能力を向上させられる質の高いプログラムを導入すべき	
(6) 支援が必要な子ども・家庭について	12件
支援級担任への市からの支援（人員や物資）を充実させ、教員の負担を軽減すべき	
障害の有無に関わらず共に学ぶ場を確保しつつ、専門家による個別対応も必要 就学前から福祉課を中心とした保護者理解と相談支援体制を整備してほしい	
2. 教職員、教育環境等について	
(1) 教職員について	27件
① 教職員への感謝	3件
② 教職員の資質向上について	12件
③ 勤務時間の適正化、多忙解消、増員などについて	7件
④ その他	5件

(2) 学校再編について	25 件
【賛成意見 13 件】	
① 早期実施の要望	7 件
② 小規模校のデメリット解消について	3 件
③ 校区再編について	3 件
④ 財政面・効率性向上について	3 件
【反対意見 12 件】	
① 通学の負担について	4 件
② 児童・生徒の心のケアについて	2 件
③ その他	3 件
(3) 通学、安全、安心なまちについて	12 件
児童が炎天下を歩く状況があるため、距離に関わらずスクールバスの運用を検討すべき 通学路が遠すぎて危険な箇所が多いため、交通費の補助などの具体的な対策が必要	
(4) 学校施設等について	15 件
学校のトイレが古くて汚いため、早急に洋式化と改修を行うべき	
施設の老朽化が激しいため、安全性確保のために早急な修繕が必要 車椅子の児童や怪我をした生徒のために、校内のエレベーター設置が必要	
3. 子どもの教育（学校教育）について	
(1) ICT、オンライン教育について	17 件
タブレット多用による視力低下や、文字を書く機会の減少などの弊害を懸念する 授業中の不適切な使用を規制するため、厳格なフィルタリング等の管理が必要	
ICT を活用し、不登校児への授業配信やリモート学習を積極的に進めるべき	
(2) 少人数学級について	4 件
子ども一人一人に丁寧に向き合えるよう、1 クラスの人数を 30 人程度にしてほしい	
マンモス校では個性が発揮しにくい懸念があるため、細やかな指導ができる環境が必要 教員 1 人への負担を減らすため、少人数学級化による魅力ある教育支援を推進してほしい	
(3) 学校教育について	17 件
各小学校に英語専門の先生を配置し、英会話を中心とした授業を増やすべき 定期テストの難易度や内申点の評価基準について、学校間の格差を是正してほしい	

<b>4. 部活動について</b>	
(1) 地域移行への不安について	19件
地域移行による保護者の送迎負担や、家庭環境による経済格差の拡大が心配 部活動がなくなることで、仲間との連帯感や打ち込む楽しさを得る機会が減ることを懸念する	
家庭の事情でクラブ活動に参加できない子どもがいないよう、慎重に検討してほしい	
(2) 地域クラブへの要望	8件
地域クラブの活動内容や場所について、詳細な情報を早く分かりやすく発信してほしい	
児童が自分で行ける場所での活動や、移動支援・参加費の補助を検討してほしい 学校の枠を超えた活動ができるよう、指導者の質や体制を整えてほしい	
<b>5. PTAについて</b>	
(1) 負担軽減、簡素化、効率化について	7件
共働き世帯が多いため、PTA 役員の強制参加や負担の大きい地域活動は見直すべき	
時代に合わない不要なルールや活動は撤廃し、組織を簡素化・効率化すべき 仕事や育児に忙しい家庭には無理があるため、任意性を尊重した運営を望む	
(2) 廃止すべき	4件
多忙な保護者の負担が大きいため、PTA 活動を廃止してほしい 強制的に参加させる仕組みは現代の生活スタイルに合っていない	
<b>6. 学校・家庭・地域の連携について</b>	
(1) 協働の仕組みづくり、ボランティアについて	9件
学校運営は教職員だけでは難しいため、地域全体で問題解決に取り組む仕組みが必要	
地域の高齢者が持つ得意分野を子どもたちに伝承する機会を増やし、交流を深めてほしい ボランティアの関わり方が校区によって異なるため、均一にする仕組みが必要	
(2) 文化活動や地域行事などについて	1件
伝統的に良いものは残し、勉強以外のふれあいや体験ができる機会を継続してほしい	
(3) 学校施設の有効活用について	1件
学校が休みの時に、習い事や学びの体験ができる地域のイベントを学校で開催してほしい	
<b>7. その他の教育施設等について</b>	
(1) 公園設備について	5件
幅広い年代が遊べる大きな公園を作ったり、古い公園のリニューアルを行ってほしい	
猛暑時でも遊べるような屋内の遊び場を、駅周辺などの利便性の高い場所に作ってほしい 公園の雑草管理や遊具の安全整備を徹底し、子どもがのびのび遊べる環境を整えてほしい	

(2) 児童クラブについて	11件
夏休みなどの長期休暇期間中のみ、児童クラブを利用できるようにしてほしい	
土曜日毎週開所するなど、共働き家庭の状況に合わせた柔軟な運営を望む 入所基準を緩和し、パート勤務や扶養内勤務の家庭でも利用しやすくしてほしい	
(3) 就学前施設について	6件
児童数が多いニュータウン地区に、公立幼稚園を新設または維持してほしい	
幼稚園の閉園は財政面だけでなく、教育的観点から慎重に議論し結論を出すべき 発達相談や検査ができる施設を増やし、身近に信頼・安心できる相談環境を整えてほしい	
(4) 放課後等の居場所、学習の場について	8件
図書館内やコミュニティセンターに、子どもが学習できる自習室を確保してほしい	
空き店舗を活用し、社会人も含めて活用できる自習学習スペースを市として設けてほしい 放課後に子どもたちが安心して遊んだり、多世代と交流したりできる憩いの場がほしい	
<b>8. その他</b>	
(1) 医療費の無償化、習い事等の金銭的補助について	6件
18歳までの医療費無料化など、近隣市町に劣らない子育て支援を充実させてほしい シングルマザー世帯など、支援が必要な家庭へのきめ細やかな経済的助成を望む	
(2) 高校について	6件
神戸市のように、高校生のバス定期代を無料または補助する制度を導入してほしい	
市外に進学しなくて済むよう、市内の公立高校に特色ある教育を導入してほしい 高校入学時の制服やタブレット購入などの高額な諸経費に対する負担軽減を検討してほしい	
(3) モラルについて	1件
知らない大人に対しても挨拶ができるような、社会生活における態度やモラルの教育を重視してほしい	
(4) その他	14件
「子育てするなら三田」というブランドを維持するため、近隣市に劣らない教育投資を望む	
財政削減ありきではなく、これから市を支える子どもたちへの適切な投資を最優先すべき アンケートの設問が多すぎて負担であるため、項目を絞り精査した調査を行ってほしい	

## 2 教職員アンケート調査 (131件)

1. 子どもの学び、育ちについて	
(1) 不登校やいじめについて	1件
不登校児童に対し、休んだ分を個別に学習保障してほしいという保護者の要求への対応に限界を感じている	
(2) 支援が必要な子ども・家庭について	5件
個別対応が必要な児童・保護者が増加しており、現場の人員数では丁寧な対応ができなくなっている	
増え続ける外国籍児童への支援や、日本語ができない保護者への対応が担任の大きな負担となっている	
支援が必要な子どもへのサポートや保護者理解を、就学前から福祉課を中心に行ってほしい	
2. 教職員、教育環境等について	
(1) 教職員について	49件
① 教職員の資質向上について	5件
② 勤務時間の適正化、多忙解消、増員などについて	32件
③ その他	4件
(2) 学校再編について	15件
① 賛成意見	8件
② 小中一貫校について	4件
③ その他	3件
(3) 学校施設等について	21件
体育館には冷房設備がなく夏場の活動が困難なため、早急に空調設備を設置すべき	
床の歪み、壁の損傷、雨漏りなど、施設の老朽化への対応が予算不足で進んでいない現状を改善してほしい	
バリアフリー化が遅れており、車椅子利用者や怪我をした生徒のためのエレベーター設置が必要	
3. 子どもの教育（学校教育）について	
(1) ICT、オンライン教育について	17件
教職員用タブレットの容量が少なく、アップデートすらできない状況は授業や校務の妨げ	
Wi-Fi環境が不安定で、大規模校では一斉利用ができない等の通信トラブルを解消すべき	
(2) 少人数学級について	3件
1クラスの人数を減らし、教員が子ども一人ひとりに丁寧に向き合える環境を整えてほしい	

(3) その他		10 件
外国語専科 (ALT) の配置格差を是正し、どの学校でも同じ水準の英語教育を受けられるようにしてほしい		
学校間の行事内容の差を平均化し、教職員の負担と教育効果のバランスを考慮すべき		
楽器などの備品が経年劣化しており、予算措置で改善してほしい		
4. 学校・家庭・地域の連携について		
(1) 学校・家庭・地域の連携について		4 件
学校が全てを背負わされている現状を打破するため、家庭や地域の役割分担を明確にする周知を定期的に行うべき		
保護者対応が複雑化・カスハラ化しているため、学校弁護士の配置など職員を守る組織的な取り組みを要望する		
(2) 部活動の地域移行について		2 件
部活動の地域移行について、具体的な推進ビジョンを早期に現場と共有してほしい		
5. その他		
(1) その他		18 件
「子育てするなら三田」の実効性を保つため、教育予算を削減せず、施設整備や教育活動に優先投資すべき		
給食費の無償化よりも、施設の改修や連音のバス代補助など、教育の質を高める予算配分を望む		
異校種間異動を積極的に推進し、教員の資質向上と組織の活性化、教育課程の継続性を図るべき		

### 3 小中学生アンケート調査

1. 学校生活が楽しい理由（問2）	
(1) 友人との交流・人間関係	411 件
友達と休み時間に遊んだり、話をしたりできることが一番の楽しみ	
面白い友達がたくさんいて、毎日笑って過ごせる	
困った時に助けてくれる友達がいるので安心	
(2) 授業・学習内容	94 件
授業がわかりやすく、今まで知らなかった新しいことを学べるのが面白い	
難しい問題が自力で解けたときや、何かが理解できた時が嬉しい	
図工や音楽、体育など、自分の好きなことができる授業がある	
(3) 学校の雰囲気・環境	44 件
クラスがいつも明るくて、賑やかで面白い人がたくさんいる	
先生たちが面白くて優しく、毎日学校に行くのが楽しい	
いじめがなく、みんなが笑顔で助け合って過ごせている	
(4) 部活動・クラブ活動	23 件
部活動で先輩や後輩と喋るのが楽しい	
部活で活躍したり、大会に向けて練習したりするのがやりがい	
自分の興味があるクラブ活動ができるのが嬉しい	
(5) 学校行事・活動	17 件
自然学校や校外学習など、普段の授業ではできない体験が楽しい	
合唱コンクールや体育大会などの行事で、クラスのみんなど協力できるのが楽しい	
お楽しみ会など、自分たちで考えて何かを行う機会が嬉しい	
(6) 休み時間・放課後	17 件
20分休みや昼休みに、友達といっぱい遊べるのが楽しい	
授業の合間に、友達と何気ない雑談をする時間が一番好き	
放課後に友達と遊ぶ約束をしたり、一緒に下校したりするのが楽しみ	
(7) 給食	8 件
給食が美味しくて、毎日のメニューが楽しみ	
みんなと一緒にご飯を食べる時間が賑やかで楽しい	
給食の時間が一番リラックスできる時間	
(8) その他	24 件
毎日が充実していて、暇な時間がなくて楽しい	
家に一人であるよりも、学校に来たほうが楽しいことが多い	
なんとなく楽しいし、特に理由はないが良い場所	
2. 学校生活があまり楽しくない・大変な理由（問2）	
(1) 勉強・授業への不満・困難	62 件
勉強や授業が難しくついていけず、テストの結果などで自信をなくしてしまう	
宿題が多すぎて、自分の自由な時間や習い事との両立が大変	
テストがある日は、プレッシャーで学校に行くのが楽しくない	
(2) 教師・指導への不満	7 件
先生が理不尽に怒ったり、納得のいかない厳しい対応をされたりするのが嫌	
担任の先生の授業が面白くないし、話が長すぎると感じる	
先生が特定の生徒をひいきしたり、差別をしたりしているように見える	

(3) 人間関係の悩み・いじめ	29 件
人と話すことが苦手	
人間関係とかみんなといるのがしんどい いじめや悪口がある	
(4) 規則・環境への不満	24 件
授業延長があつて休み時間が削られたり、帰るのが遅くなるのが嫌	
朝が早くて起きるのがしんどいし、学校まで歩くのが疲れる 校則やルールが厳しすぎて、自由がないと感じる	
(5) その他	30 件
毎日が普通で、特にワクワクすることがない	
なんとなく楽しくないし、家の方が落ち着く 学校に行く理由がよくわからない	
<b>3. 三田市に住み続けたい理由 (問 10-1)</b>	
(1) 自然環境・地域性	95 件
自然が豊かで空気が綺麗だし、静かで落ち着く場所	
田舎すぎず都会すぎなくて、ちょうどいい住みやすさがある 緑が多くて景色が綺麗なので、この環境のまま住み続けたい	
(2) 安心感・治安・安全	33 件
大きな地震や津波などの災害の心配が少なく安全な街	
治安が良くて平和だし、夜も静かなので安心して暮らせる 不審者などが少なく、安全に登下校できるところが良い	
(3) 慣れ・愛着・思い出	44 件
生まれ育った場所で馴染みがあるし、たくさんの思い出があるので離れたくない	
三田市のイベントやお祭りが好きなので、大人になっても参加したい 自分が育ったこの街が大好きなので、これからもいたい	
(4) 人間関係・地域交流	57 件
家族や親戚が近くに住んでいるので、何かあった時に安心	
友達が三田市にたくさんいるので、大人になっても一緒にいたい 近所の人や地域の人たちが優しく、挨拶を返してくれるのが嬉しい	
(5) 利便性・住みやすさ	38 件
お店も多いし、バスや電車での交通も便利で過ごしやすい	
神戸や大阪などの都会にもすぐに行けるので、バランスが良い 生活に必要なものが近くで揃うので、不自由を感じない	
<b>4. 三田市に住み続けたくない・迷う理由 (問 10-1)</b>	
(1) 都会志向・他地域への興味	149 件
都会や海外に行って、三田ではできないような新しい経験してみたい	
東京や大阪など、もっと便利な都会で一人暮らししてみたい 他の市や県がどのような場所なのか、一度外に出て知ってみたい	
(2) 不便さ・施設の不足	24 件
遊ぶ場所や大きなショッピングモール、お店が少なく退屈を感じる	
交通の便が悪く、車がないと移動が不便だと感じる 若者が楽しめる施設をもっと増やしてほしい	

(3) 将来の仕事・進路	24 件
自分のやりたい仕事や将来の夢を叶えるための大学・会社が三田にはないかもしれない	
仕事の都合で、他の県やもっと栄えた場所に行かなければならないと思う 三田市で働ける場所が少ないイメージがある	
(4) その他（消極的な理由）	23 件
ずっと同じ場所にいると飽きるから、違う場所に行ってみたい	
虫が多いのが苦手なので、もっと都会に住みたい 特に理由はないが、なんとなく三田市を出てみたい	

## ■三田市の教育を取り巻く状況・課題整理

三田市の動向		市民・教職員・児童生徒アンケート調査	第1回検討委員会・教育委員ヒアリング	重点となる課題と 対応する施策の方向性(案)
現行計画の体系	取組状況			
<b>基本施策1 「確かな学力」の育成</b>		<p>&lt;市民&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●教育に関する関心事： 「主体的に学ぶ力」(59.5%)、「確かな学力」(44.5%)が高く、自ら課題を解決する力の育成を重視</li> <li>●「読書習慣」が「身につけていない」と感じている回答者が最も多い</li> </ul> <p>&lt;教職員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ICT機器のメリットを感じること： 「情報活用力の向上」(64.3%)「学習意欲の向上」(51.6%)が多い</li> </ul> <p>&lt;児童生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●タブレットの活用： 小5、中2ともに「自分のペースで勉強できる」点がメリット、中2では「自分の考えをまとめるのが楽しい」と感じる割合が小学生より15ポイント少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「なぜ？」を大切にしたSTEAM教育</li> <li>●三田の特色を踏まえた分離型の小中一貫教育</li> <li>●義務教育だけでなく、高校、大学などの進路を描いた教育設計</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎自ら課題を解決する力の育成 ⇒基本施策1- (1)</li> <li>◎学力の向上 ⇒基本施策1- (1)</li> <li>◎小中一貫教育の推進(高校、大学まで進路を描いた設計) ⇒基本施策1- (2)</li> <li>◎ICTを活用した学びの質の向上 ⇒基本施策1- (1)、基本施策8- (4)</li> </ul>
取組1 「学力向上指導改善プラン」の実践	●全国学力・学習状況調査の分析に基づく学力向上指導改善プランの策定と実施			
取組2 授業改善の促進	●「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や探究的な学習の充実を重視した研究			
取組3 個別最適な学びと協働的な学びの充実	●デジタル教科書や共同編集ツールなどの活用による、他者との対話を通じた学びの深化			
取組4 学力向上に向けた補充学習及び発展学習の充実	●地域人材やAIドリルの活用による、個々の習熟度に応じたきめ細かな支援			
取組5 「ひとり学びへの手引き」の活用	●「ひとり学びへの手引き」を活用した自身の学習スタイルの確立			
取組6 理科教育の推進	●博物館等との連携やサイエンスフェスティバルへの出展による子どもの科学的好奇心の醸成			
取組7 読書活動の推進	●電子版読書通帳の作成、紙媒体の読書通帳との併用試行			
取組8 小学校高学年における専科指導・教科担任制の推進	●専門性の高い教員による授業と多面的な児童理解の促進 ●中学年での教科担任制の充実			
取組9 小中一貫した教育の推進	●中学校区ごとの「めざす子ども像」の設定 ●教科書研究による円滑な接続			
取組10 学校園所接続の推進	●県事業の活用や「さんだっ子ががやきカリキュラム」による、幼児期から児童期への学びの連続性の強化			
<b>基本施策2 「豊かな心」の育成</b>		<p>&lt;市民&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●児童生徒の「身につけている」能力や態度は、「いじめや差別・暴力行為を許さない心」「道徳心」が多い</li> <li>●学校に対して望むこと： 「自己肯定感や自尊感情を育むとともに、いじめ・差別を許さない心を育むこと」が多い</li> </ul> <p>&lt;児童生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●児童生徒の好きな教科：「道徳」は下位</li> <li>●いじめを受けたときや見たときに相談相手： 「相談しない」と回答した児童生徒がそれぞれ5.0%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多様な人と生きていくため、他者を尊重し、互いに幸せになるための工夫をできる力の育成</li> <li>●幼少期からユニバーサルデザインの意識を持って伝える力の育成</li> <li>●強みを自信に変え、周りに振り回されない強い心の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎多様な個性を尊重する心の育成 ⇒基本施策2- (2)、基本施策4- (1)</li> <li>◎道徳の授業の魅力向上 ⇒基本施策2- (1)</li> <li>◎家庭・地域での道徳教育の推進 ⇒基本施策2- (1)、基本施策7- (2)</li> <li>◎ユニバーサルデザイン思考の育成 ⇒基本施策2- (2)、基本施策4- (1)</li> <li>◎レジリエンスの育成 ⇒基本施策2- (2)</li> </ul>
取組11 道徳科を要とした道徳教育の推進	●全校での副読本活用と専門家を招いた研修による、道徳科の授業力の向上			
取組12 家庭や地域と連携した道徳教育の推進	●全小中学校での道徳の授業公開による、道徳教育における家庭や地域との連携			
取組13 人権教育の充実	●外国人児童生徒等教育基本方針についての周知 ●部落差別問題等を取り上げた講演会 ●児童生徒支援教員の配置による支援			
取組14 福祉教育の推進	●手話学習や社会福祉協議会等との連携による体験活動を通じた共生の心の育成			
取組15 多文化共生教育の充実	●国際理解教育担当者等への研修の実施や親子デイキャンプの刷新などの多文化理解への取組			
取組16 帰国・外国人児童生徒への支援	●多文化共生サポーターの活用や外国人語学指導員の予算拡充による支援			
<b>基本施策3 「健やかな体」の育成</b>		<p>&lt;市民&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学校や家庭以外に必要な教育や体験活動： 「スポーツに関するもの」が55.5%と最も多い</li> </ul> <p>&lt;児童生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●児童生徒の好きな教科： 小学5年生では「体育」、中学2年生では「保健・体育」が上位となっており、スポーツに対する意識は高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●部活動が地域展開しても、支援が必要な子どもが幅広い機会を得られる環境に</li> <li>●地域展開は市教育委員会と学校が一つの方向に向けて取り組んでいく体制が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎魅力ある食育の推進 ⇒基本施策3- (2)</li> <li>◎地場の農作物に触れる機会の創出 ⇒基本施策3- (2)</li> <li>◎全ての子どもがスポーツに取り組むことができる体制の構築 ⇒基本施策3- (1)</li> <li>◎部活動の地域展開に向けた地域と行政の連携促進 ⇒基本施策3- (1)、基本施策7- (2)</li> </ul>
取組17 市立幼稚園における「しなやかな体と心づくり」の推進	●「幼児期運動指針ガイドブック」を活用した保育や「わくわく体操」、芝生園庭での運動遊びを通じた体づくり			
取組18 体力向上の取組の推進	●専門家による体育の授業を通じた体力・運動能力の向上 ●「さんだっ子元気アップサポーター派遣」の推進			
取組19 レベルの高い競技会等の開催と交流の機会づくり	●元サッカー選手を招いたトークイベント等を通じた、子どもたちが夢や希望をもってスポーツに取り組む意欲の向上			
取組20 スポーツを通じたコミュニケーションの機会づくり	●スポーツクラブ21の支援を通じた、地域住民同士の多世代交流や子どもの健康・体力づくり ●競技者の育成、および部活動の補完や連携			
取組21 地域スポーツ活動を通じたまちづくり	●市民スポーツ教室の種目数および参加者が増加による、スポーツに親しむ機会の充実			
取組22 食育の推進	●栄養教諭による指導や児童生徒の見学受入 ●PTAへの給食や食育の講話			
取組23 地産地消の推進	●三田の特産品や地場野菜の学校給食への活用			

取組 24 学校給食の安全・安心の確保	●調理師への研修やアレルギー献立表の改定をはじめ、施設・人の衛生を含めた学校給食の安全管理			
取組 25 学校給食の異物混入未然防止	●給食の調理提供等に携わる事業者と異物混入などの事案や改善策などの情報共有による、食中毒や異物混入等の事故の未然防止			
取組 26 感染症予防のための能力・態度の育成	●「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」に基づく、感染症の流行状況に応じた感染症対策および学校教育活動の両立			
取組 27 健康教育の充実	●健康教育研修を通じた教職員の資質向上、および正しい理解と行動につながる健康教育			
取組 28 安全教育の充実	●学校園に対する交通安全教室の実施等、家庭・地域と連携した子どもの安全を確保する取組			
取組 29 防災・減災教育の充実	●地域と協力する体験、1.17の集い、副読本の活用を通じた震災の学習等、命を守る防災意識を高める取組			
取組 30 生命（いのち）を大切に する教育の推進	●児童生徒の発達段階に応じた性教育等の「生命を大切にする」安全教育			
<b>基本施策4 一人一人が大切にされる教育の充実</b>				
取組 31 就学前から卒業後までを見通した個別の指導計画等の作成と活用施策	●支援が必要な子どもへの個別の指導計画や教育支援計画の作成 ●「サポートファイル」を活用した一貫した支援	<p>&lt;市民&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●市民が「不安に感じていること」：「いじめや不登校」が46.4%と突出、次点の「主体的に学ぶ力」が28.9%と大きく上回る</li> <li>●「いじめや問題行動の防止に必要なこと」：「保護者が児童生徒を注意深く観察し、状況を把握し指導すること」が52.7%と最も多く、次いで「教職員が児童生徒を注意深く観察し、状況を把握し指導すること」が46.1%と多い</li> <li>●「不登校に対応するために必要なこと」：「児童生徒の居場所や多様な学びの場の確保」が74.4%と突出して多く、次いで「専門家による継続的な相談・支援体制の充実」が47.3%と多い</li> <li>●「特別支援教育の充実に必要なこと」：前回調査同様に「児童生徒の個性や特性に応じた相談体制の充実」が58.2%と最も多い</li> </ul> <p>&lt;教職員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●教育の取組の中で「現在できていると感じるもの」：「特別支援教育」や「生徒指導・相談体制の充実」が多い</li> <li>●「今後充実する必要があるもの」：「特別支援教育」が「教職員の働き方改革」に次いで多い</li> <li>●いじめへの対応・対策について「特に改善が必要なもの」：「いじめ認知後の初期対応」が55.0%と最も多く、次いで「いじめの未然防止」が45.0%と多い</li> <li>●不登校児童への対応・対策で「特にできていないもの」：「不登校理由の把握やその解決に向けた取組」が46.4%と最も多い</li> </ul> <p>&lt;児童生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「悩みや不安なことがあるときの相談相手」：小学5年生では8.9%、中学2年生では8.0%が「相談しない」と回答</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個々を尊重した学びは充実している一方で、他者との交流や互いに知り合う学びが課題</li> <li>●一人ですることには限界があるため、地域でサポートし合う仕組みが必要</li> <li>●サポートルーム事業の費用対効果◎</li> </ul> <p>○DE&amp;Iの視点（多様性、公平性、包摂性の視点）、インクルーシブ教育</p> <p>○テクノロジーを活用した相談モデル</p>	<p>◎障がいのあるなしに関係なく、共に学ぶことで互いに協力し、理解し合う教育の推進 ⇒基本施策4－（1）</p> <p>◎いじめ・不登校対策・対応の充実（相談体制の充実、居場所づくり） ⇒基本施策4－（1）、基本施策4－（2）</p> <p>◎スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーだけでなく、地域と連携した支援の推進 ⇒基本施策4－（2）、基本施策7－（2）、基本施策7－（3）</p> <p>◎気軽に相談可能な環境づくり ⇒基本施策2－（2）、基本施策4－（2）</p>
取組 32 特別支援教育相談の充実	●「特別支援教育サポートセンター」の専任コーディネーターや外部専門員等の専門性を活かした相談			
取組 33 特別支援教育研修の充実	●特別支援学校教職員・特別支援学級担任や特別支援教育支援員等の専門性と指導力の向上に向けた研修			
取組 34 通常の学級における指導・支援の充実	●通常の学級における特別な支援を要する子どもの指導支援 ●特別支援教育指導補助員による教育的支援や通級指導教室における自立に向けた指導			
取組 35 共に生きる教育の推進	●特別支援アシスタントや指導員等の配置および教育的支援 ●小中学校や特別支援学校での交流及び共同学習			
取組 36 生徒指導の充実	●いじめや不登校、問題行動の予防に向けた生徒指導と相談体制の強化、学校園所連携			
取組 37 教育相談の充実	●三田市スクールカウンセラー配置事業の配置校および配置時間の拡充 ●スクールカウンセラーによるカウンセリングや学校への助言			
取組 38 不登校対策の充実	●フリースクールへの通所や家庭でのデジタル技術を活用した学習を指導要録上出席として取り扱うなどの対策			
取組 39 スクールソーシャルワーカーと連携した支援の推進	●スクールソーシャルワーカーの学校職員としての位置付け ●要望に応じたスーパーバイザーによる指導助言および支援を通じた連携			
取組 40 福祉部局と連携した効果的な支援	●福祉的な支援を要する児童生徒への効果的な支援に向けたスクールソーシャルワーカーや福祉部局との連携			
取組 41 就学援助費及び高等学校等入学支援金の支給	●経済的な理由により就学困難な児童生徒の保護者に対する就学援助費の支給および高等学校等入学支援金の支給			

取組 42 遠距離通園・通学費の補助	●市立の幼稚園および小中学校に遠距離通園・通学する園児・児童生徒の保護者に対する通園・通学費の補助			
取組 43 特別支援教育就学奨励費の支給	●市立の小中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対する新入学学用品費、学用品費等の支給			
<b>基本施策5 社会的自立に向けた教育の推進</b>		<市民>	●幼稚園から英語に触れられる環境	◎語学（英語）教育の充実 ⇒基本施策5－（2）
取組 44 キャリア教育推進体制の整備	●キャリア形成と自己実現に向けた、学校における組織的・系統的なキャリア教育推進体制の整備	●「外国の人や異文化とふれあう機会の変化」： 「増えてきた」が前回より0.6ポイント増加し21.0%、「減ってきた」が前回より6.7ポイント減少し21.7%	●「なぜだろう？」と思ったことを追求できる場所や自然環境	◎三田の自然や文化を活かした「三田らしい」学びの充実 ⇒基本施策7－（4）
取組 45 キャリアノート、キャリア・パスポートの活用	●キャリアノート「キャリア・パスポート」を活用した、小学校から高等学校まで切れ目のない指導	●「学校や家庭以外で必要な教育や体験活動」： 「スポーツに関するもの」に次いで「自然体験に関するもの」が49.5%、「語学に関するもの」が46.1%と多い	●都市の生活をしながら、少し行けば自然に触れられる環境（トカイナカ）	◎地域と連携した体験教育の充実 ⇒基本施策7－（2）、基本施策7－（4）
取組 46 キャリア教育に関わる体験活動の充実	●自己の可能性や適性の理解、学習意欲の向上等を目的とした、キャリア教育の核となる体験活動	<児童生徒>	●農作物や農業を通じた体験にも触れられる環境	◎市内の色々な場面、色々な環境に触れることでポテンシャルに気づく機会
取組 47 家庭・地域と連携・協働したキャリア教育の推進	●学校と家庭・地域と連携・協働し、「地域の教育力」を活用したキャリア教育	●大人になっても三田市に住み続けたいと「思う」「どちらかといえばそう思う」と感じている回答者は、小学5年生では74.2%である一方で、中学2年生では55.3%と約20ポイント少ない		
取組 48 環境教育を通じた問題解決能力の育成	●自然と調和のとれた社会の創造に向けた、他者と協働し多様な視点をもとに、よりよい問題解決を図る力の育成			
取組 49 部活動による個性の伸長	●部活動を通じた自己理解・自己管理能力の深化 ●責任感、連帯感の涵養を通じた好ましい人間関係の育成 ●地域と連携した持続可能な部活動運営のための体制整備			
取組 50 国際理解教育推進	●三田市国際交流協会等と連携した様々な言語や文化にふれる機会、および国際的視野に立って持続可能な社会を実現するために必要な資質・能力を育成する教育			
取組 51 外国語（英語）教育の推進	●就学前から中学校までの期間を通じた、発達段階に応じた外国語（英語）教育			
取組 52 伝統や文化に関する教育の推進	●日本の伝統や文化にふれる学習・体験を通じた子どもの興味・関心の醸成 ●国・郷土を愛する心や伝統文化を尊重する態度の育成			
取組 53 「ふるさと学習」の充実	●三田の自然、歴史、文化、偉人を学習材とし、市の学習施設等も活用した体験活動 ●鳥羽市との交流活動を通じた相互理解と友好の精神の育成			
取組 54 地域のよさを活かした体験教育の推進	●兵庫型体験教育を通じた地域理解と主体性の育成、およびふるさと三田を愛する心の育成			
<b>基本施策6 幼児期の教育の充実</b>		<市民>	○幼児教育の価値：遊びを通じた学び、生きる力の基礎の育成	◎生きる基礎となる学びの充実 ⇒基本施策6－（1）
取組 55 市立幼稚園再編の推進	●小規模化が著しい農村地域の幼稚園における、集団規模の適正化に向けた、認定こども園化による再編	●「就学前教育施設に対して望むこと」： 前回調査同様に「決まりやルールなどの規範意識を育成すること」が62.3%と最も多く、次いで「基本的な生活習慣を形成すること」が60.1%と多い	○幼児教育と小学校との架け橋カリキュラム	◎就学前教育と小学校教育の連携と円滑な接続 ⇒基本施策1－（2）、基本施策6－（1）
取組 56 幼児教育に係る教職員研修の充実	●教職員の専門性の向上、および子どもを取り巻く社会的な課題等に対応できる知識の習得に向けた研修	●前項の設問において、「小学校入学後に安心して学校生活を送れるよう、幼稚園・認定こども園・保育所等と小学校が連携すること」が32.4%と、前回調査と比べて最も多い14.7ポイントの増加		
取組 57 市立幼稚園指定研究事業の推進	●教職員の資質向上に向けた研究事業			
取組 58 幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続	●アプローチカリキュラムの活用および合同研修会等を通じた小学校教諭との連携			
取組 59 市立幼稚園の子育て支援の推進	●園庭開放による親子の居場所提供、および講師を招聘した親子イベント			
取組 60 市立幼稚園の預かり保育の充実	●再編対象外の市立幼稚園における段階的な預かり保育			

<b>基本施策7 信頼される学校づくりの推進</b>		<b>&lt;教職員&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「業務において負担やストレスを感じる点」：「ある」「どちらかといえばある」が86.9%と多い</li> <li>●前項の具体的な原因：「業務量が多い」ことが77.3%と最も多い一方で「自身の家庭やプライベートの問題」や「自身の体調の問題」はそれぞれ14.3%、22.7%と少ない</li> <li>●「特に改善が必要だと思う業務」：「人員配置のさらなる充実」が84.8%と最も多く、次いで「事務関係書類の提出の減少・効率化」が70.9%と多い</li> <li>●「ICT機器を活用した保育・授業」：「かなり行っている」「どちらかといえば行っている」が74.2%と多い</li> <li>●「ICT機器を活用した保育・授業のメリットを感じる点」：「情報活用力の向上」が64.3%と最も多く、次いで「学習意欲の向上」が51.6%と多い</li> <li>●ICT機器を活用した教育の推進に必要な支援：「ICT機器の操作に関する研修」が66.7%と最も多く、次いで「保育・授業づくりに関する研修」が48.8%と多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新たな取組を校長の主体性のもと、パイロット校を募る形で実施し、個性のある学校づくりに</li> <li>●学校現場での経験を教育委員会などに伝える機会の設置</li> <li>○教育現場でのベテランと若手をつなぐ人材の重要性</li> <li>○教職員のオーバーワークへの対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎教職員の業務改善および働き方改革⇒基本施策8-(4)</li> <li>◎学校現場と教育委員会の連携推進⇒基本施策8-(3)</li> <li>◎ICT機器を活用した保育・教育の推進に向けた研修の充実⇒基本施策8-(4)</li> </ul>																								
<table border="1"> <tr> <td>取組 61 開かれた学校園づくりの推進</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学校園所運営に関する積極的な情報発信を通じた、教育活動に対する家庭や地域の理解の深化</li> <li>●地域全体で子どもの成長を支える環境づくり</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>取組 62 学校評価を活用した教育活動の改善推進</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●PDCAサイクルに基づく学校評価の実施を通じた教育活動の改善</li> <li>●評価結果の公表による家庭・地域による教育活動への理解の深化</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>取組 63 学校組織運営の改善</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●様々な教育課程への組織的かつ迅速な対応</li> <li>●リスクマネジメントの研修機会や支援体制づくり</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>取組 64 教育委員会と学校の連携強化</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●教育委員会と学校現場との意見交換による取組や課題の共有を通じた、施策への反映や学校組織運営への支援</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>取組 65 教育公務員としての使命感の高揚と倫理観の確立</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●より高い次元での倫理観・職業観の醸成に向けたコンプライアンスや非違行為防止に関する研修</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>取組 66 教育研修所機能の充実</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●教職員の資質・指導力向上に向けた研修、相談</li> <li>●教育研修所機能の充実</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>取組 67 教職員研修の推進</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●教職員のキャリアステージやニーズ、教育課題に応じた、資質・指導力の向上に向けた各種研修会</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>取組 68 教育研究グループ活動の充実</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●児童生徒の思考力・判断力・表現力の育成を明確に意識した授業の開発、指導内容・方法等に関する研究</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>取組 69 ICTを活用した指導力の向上</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●授業力向上に向けたデジタル技術の活用力を高める研修</li> <li>●情報モラルに関する指導力の向上</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>取組 70 勤務時間適正化の推進</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●勤務時間の適正化推進委員会による、各校の業務量の見直しに関する情報共有</li> <li>●公務の負担軽減に向けた取組、対策等</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>取組 71 校務におけるデジタル技術の活用推進</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●校務支援システムの充実を通じた校務の効率化による子どもと向き合う時間の確保、および教職員の負担軽減</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>取組 72 教職員のメンタルヘルスの保持増進</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●教職員の精神・神経系疾患の未然の防止に向けた研修・相談体制の充実、およびストレスチェック</li> </ul> </td> </tr> </table>	取組 61 開かれた学校園づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校園所運営に関する積極的な情報発信を通じた、教育活動に対する家庭や地域の理解の深化</li> <li>●地域全体で子どもの成長を支える環境づくり</li> </ul>	取組 62 学校評価を活用した教育活動の改善推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●PDCAサイクルに基づく学校評価の実施を通じた教育活動の改善</li> <li>●評価結果の公表による家庭・地域による教育活動への理解の深化</li> </ul>	取組 63 学校組織運営の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>●様々な教育課程への組織的かつ迅速な対応</li> <li>●リスクマネジメントの研修機会や支援体制づくり</li> </ul>	取組 64 教育委員会と学校の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育委員会と学校現場との意見交換による取組や課題の共有を通じた、施策への反映や学校組織運営への支援</li> </ul>	取組 65 教育公務員としての使命感の高揚と倫理観の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>●より高い次元での倫理観・職業観の醸成に向けたコンプライアンスや非違行為防止に関する研修</li> </ul>	取組 66 教育研修所機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教職員の資質・指導力向上に向けた研修、相談</li> <li>●教育研修所機能の充実</li> </ul>	取組 67 教職員研修の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教職員のキャリアステージやニーズ、教育課題に応じた、資質・指導力の向上に向けた各種研修会</li> </ul>	取組 68 教育研究グループ活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童生徒の思考力・判断力・表現力の育成を明確に意識した授業の開発、指導内容・方法等に関する研究</li> </ul>	取組 69 ICTを活用した指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業力向上に向けたデジタル技術の活用力を高める研修</li> <li>●情報モラルに関する指導力の向上</li> </ul>	取組 70 勤務時間適正化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●勤務時間の適正化推進委員会による、各校の業務量の見直しに関する情報共有</li> <li>●公務の負担軽減に向けた取組、対策等</li> </ul>	取組 71 校務におけるデジタル技術の活用推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●校務支援システムの充実を通じた校務の効率化による子どもと向き合う時間の確保、および教職員の負担軽減</li> </ul>	取組 72 教職員のメンタルヘルスの保持増進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教職員の精神・神経系疾患の未然の防止に向けた研修・相談体制の充実、およびストレスチェック</li> </ul>	<b>基本施策8 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり</b>	<b>&lt;市民&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深め、子育てをしていく上で大切なこと」：「それぞれの情報を共有すること」が64.3%と最も多く、次いで「学校・家庭・地域をつなぐ人がいること」が45.4%と多い</li> <li>●「学校に対して協力してみたいこと」：「運動会や文化祭等の学校行事の支援」が28.4%と最も多く、次いで「通学路における登下校時の見守り活動」が26.2%と多い</li> <li>●前項について、「特にない」が24.3%と3番目に多い</li> </ul> <b>&lt;教職員&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深め、子育てをしていく上で大切なこと」：市民同様に「それぞれの情報を共有すること」が66.6%と最も多く、次いで「学校・家庭・地域をつなぐ人がいること」が65.1%と多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コミスクや地域資源を活用した学校研究などを通じて、三田の良いところをより良く</li> <li>●より開かれたコミュニティ・スクールの推進、PTAだけではなく地域力も借りられる関係に</li> <li>●地域と連携し、地域ごとの特色を活かした教育課程の作成</li> <li>●「共に学ぶ」で終わらず、学んだことを社会に生かす「共創」</li> <li>●地域の異年齢同士がコラボし、新たな取り組みを共創</li> <li>●子どもの企画を民間企業と連携して商品化することで、子どもと地域に接点を創出</li> <li>○保護者の学校への関わり方の二極化（無関心層、積極参加層）</li> <li>○保護者の状況に応じた学校・地域の関わり</li> <li>○学校支援ボランティアの重要性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎学校・家庭・地域の連携の推進に向けた情報共有体制の構築⇒基本施策7-(1)、基本施策7-(2)、基本施策8-(3)</li> <li>◎学校・家庭・地域をつなぐ仕組みづくり⇒基本施策7-(1)</li> <li>◎より開かれたコミュニティ・スクール⇒基本施策7-(1)</li> <li>◎地域と連携した「共創」の仕組みづくり⇒基本施策7-(2)</li> </ul>
取組 61 開かれた学校園づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校園所運営に関する積極的な情報発信を通じた、教育活動に対する家庭や地域の理解の深化</li> <li>●地域全体で子どもの成長を支える環境づくり</li> </ul>																											
取組 62 学校評価を活用した教育活動の改善推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●PDCAサイクルに基づく学校評価の実施を通じた教育活動の改善</li> <li>●評価結果の公表による家庭・地域による教育活動への理解の深化</li> </ul>																											
取組 63 学校組織運営の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>●様々な教育課程への組織的かつ迅速な対応</li> <li>●リスクマネジメントの研修機会や支援体制づくり</li> </ul>																											
取組 64 教育委員会と学校の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育委員会と学校現場との意見交換による取組や課題の共有を通じた、施策への反映や学校組織運営への支援</li> </ul>																											
取組 65 教育公務員としての使命感の高揚と倫理観の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>●より高い次元での倫理観・職業観の醸成に向けたコンプライアンスや非違行為防止に関する研修</li> </ul>																											
取組 66 教育研修所機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教職員の資質・指導力向上に向けた研修、相談</li> <li>●教育研修所機能の充実</li> </ul>																											
取組 67 教職員研修の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教職員のキャリアステージやニーズ、教育課題に応じた、資質・指導力の向上に向けた各種研修会</li> </ul>																											
取組 68 教育研究グループ活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童生徒の思考力・判断力・表現力の育成を明確に意識した授業の開発、指導内容・方法等に関する研究</li> </ul>																											
取組 69 ICTを活用した指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業力向上に向けたデジタル技術の活用力を高める研修</li> <li>●情報モラルに関する指導力の向上</li> </ul>																											
取組 70 勤務時間適正化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●勤務時間の適正化推進委員会による、各校の業務量の見直しに関する情報共有</li> <li>●公務の負担軽減に向けた取組、対策等</li> </ul>																											
取組 71 校務におけるデジタル技術の活用推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●校務支援システムの充実を通じた校務の効率化による子どもと向き合う時間の確保、および教職員の負担軽減</li> </ul>																											
取組 72 教職員のメンタルヘルスの保持増進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教職員の精神・神経系疾患の未然の防止に向けた研修・相談体制の充実、およびストレスチェック</li> </ul>																											
<table border="1"> <tr> <td>取組 73 学校・家庭・地域の連携による事業の推進</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学校支援ボランティア等の周知による、未来を担う子どもの成長を地域全体で支える活動</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>取組 74 コミュニティ・スクールの充実</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「社会に開かれた教育課程」の実現に向けたコミュニティ・スクール</li> <li>●地域学校協働活動との一体的推進</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>取組 75 PTA活動の支援</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●PTA活動の充実に向けた研修</li> <li>●定期的な情報交換・意見交換などを通じた家庭での子どもたちの心身の健全育成に向けた取組</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>取組 76 地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」の推進</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●豊かな感性や創造性、自ら考え主体的に行動し問題を解決する力の育成</li> <li>●地域で活躍し、貢献することによるふるさと意識の醸成</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>取組 77 子どもたちが安心して過ごせる地域づくりの推進</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域全体での見守り活動や声掛けなどによる、子どもたちが安心して過ごせる地域づくり</li> <li>●インターネットの安全かつ適切な利用に向けた啓発</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>取組 78 余裕教室の活用</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●余裕教室を活用した取組を通じた学校と地域の連携による、良好な地域コミュニティづくり</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>取組 79 新・放課後子ども総合プランの推進</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験活動等を行うための、放課後児童クラブと放課後子ども教の連携</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>取組 80 家庭教育学級の充実</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭教育充実事業を通じた保護者同士が交流の深化</li> <li>●学びや地域参画への機会創出による家庭・地域の教育力の向上</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>取組 81 子育て世帯に対する包括的な支援のための体制強化及び事業の拡充</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●子育て上での悩みや心配事等の養育相談</li> <li>●養育支援を必要とする家庭の早期発見、および必要なサービス、地域リソースへの有機的な接続などの支援</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>取組 82 青少年相談の充実</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学校や関係機関との連携強化による、より適切な対応や健全な心の成長に関する支援</li> </ul> </td> </tr> </table>	取組 73 学校・家庭・地域の連携による事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校支援ボランティア等の周知による、未来を担う子どもの成長を地域全体で支える活動</li> </ul>	取組 74 コミュニティ・スクールの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「社会に開かれた教育課程」の実現に向けたコミュニティ・スクール</li> <li>●地域学校協働活動との一体的推進</li> </ul>	取組 75 PTA活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●PTA活動の充実に向けた研修</li> <li>●定期的な情報交換・意見交換などを通じた家庭での子どもたちの心身の健全育成に向けた取組</li> </ul>	取組 76 地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●豊かな感性や創造性、自ら考え主体的に行動し問題を解決する力の育成</li> <li>●地域で活躍し、貢献することによるふるさと意識の醸成</li> </ul>	取組 77 子どもたちが安心して過ごせる地域づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域全体での見守り活動や声掛けなどによる、子どもたちが安心して過ごせる地域づくり</li> <li>●インターネットの安全かつ適切な利用に向けた啓発</li> </ul>	取組 78 余裕教室の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●余裕教室を活用した取組を通じた学校と地域の連携による、良好な地域コミュニティづくり</li> </ul>	取組 79 新・放課後子ども総合プランの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験活動等を行うための、放課後児童クラブと放課後子ども教の連携</li> </ul>	取組 80 家庭教育学級の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭教育充実事業を通じた保護者同士が交流の深化</li> <li>●学びや地域参画への機会創出による家庭・地域の教育力の向上</li> </ul>	取組 81 子育て世帯に対する包括的な支援のための体制強化及び事業の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子育て上での悩みや心配事等の養育相談</li> <li>●養育支援を必要とする家庭の早期発見、および必要なサービス、地域リソースへの有機的な接続などの支援</li> </ul>	取組 82 青少年相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校や関係機関との連携強化による、より適切な対応や健全な心の成長に関する支援</li> </ul>								
取組 73 学校・家庭・地域の連携による事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校支援ボランティア等の周知による、未来を担う子どもの成長を地域全体で支える活動</li> </ul>																											
取組 74 コミュニティ・スクールの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「社会に開かれた教育課程」の実現に向けたコミュニティ・スクール</li> <li>●地域学校協働活動との一体的推進</li> </ul>																											
取組 75 PTA活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●PTA活動の充実に向けた研修</li> <li>●定期的な情報交換・意見交換などを通じた家庭での子どもたちの心身の健全育成に向けた取組</li> </ul>																											
取組 76 地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●豊かな感性や創造性、自ら考え主体的に行動し問題を解決する力の育成</li> <li>●地域で活躍し、貢献することによるふるさと意識の醸成</li> </ul>																											
取組 77 子どもたちが安心して過ごせる地域づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域全体での見守り活動や声掛けなどによる、子どもたちが安心して過ごせる地域づくり</li> <li>●インターネットの安全かつ適切な利用に向けた啓発</li> </ul>																											
取組 78 余裕教室の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●余裕教室を活用した取組を通じた学校と地域の連携による、良好な地域コミュニティづくり</li> </ul>																											
取組 79 新・放課後子ども総合プランの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験活動等を行うための、放課後児童クラブと放課後子ども教の連携</li> </ul>																											
取組 80 家庭教育学級の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭教育充実事業を通じた保護者同士が交流の深化</li> <li>●学びや地域参画への機会創出による家庭・地域の教育力の向上</li> </ul>																											
取組 81 子育て世帯に対する包括的な支援のための体制強化及び事業の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子育て上での悩みや心配事等の養育相談</li> <li>●養育支援を必要とする家庭の早期発見、および必要なサービス、地域リソースへの有機的な接続などの支援</li> </ul>																											
取組 82 青少年相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校や関係機関との連携強化による、より適切な対応や健全な心の成長に関する支援</li> </ul>																											

<p>取組 83 世代間交流活動の支援</p> <p>取組 84 子どもの人権やいのちの大切さの啓発</p> <p>取組 85 人権に関する研修や学習機会の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「多世代交流館シニア・ユースひろば」における多世代交流に向けた事業の実施および広場の運営</li> <li>●「三田幸せプロジェクト」や「人権さんだ」などを通じて、子どもの自尊感情を育み人権を尊重する研修および啓発</li> <li>●「人権と共生社会を考える市民のつどい」や地域で市民参画の啓発講座等</li> <li>●性的マイノリティ等の新たな課題についての啓発</li> </ul>			
<p><b>基本施策9 子どもと大人の「学び」が循環する関係づくり</b></p>		<p>&lt;市民&gt;</p>	<p>○経験格差（自然体験、モノづくり経験の減少）</p> <p>○三田の強み：豊かな自然、さまざまな社会教育施設が存在</p>	<p>◎地域での子育てや教育に向けた、保護者の学習機会や参加機会の確保 ⇒基本施策7－（3）</p> <p>◎社会教育施設の活用の推進 ⇒基本施策7－（2）、基本施策7－（4）</p>
<p>取組 86 子どもの育ちを支える社会教育施設等の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の社会貢献施設を活用した人材育成の推進</li> <li>●学びの成果が次世代に還元される仕組みづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭での教育で「できている」：「保護者自身の学習機会」「保護者自身の地域社会への参加」が最も少ない</li> </ul>		
<p>取組 87 子どもの読書活動や調べ学習を支援できる人材育成の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●図書館を拠点にした、子どもの読書活動や調べ学習を支援できる人材の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「学校や家庭以外で教育を進めるために必要だと思うこと」：「公民館や博物館、図書館などの社会教育施設の充実」が48.0%と最も多い</li> </ul>		
<p>取組 88 三田の自然を学び、活用するジュニアスタッフの育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●県立有馬富士公園の自然環境を活かし、人と自然の博物館と連携した、自然を学び活用するジュニアスタッフの育成</li> </ul>			
<p>取組 89 「こうみん未来塾」の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもたちの探究心を刺激する体系的で連続した学びの創出</li> <li>●感性や好奇心、創造力を育み、新しい発想をもって活躍できる力の育成</li> </ul>			
<p>取組 90 地域の伝統文化の継承の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の伝統文化の継承および周知を通じた理解の深化によるふるさと意識の醸成</li> </ul>			
<p>取組 91 歴史資料を活用した体験学習の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●文化財施設や学校への出前講座・展示、体験学習による、ふるさと意識や郷土への愛着心を育む機会の創出</li> </ul>			
<p>取組 92 有馬富士自然学習センターを活用した学校教育支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●県立有馬富士公園の豊かな自然環境を活かした学校教育</li> </ul>			
<p>取組 93 図書館を通じた「学び」の支援の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもたちが本に親しむ機会や自主的な学びを行えるよう資料の提供および人的支援</li> <li>●多様な読書の機会づくり</li> </ul>			
<p>取組 94 総合文化センターでの文化芸術の普及・育成の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●文化芸術の鑑賞機会を設けることによる学齢期からの豊かな人間性を育成する機会の創出</li> </ul>			
<p><b>基本施策10 学びを支える環境の整備</b></p>		<p>&lt;市民&gt;</p>	<p>○小規模校の課題：多様な学び、自主性・社会性の育成</p> <p>○小規模校ならではの学年を超えたつながり、地域との連携、学校間共同の取組</p>	<p>◎学校の小規模化に伴う諸課題の解消、学校再編による望ましい教育環境、学習環境の充実 ⇒基本施策8－（1）</p> <p>◎学校の施設・設備の更新による安心して学べる環境の充実 ⇒基本施策8－（2）</p>
<p>取組 95 小中学校再編の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●三田市立学校のあり方に関する基本方針をもとに、児童生徒の教育環境の充実に向けた小中学校の再編</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校再編の取組について期待することや、心配なことなど：「通学距離が長くなるため、安全・安心な通学ができるよう対策が必要」が52.0%と最も多く、次いで「クラス替え等により、新しい友だちをつくる機会が増え、社会性や協調性を育みやすい」が45.1%と多い</li> </ul>		
<p>取組 96 学校施設の整備・充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校施設の老朽化・劣化状況等も総合的に勘案し、バリアフリー化や省エネ、防災等に配慮した計画的な改修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校の施設や設備で改善すべき点：「体育館等への空調設備の設置」「トイレの洋式化や衛生面の改善」が約64%で最も多く、次いで「校舎・園舎全体の老朽化」が47.8%と多い</li> </ul>		
<p>取組 97 学校給食施設等の整備・充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期的なメンテナンスに加え、職員による日常点検の実施を通じた施設設備の保全</li> </ul>	<p>&lt;教職員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「児童生徒が安心して学べる環境に改善が必要だと思うもの」：「施設の老朽化対策・安全対策」が71.4%と最も多く、次いで「教材や備品の充実」が38.8%と多い</li> </ul>		
<p>取組 98 学校園安全体制の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校における災害に備えた施設設備の整備・点検、および避難所となる場合の対応を含めた防災体制の充実</li> <li>●防犯カメラの更新等の安全管理に関する施設面の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校再編の取組について期待することや、心配なことなど：「クラス替え等により、新しい友だちをつくる機会が増え、社会性や協調性を育みやすい」が60.2%と最も多く、次いで「多様な考えや意見を聞いて学び、協力し合う経験が多くなる」が56.8%で多い</li> </ul>		
<p>取組 99 登下校時の安全確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●通学路の安全点検や防犯カメラの設置等による、安全で安心な通学環境の整備</li> <li>●「こども110番の家」等の地域と連携した見守りの推進</li> </ul>	<p>&lt;児童生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学校の施設や設備で改善すべきだと思うこと：小学5年生・中学2年生のともに「体育館への冷房・暖房の設置」が最も多い</li> </ul>		
<p>取組 100 ICT機器やデジタル教材の整備・充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもの学習意欲向上、およびわかりやすい授業づくりに向けたICT機器およびデジタル教材の導入、活用促進</li> </ul>			

## 『第3期計画』の目標に対する実績一覧（令和6年度実績）

「◎」計画3年度目だが既に目標を達成している。  
「○」目標は達成していないが、目標設定時の現状から令和8年度目標に向けての進捗状況が順調である（※目標進捗率90%以上）。  
「△」目標は達成していないが、目標設定時の現状から令和8年度目標に向けての進捗状況が概ね順調である（同70%以上90%未満）。  
「▼」目標を達成しておらず、目標設定時の現状から令和8年度目標に向けての進捗状況が順調に進んでいない（同70%未満）。  
「×」目標は達成しておらず、目標設定時の現状を下回っている。  
「―」調査対象外  
※目標進捗率…令和4年度から令和8年度（最終目標）までの5年間で均等分割して算出

1「確かな学力」の育成	目標設定時の現状	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標（令和8年度）	進捗状況
全国学力・学習状況調査における平均正答率の全国との比較（全国学力・学習状況調査）	(小6)国語+1、算数+3 (中3)国語+3、数学+6 【令和3年度】	(小6)国語+5、算数+6 (中3)国語+5、数学+8	(小6)国語+3、算数+5 (中3)国語+6、数学+7	(小6)国語+1、算数+5 (中3)国語+3、数学+6	すべての教科において、+6ポイント以上	▼
「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）	(小6)80.7% (中3)79.6% 【令和3年度】	(小6)80.3% (中3)78.2%	(小6)82.7% (中3)80.3%	(小6)86.2% (中3)79.5%	(小6)83.0% (中3)82.0%	○
「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）	(小6)71.2% (中3)73.0% 【令和3年度】	(小6)66.5% (中3)65.5%	(小6)69.0% (中3)65.0%	実施なし	(小6)77.0% (中3)79.0%	―
「理科が好き」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）	(小6)86.0% (中3)61.3% 【平成30年度】	(小6)81.7% (中3)64.9%	実施なし	(小6)86.0% (中3)67.1%	(小6)92.0% (中3)65.0%	○
2「豊かな心」の育成	目標設定時の現状	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標（令和8年度）	進捗状況
「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）	(小6)78.7% (中3)84.3% 【令和3年度】	(小6)73.6% (中3)78.0%	(小6)79.2% (中3)87.2%	(小6)85.8% (中3)92.4%	(小6)85.0% (中3)87.0%	◎
「いじめを受けたり、嫌なことがあったりした時相談しない」と答える子どもの割合（「いじめに関する生活アンケート」調査）	(小6)7% (中3)11% 【令和2年度】	(小6)10.3% (中3)9.1%	(小6)10.6% (中3)11.3%	(小6)13.3% (中3)11.0%	(小6)0% (中3)0%	×
「人が困っているときは、進んで助けている」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）	(小6)90.1% (中3)88.8% 【令和3年度】	(小6)91.1% (中3)88.6%	(小6)92.8% (中3)91.4%	(小6)95.2% (中3)92.0%	(小6)92.0% (中3)90.0%	◎
「自分には、よいところがあると思う」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）	(小6)80.7% (中3)76.5% 【令和3年度】	(小6)78.3% (中3)75.1%	(小6)85.8% (中3)81.7%	(小6)87.1% (中3)84.9%	(小6)90.0% (中3)85.0%	○
3「健やかな体」の育成	目標設定時の現状	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標（令和8年度）	進捗状況
「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の肯定的回答の割合（全国体力・運動能力、運動習慣等調査）	(小5)88.6% (中2)83.0% 【令和3年度】	(小5)94.1% (中2)85.6%	(小5)87.5% (中2)83.9%	(小5)90.9% (中2)84.3%	(小5)93.0% (中2)88.0%	○
「朝食を毎日食べている」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）	(小6)96.9% (中3)93.5% 【令和3年度】	(小6)96.5% (中3)92.6%	(小6)95.8% (中3)93.7%	(小6)96.1% (中3)92.3%	(小6)98.0% (中3)96.0%	×
地場野菜使用率	31.3% 【令和3年度】	28.6%	20.4%	25.0%	35.0%	×

4 一人一人が大切にされる教育の充実	目標設定時の現状	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標 (令和8年度)	進捗状況
特別支援教育研修講座受講者数 (年間延べ人数)	131人 【令和2年度】	270人	296人	316人	320人	○
「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	(小6)98.6% (中3)94.6% 【令和3年度】	(小6)97.8% (中3)97.0%	(小6)97.9% (中3)95.8%	(小6)97.6% (中3)97.1%	(小6)100% (中3)100%	▼
不登校児童生徒・保護者が関係機関に相談・支援を受けている割合	—	65.3%	55.9%	66.8%	100%	▼
5 社会的自立に向けた教育の推進	目標設定時の現状	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標 (令和8年度)	進捗状況
「将来の夢や目標を持っている」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	(小6)80.7% (中3)68.6% 【令和3年度】	(小6)79.2% (中3)66.7%	(小6)79.9% (中3)62.7%	(小6)83.3% (中3)64.2%	(小6)90.0% (中3)80.0%	▼
「授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていた」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	(小6)75.3% (中3)70.5% 【令和3年度】	実施なし	実施なし	実施なし	(小6)78.0% (中3)73.0%	—
「今住んでいる地域の行事に参加している」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	(小6)64.8% (中3)49.5% 【令和3年度】	(小6)54.5% (中3)43.4%	(小6)63.9% (中3)40.7%	実施なし	(小6)74.0% (中3)55.0%	—
6 幼児期の教育の充実	目標設定時の現状	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標 (令和8年度)	進捗状況
「幼稚園は子どもの主体性を育み、活動を通して友達と協力したり、粘り強く取り組む力や自己肯定感などを高めている。」と答える保護者の割合 (学校評価アンケート)	84% 【令和2年度】	84.6%	88.8%	89.5%	90%	○
市立幼稚園の預かり保育の実施日の拡充	週3日:2園 週2日:7園 週1日:1園 【令和2年度】	週3日:全園	週3日:全園	週3日:全園	週5日:全園	○
7 信頼される学校づくりの推進	目標設定時の現状	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標 (令和8年度)	進捗状況
学校ホームページの年間アクセス数が家庭数の3倍以上(月平均)の学校数	22校 【令和2年度】	27校	26校	25校	小中特別支援学校全校	△
「研修内容を今後の指導に役立てたい」と回答した教職員の割合 (三田市教育研修所に関するアンケート)	98.6% 【令和3年度】	92.6%	99.2%	91.6%	85%	◎
教育研修所で研修した教職員数(年間延べ人数) ※オンライン研修を含む	年間1,524人 (内オンライン研修931人) 【令和2年度】	年間2,958人 (内オンライン研修1,451人)	年間3,677人 (内オンライン研修1,478人)	年間3,680人 (内オンライン研修1,446人)	年間2,000人	◎
教育研究グループの組織率	全教職員の18.3% 【令和3年度】	18.4%	17.8%	19.9%	全教職員の20%以上	○
「教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画して活用することができる」と回答する教職員の割合 (教職員のICT活用指導力チェックリスト【文部科学省】)	83.4% 【令和2年度】	84.1%	88.7%	92.8%	100%	○
ICT支援員の数	3人 【令和2年度】	3人	3人	5人	7人 (4校に1人)	△
8 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり	目標設定時の現状	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標 (令和8年度)	進捗状況

★学校支援ボランティアの年間延べ活動日数	2,608日 【令和2年度】	4,414日	4,984日	5,175日	4,350日	◎
「来年度以降も、協力したい」と答える事業所の割合 (地域も学ぶ「トライやる・ウィーク」の実施に関するアンケート調査)	91.7% 【令和元年度】	96.2%	97.2%	96.2%	95.0%	◎
★放課後子ども教室の年間延べ開催日数	1,042日 【令和2年度】	1,355日	1,377日	1,401日	2,040日	▼
9 子どもと大人の「学び」が循環する関係づくり	目標設定時の現状	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標 (令和8年度)	進捗状況
★こうみん未来塾探究コースの小中学生の年間修了者数	—	45人	36人	30人	200人	▼
★図書館見学及び移動図書館サービス(定期巡回以外)を利用した小中学校の数	1校 【令和2年度】	2校	3校	6校	7校	○
★学校訪問コンサート(アウトリーチ活動)を利用した小学校	18校 【令和2年度】	19校	19校	20校	小学校全校 (20校)	◎
10 学びを支える環境の整備	目標設定時の現状	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標 (令和8年度)	進捗状況
校舎の洋式便器1基あたりの児童生徒数	(女子)14.4人 (男子)20.8人 【令和3年度】	(女子)12.5人 (男子)19.6人	(女子)11.1人 (男子)17.1人	(女子)10.4人 (男子)15.9人	(女子)10人以下 (男子)20人以下	○
★こども110番の家年度末設置箇所数	882箇所 【令和2年度】	767箇所	767箇所	767箇所	1,040箇所	×
「前年度までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをほぼ毎日使う」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	(小6)10.3% (中3)5.8% 【令和3年度】	(小6)20.5% (中3)12.0%	(小6)22.7% (中3)40.7%	(小6)17.1% (中3)32.5%	小学校・中学校ともに90.0%	▼
学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	(小6)71.1% (中3)64.2% 【令和3年度】	(小6)70.2% (中3)58.3%	(小6)67.8% (中3)60.2%	実施なし	(小6)90.0% (中3)85.0%	—

	基本理念	こども像	基本目標
第1期 【H24】	■子どもの夢と 未来が輝くまち さんだ	■自分が好き、人 が好き、このまち が好き、 夢に向かって歩 むさんだっ子	<u>基本目標1</u> 自ら学び、心豊かに生きる子どもの育成に取り組みます <u>基本目標2</u> 子どもが安全で安心して学べる環境づくり・学校づくりを推進します <u>基本目標3</u> まち(地域)全体で子どもの学びと成長を支えます
第2期 【H29】	■子どもの夢と 未来が輝くまち さんだ	■自分が好き、人 が好き、このまち が好き、 夢に向かって歩 むさんだっ子	<u>基本目標1</u> 未来を創造し、心豊かに生きる子どもの育成に取り組みます <u>基本目標2</u> 安全・安心で魅力ある学校づくりを推進します <u>基本目標3</u> 人をつなぎ、まち(地域)全体で子どもの学びと成長を支えます
第3期 【R4】	■夢を育て、人を はぐくむ学びの まち さんだ	■自分が好き、人 が好き、このまち が好き、 夢に向かって歩 むさんだっ子	<u>基本目標1</u> 「生きる力」を育む教育を推進します <u>基本目標2</u> 魅力ある学校をつくり、家庭・地域と共に子どもの学びを支援します <u>基本目標3</u> 学びを支える環境を整備します
第4期 【R8】	※委員会で検討	※委員会で検討	※委員会で検討 <u>基本目標1</u> (仮)生きる力を育む教育の推進 <u>基本目標2</u> (仮)学校・家庭・地域の連携 <u>基本目標3</u> (仮)学びの環境整備

# 第3期計画体系図

## 基本目標

## 基本施策

## 施策の方向性

## 主な取組

「基本理念」  
夢を育て、人をはぐくむ学びのまち さんだ

「生きる力」を育む教育を推進します

- 1 「確かな学力」の育成
- 2 「豊かな心」の育成
- 3 「健やかな体」の育成
- 4 一人一人が大切にされる教育の充実
- 5 社会的自立に向けた教育の充実
- 6 幼児期の教育の充実

- (1)子どもの可能性を拓く  
資質・能力の育成
- (2)育ちと学びをつなぐ  
教育
- (1)道徳性を育む教育
- (2)「共生」の心を育む教育
- (1)体力・運動能力の向上
- (2)食育・健康教育
- (3)安全・防災教育
- (1)特別支援教育
- (2)生徒指導・相談体制の  
充実
- (3)保護者の経済的負担の  
軽減
- (1)キャリア形成と  
自己実現を図る教育
- (2)グローバル化に  
対応した教育
- (1)生きる力の基礎を育む  
教育

- ・学力向上指導改善プラン  
・ひとり学びへの手引き 等
- ・教科担任制  
・小中一貫教育 等
- ・兵庫県版道徳教育副読本  
・道徳教育推進教師研修会 等
- ・人権教育担当教員等研修会  
・多文化共生サポーター 等
- ・さんだっ子元気アッププログラム  
・「夢」プロジェクト
- ・食物アレルギーチェック用献立  
・ご当地給食 等
- ・交通安全教室  
・防災訓練 等
- ・特別支援教育サポートセンター  
・特別支援教育研修講座 等
- ・あすなろ教室  
・スクールカウンセラー 等
- ・就学援助  
・特別支援教育就学奨励費 等
- ・キャリア教育  
・キャリアノート、パスポート 等
- ・自然学校、トライやる・ウィーク  
・ALT、外国語活動サポーター 等
- ・市立幼稚園再編  
・幼稚園元気アップ共育 等

- 7 信頼される学校づくりの推進
- 8 地域ぐるみで子どもを  
育てる環境づくり
- 9 子どもと大人の「学び」が  
循環する関係づくり

- (1)学校組織力向上
- (2)教職員の資質・  
指導力の向上
- (3)教職員の働き方改革
- (1)学校・家庭・地域の  
連携と協働
- (2)家庭・地域の教育支援
- (1)学習成果を活かす  
仕組みづくり
- (2)多様な学習機会の創出

- ・オープンスクール  
・学校評価 等
- ・教育研修所  
・ITC機器 等
- ・勤務時間適正化  
・メンタルヘルスケア 等
- ・新・放課後子ども総合プラン  
・コミュニティスクール 等
- ・家庭教育充実事業  
・子ども家庭センター 等
- ・社会教育施設  
・ジュニアスタッフ 等
- ・こうみん未来塾  
・有馬富士自然学習センター 等

家庭・地域と共により、  
魅力ある学校をつくり、  
学びを支える  
環境を整備  
します

- 10 学びを支える  
環境の整備

- (1)学校の再編
- (2)安全安心で充実した  
環境の整備

- ・小中学校再編 等
- ・学校施設整備  
・防犯カメラ、子ども110番 等

「めざす子ども像」  
自分が好き、人が好き、  
自分が好き、人が好き、  
このまちが好き、夢に向かって歩むさんだっ子

## 基本目標

## 基本施策

## 施策の方向性

## 【参考】第3期計画での取組例

(仮) 生きる力を育む教育の推進

1 「確かな学力」の育成

(1)子どもの可能性をひろげる資質・能力の育成

・学力向上指導改善プラン  
・総合学習アプリ 等

(2)育ちと学びをつなぐ教育の推進

・教科担任制  
・小中一貫した教育 等

2 「豊かな心」の育成

(1)道徳性を育む教育の推進

・道徳教育 等

(2)「共生」の心を育む教育の推進

・人権、福祉、多文化共生教育 等

3 「健やかな体」の育成

(1)体力・運動能力の向上

・幼稚園でのしなやかな体と心づくり  
・体力・運動能力向上事業 等

(2)食育・健康教育の推進

・食育推進計画 ・ご当地給食  
・薬物等乱用防止教育 等

(3)安全・防災教育の推進

・交通安全教室  
・防災訓練 等

4 一人一人が大切にされる教育の充実

(1)特別支援教育の推進

・個別の教育支援計画  
・特別支援教育相談 等

(2)生徒指導・相談体制の充実

・いじめ、不登校支援 等

(3)学びの機会の保障

・就学援助  
・特別支援教育就学奨励費 等

5 社会的自立に向けた教育の推進

(1)キャリア形成と自己実現を図る教育の推進

・自然学校・トライやる・ウィーク  
・キャリア教育 等

(2)グローバル化に対応した教育の推進

・国際理解教育  
・外国語教育 等

6 幼児期の教育の充実

(1)生きる力の基礎を育む教育の充実

・幼児教育 ・幼稚園の環境整備  
・幼児期と小学校の接続 等

(仮) 学校・家庭・地域の連携

7 地域ぐるみで子どもを育てる基盤づくり

(1)学校・家庭・地域が連携した学校教育の推進

・コミュニティ・スクール  
・学校支援ボランティア 等

(2)学校・家庭・地域の「共創」による学びの環境づくり

・部活動の地域展開  
・図書館等との連携 等

(3)家庭・地域への教育支援

・子ども家庭センター  
・家庭教育学級 等

(4)ふるさと三田から学び、探究心を育む教育の推進

・こうみん未来塾  
・ふるさと学習 等

(仮) 学びの環境整備

8 安全・安心で質の高い学校づくり

(1)魅力と活力ある教育環境づくりの推進

・小中学校の再編 等

(2)安全・安心な学びの環境づくりの推進

・防犯カメラ設置 ・こども110番  
・学校施設整備 等

(3)学校組織力の向上

・オープンスクール  
・学校訪問 ・教育懇談会 等

(4)教職員の働き方改革と資質・指導力の向上

・業務量管理、健康及び福祉の確保  
・ICT機器整備 ・教育研修 等

現行計画の体系(100項目)

「(1)」レベルを「大」とした場合の、主な取組の項目の「中」「小」分類

基本施策1 「確かな学力」の育成		
(1) 子どもの可能性を拓く資質・能力の育成		
小	1	「学力向上指導改善プラン」の実践
小	2	授業改善の促進
中	3	個別最適な学びと協働的な学びの充実
小	4	学力向上に向けた補充学習及び発展学習の充実
小	5	「ひとり学びへの手引き」の活用
小	6	理科教育の推進
小	7	読書活動の推進
(2) 育ちと学びをつなぐ教育の推進		
小	8	小学校高学年における専科指導・教科担任制の推進
中	9	小中一貫した教育の推進
中	10	学校園所接続の推進
基本施策2 「豊かな心」の育成		
(1) 道徳性を育む教育		
小	11	道徳科を要とした道徳教育の推進
中	12	家庭や地域と連携した道徳教育の推進
(2) 「共生」の心を育む教育		
中	13	人権教育の充実
中	14	福祉教育の推進
中	15	多文化共生教育の充実
小	16	帰国・外国人児童生徒への支援
基本施策3 「健やかな体」の育成		
(1) 体力・運動能力の向上		
小	17	市立幼稚園における「しなやかな体と心づくり」の推進
小	18	体力向上の取組の推進
小	19	レベルの高い競技会等の開催と交流の機会づくり
小	20	スポーツを通じたコミュニケーションの機会づくり
小	21	地域スポーツ活動を通じたまちづくり
(2) 食育・健康教育		
中	22	食育の推進
小	23	地産地消の推進
中	24	学校給食の安全・安心の確保
小	25	学校給食の異物混入未然防止
小	26	感染症予防のための能力・態度の育成
中	27	健康教育の充実
(3) 安全・防災教育		
中	28	安全教育の充実
中	29	防災・減災教育の充実
小	30	生命(いのち)を大切にす教育の推進
基本施策4 一人一人が大切にされる教育の充実		
(1) 特別支援教育		
小	31	就学前から卒業後までを見通した個別の指導計画等の作成と活用
中	32	特別支援教育相談の充実
中	33	特別支援教育研修の充実
中	34	通常の学級における指導・支援の充実
中	35	共に生きる教育の推進
(2) 生徒指導・相談体制の充実		
中	36	生徒指導の充実
中	37	教育相談の充実
中	38	不登校対策の充実
中	39	スクールソーシャルワーカーと連携した支援の推進
中	40	福祉部局と連携した効果的な支援
(3) 保護者の経済的負担の軽減		
小	41	就学援助費及び高等学校等入学支援金の支給
小	42	遠距離通園・通学費の補助
小	43	特別支援教育就学奨励費の支給
基本施策5 社会的自立に向けた教育の推進		
(1) キャリア形成と自己実現を図る教育		
中	44	キャリア教育推進体制の整備
小	45	キャリアノート、キャリア・パスポートの活用
中	46	キャリア教育に関わる体験活動の充実
中	47	家庭・地域と連携・協働したキャリア教育の推進
小	48	環境教育を通じた問題解決能力の育成
小	49	部活動による個性の伸長

中項目で整理(48項目)

「中」分類に整理・集約

基本施策1 「確かな学力」の育成		
(1) 子どもの可能性を拓く資質・能力の育成		
中	1	学力向上に向けた授業の改善と学ぶ力の育成
中	2	個別最適な学びと協働的な学びの充実
(2) 育ちと学びをつなぐ教育の推進		
中	3	小中一貫した教育の推進
中	4	学校園所接続の推進
基本施策2 「豊かな心」の育成		
(1) 道徳性を育む教育		
中	5	道徳科を要とした道徳教育の推進
中	6	家庭や地域と連携した道徳教育の推進
(2) 「共生」の心を育む教育		
中	7	人権教育の充実
中	8	福祉教育の推進
中	9	多文化共生教育の充実
基本施策3 「健やかな体」の育成		
(1) 体力・運動能力の向上		
中	10	体力向上に向けた取組の推進
中	11	スポーツを通じた地域が繋がる機会づくり
(2) 食育・健康教育		
中	12	食育の推進
中	13	学校給食の安全・安心の確保
中	14	健康教育の充実
(3) 安全・防災教育		
中	15	安全教育の充実
中	16	防災・減災教育の充実
基本施策4 一人一人が大切にされる教育の充実		
(1) 特別支援教育		
中	17	特別支援教育相談の充実
中	18	特別支援教育研修の充実
中	19	通常の学級における指導・支援の充実
中	20	共に生きる教育の推進
(2) 生徒指導・相談体制の充実		
中	21	生徒指導の充実
中	22	教育相談の充実
中	23	不登校対策の充実
中	24	スクールソーシャルワーカーと連携した支援の推進
中	25	福祉部局と連携した効果的な支援
(3) 保護者の経済的負担の軽減		
中	26	経済的負担の軽減策の充実
基本施策5 社会的自立に向けた教育の推進		
(1) キャリア形成と自己実現を図る教育		
中	27	キャリア教育推進体制の整備
中	28	キャリア教育に関わる体験活動の充実
中	29	家庭・地域と連携・協働したキャリア教育の推進

→34△

→44△

→32△

第4期計画体系図(案)

文言整理、並び替え

基本施策1 「確かな学力」の育成		キーワード
(1) 子どもの可能性をひろげる資質・能力の育成		「舵取る力」、柔軟で豊かな発想力
1	学力向上に向けた授業改善と学ぶ力の育成	STEAM教育、探究
2	個別最適な学びと協働的な学びの推進	
(2) 育ちと学びをつなぐ教育の推進		
3	小中一貫した教育の推進	高校、大学も見据えた一貫教育
4	幼児期と児童期への円滑な接続の推進	
基本施策2 「豊かな心」の育成		
(1) 道徳性を育む教育の推進		
5	道徳教育の推進	
(2) 「共生」の心を育む教育の推進		
6	人権教育の推進	
7	福祉教育の推進	
8	多様な文化を理解し合う教育の推進	
基本施策3 「健やかな体」の育成		
(1) 体力・運動能力の向上		
9	体力・運動能力の向上に向けた取組の推進	
(2) 食育・健康教育の推進		
10	食育の推進	
11	健康教育の推進	
(3) 安全・防災教育の推進		
12	安全教育の推進	
13	防災教育の推進	
基本施策4 一人一人が大切にされる教育の充実		
(1) 特別支援教育の推進		
14	特別支援教育相談の充実	
15	特別支援教育研修の充実	
16	通常の学級等における特別支援教育の推進	ユニバーサルデザイン
17	ちがいを認め合い、共に生きる力を育てる教育	インクルーシブ教育システム
(2) 生徒指導・相談体制の充実		
18	生徒指導の充実	
19	教育相談の推進	
20	不登校対策の推進	サポートルーム
22	福祉部局と連携した効果的な支援	
(3) 学びの機会の保障		
23	経済的負担の軽減策の推進	
基本施策5 社会的自立に向けた教育の推進		
(1) キャリア形成と自己実現を図る教育の推進		
25	キャリア教育推進体制の整備	
26	体験活動を通じたキャリア教育の推進	

(2) グローバル化に対応した教育		
小	50	国際理解教育推進
小	51	外国語(英語)教育の推進
小	52	伝統や文化に関する教育の推進
小	53	「ふるさと学習」の充実
小	54	地域のよさを活かした体験教育の推進
基本施策6 幼児期の教育の充実		
(1) 生きる力の基礎を育む教育		
中	55	市立幼稚園再編の推進
小	56	幼児教育に係る教職員研修の充実
小	57	市立幼稚園指定研究事業の推進
中	58	幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続
中	59	市立幼稚園の子育て支援の推進
小	60	市立幼稚園の預かり保育の充実
基本施策7 信頼される学校づくりの推進		
(1) 学校組織力の向上		
中	61	開かれた学校園所づくりの推進
小	62	学校評価を活用した教育活動の改善推進
中	63	学校組織運営の改善
小	64	教育委員会と学校の連携強化
(2) 教職員の資質・指導力の向上		
小	65	教育公務員としての使命感の高揚と倫理観の確立
中	66	教育研修所機能の充実
小	67	教職員研修の推進
小	68	教育研究グループ活動の充実
小	69	ICTを活用した指導力の向上
(3) 教職員の働き方改革		
小	70	勤務時間適正化の推進
中	71	校務におけるデジタル技術の活用推進
小	72	教職員のメンタルヘルスの保持増進
基本施策8 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり		
(1) 学校・家庭・地域の連携と協働		
中	73	学校・家庭・地域の連携による事業の推進
小	74	コミュニティ・スクールの充実
小	75	PTA活動の支援
小	76	地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」の推進
中	77	子どもたちが安心して過ごせる地域づくりの推進
小	78	余裕教室の活用
小	79	新・放課後子ども総合プランの推進
(2) 家庭・地域の教育支援		
中	80	家庭教育学級の充実
中	81	子育て世帯に対する包括的な支援のための体制強化及び事業の拡充
小	82	青少年相談の充実
小	83	世代間交流活動の支援
中	84	子どもの人権やいのちの大切さの啓発
小	85	人権に関する研修や学習機会の充実
基本施策9 子どもと大人の「学び」が循環する関係づくり		
(1) 学習成果を活かす仕組みづくり		
中	86	子どもの育ちを支える社会教育施設等の活用
小	87	子どもの読書活動や調べ学習を支援できる人材育成の推進
小	88	三田の自然を学び、活用するジュニアスタッフの育成
(2) 多様な学習機会の創出		
小	89	「こうみん未来塾」の推進
小	90	地域の伝統文化の継承の推進
小	91	歴史資料を活用した体験学習の推進
小	92	有馬富士自然学習センターを活用した学校教育支援
小	93	図書館を通じた「学び」の支援の推進
小	94	総合文化センターでの文化芸術の普及・育成の推進
基本施策 10 学びを支える環境の整備		
(1) 学校の再編		
中	95	小中学校再編の推進
(2) 安全安心で充実した環境の整備		
中	96	学校施設の整備・充実
小	97	学校給食施設等の整備・充実
中	98	学校園安全体制の充実
小	99	登下校時の安全確保
小	100	ICT機器やデジタル教材の整備・充実

(2) グローバル化に対応した教育		
中	30	グローバル化に向けた教育の推進
中	31	ふるさと三田の資源を活かした学びの充実
基本施策6 幼児期の教育の充実		
(1) 生きる力の基礎を育む教育		
中	32	幼児期の学びの促進に向けた教育環境の充実
中	33	幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続
中	34	市立幼稚園の教育・子育て支援の充実
基本施策7 信頼される学校づくりの推進		
(1) 学校組織力の向上		
中	35	開かれた学校園所づくりの推進
中	36	学校組織運営の改善
(2) 教職員の資質・指導力の向上		
中	37	教育研修所機能の充実
(3) 教職員の働き方改革		
中	38	教職員が安心して働くことができる環境づくり
基本施策8 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり		
(1) 学校・家庭・地域の連携と協働		
中	39	学校・家庭・地域の連携による事業の推進
中	40	子どもたちが安心して過ごせる地域づくりの推進
(2) 家庭・地域の教育支援		
中	41	家庭教育学級の充実
中	42	子育て世帯に対する包括的な支援のための体制強化及び事業の拡充
中	43	子どもの人権やいのちの大切さの啓発
基本施策9 子どもと大人の「学び」が循環する関係づくり		
(1) 学習成果を活かす仕組みづくり		
中	44	子どもの育ちを支える社会教育施設等の活用
(2) 多様な学習機会の創出		
中	45	ふるさと三田の伝統を通じた学びの推進
基本施策 10 学びを支える環境の整備		
(1) 学校の再編		
中	46	小中学校再編の推進
(2) 安全安心で充実した環境の整備		
中	47	学校施設の整備・充実
中	48	学校園安全体制の充実

→40△

(2) グローバル化に対応した教育の推進		
27	グローバル社会で生き抜く力を育む教育の推進	語学力
基本施策6 幼児期の教育の充実		
(1) 生きる力の基礎を育む教育の充実		
28	幼児期の学びの促進に向けた教育環境の充実	
29	幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続	
30	市立幼稚園の教育・保育・子育て支援の充実	
基本施策7 地域ぐるみで子どもを育てる基盤づくり		
(1) 学校・家庭・地域が連携した学校教育の推進		
31	家庭や地域と連携した学校づくりの推進	地域の教育リソースの活用、コミスクの機能改善
(2) 学校・家庭・地域の「共創」による学びの環境づくり		
32	学校・家庭・地域の連携による学びの環境づくりの推進	共創
33	子どもたちが安心して過ごせる地域づくりの推進	
34	スポーツを通じた地域がつながる機会づくり	部活動の地域展開
35	子どもの育ちを支える社会教育施設等の活用	
(3) 家庭・地域への教育支援		
36	家庭教育学級の充実	
37	子育て世帯に対する支援の強化	
38	子どもの人権やいのちの大切さの啓発	
(4) ふるさと三田から学び、探究心を育む教育の推進		
39	ふるさと三田への愛着・誇りを育む学びの充実	
40	三田の地の利を活かした学びの環境づくり	自然環境、トカイナカ、兵庫五国
基本施策8 安全・安心で質の高い学校づくり		
(1) 魅力と活力ある教育環境づくりの推進		
41	小中学校の再編	学校再編
(2) 安全・安心な学びの環境づくりの推進		
42	学校園施設の整備・充実	
43	学校園安全体制の充実	危機管理研修
44	学校給食の安全・安心の確保	
(3) 学校組織力の向上		
45	開かれた学校園づくりの推進	「目標の共有」と「協働の仕掛け」 学校見学
46	組織的で持続可能な学校運営の推進	学校現場と教育委員会の連携強化
(4) 教職員の働き方改革と資質・指導力の向上		
47	教職員が安心して働くことができる環境づくりの推進	教職員の働き方改革
48	教職員の資質・指導力の向上とデジタル学習基盤の充実	教職員の育成、教育研修所機能の充実